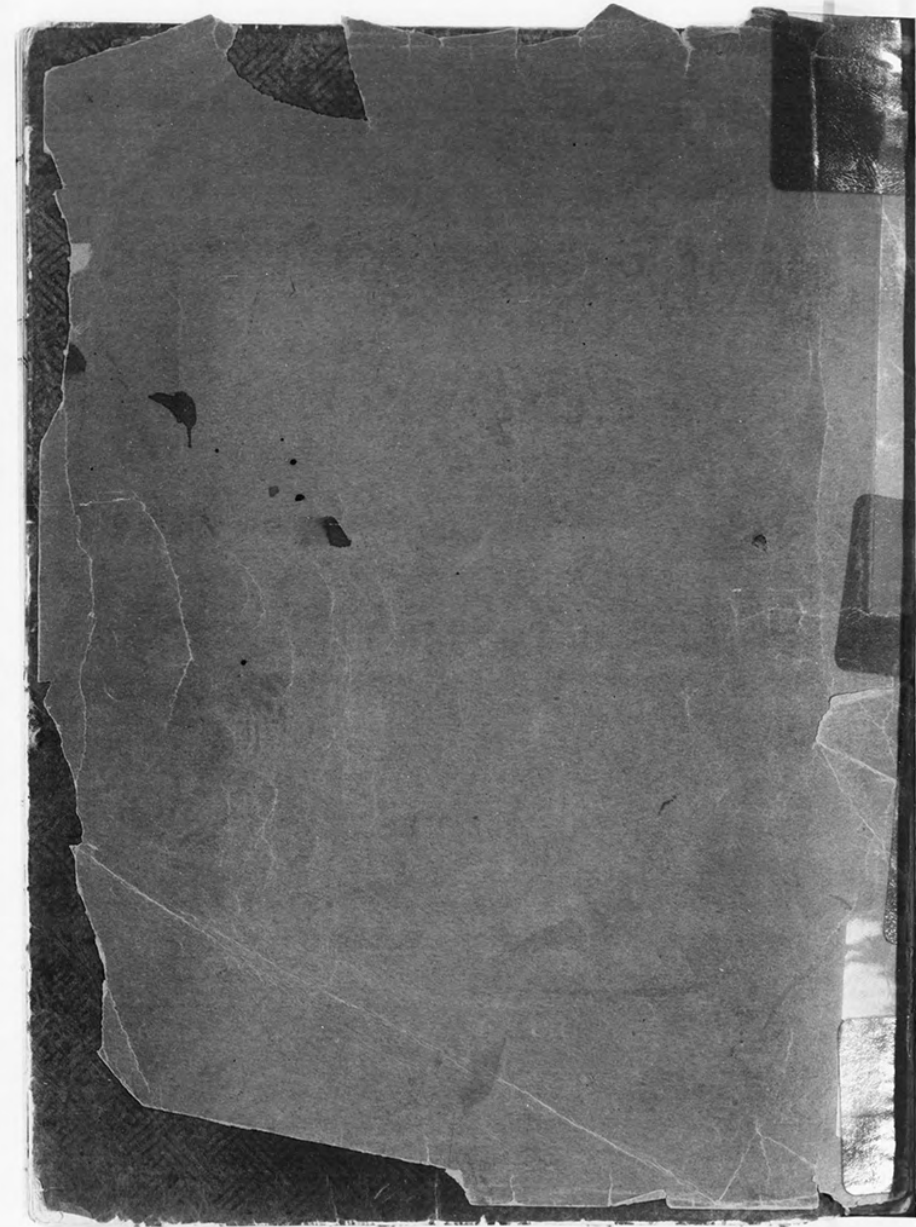
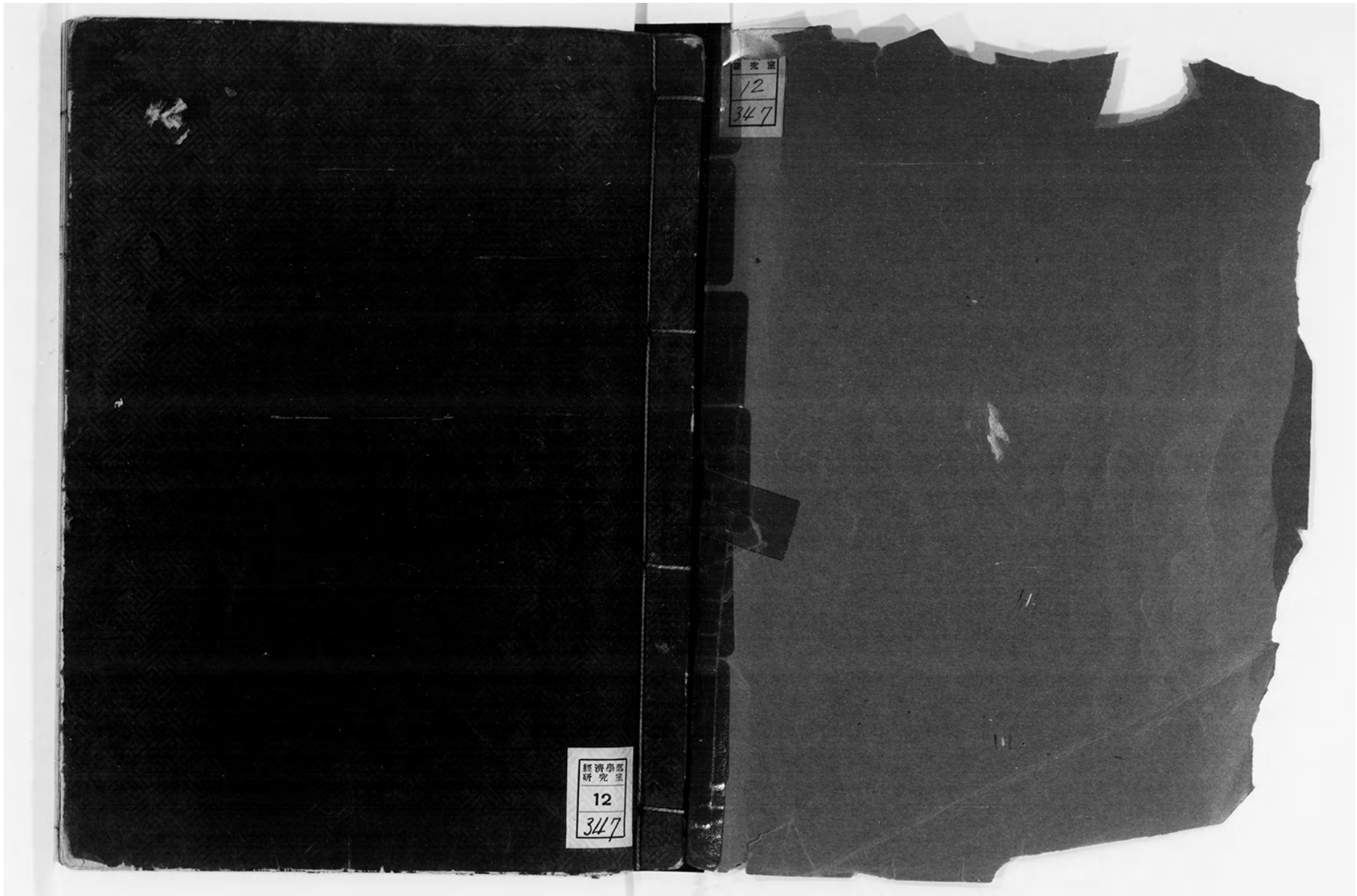


近世・近代社会経済資料（古文書）デジタルアーカイブについて

- (1) このデジタルアーカイブは、東京大学経済学図書館が所蔵する近世・近代社会経済資料のうち、古文書類について順次デジタル化をすすめているものです。
- (2) このデジタルアーカイブの利用に際しては「[東京大学経済学図書館電子資料利用規則](#)」に同意したものとみなされます。
- (3) 印刷物など他媒体への使用については、東京大学経済学図書館までお問合せください。
- (4) 画像は白黒です。文書原本の朱書や裏書、端裏書、裏継目印、前欠・中欠・後欠の部分、丁間に挿入された文書や脱落した付箋については、画像内に「朱書」「裏書」「端裏書」「裏継目印」「前欠」「中欠」「後欠」「挿入文書」「脱落付箋」などの置き札を写し込んであります。また、原本が破損し撮影が不可能な場合や、白紙が何枚も続く場合には、「以下破損につき撮影不能」、「以下〇丁白紙につき撮影省略」などのターゲットで明示してあります。
- (5) 画像の撮影には文字が視認できるよう十分な注意を払っていますが、資料の欠損、変色、褪色等の劣化や、ノド部分の状態によっては、原本の文字が全て写っていないものがあります。これらについては資料の原形を保ちつつ、出来る限りの範囲で撮影したものととして了解下さい。写りの悪い文書については、東京大学経済学部資料室にて、所定の手続きにより原本の閲覧をお願いします。
- (6) 文字間のコントラストの差が大きなものについては、視認性を高めるために、照明を調整して複数回撮影しています。この場合は、同一の丁の画像が複数枚連続して表示されます。
- (7) 本アーカイブに関する質問等については、東京大学経済学部資料室までお問い合わせ下さい。
- (8) 本デジタルアーカイブの一部は、独立行政法人日本学術振興会平成 25 年度科学研究費補助金（研究成果公開促進費）課題番号 258061 の交付を受けて作成しています。





經濟學部
研究室
12
347

經濟學部
研究室
12
347

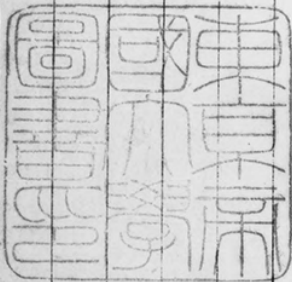
經濟學部
研究室

12

347

臨時調查書

生絲



41667

経済

臨時調查書

生絲
現況
一

十三行

全誌

現況第一

全国ノ部

目次

第一 産額及價額

第二 品位及價額

第三 工場及機械

附工場ニ對スル産額ノ割合

第四 就業及勞働

第五 技術及費用

第六 資本及利子

第七 收支及損益

第八 需用ノ割合

第九 販賣ノ状況

十三行

其一 糖漬販賣

其二 直輸販賣

第十 相庭變詔ノ概況

附録

第一 慰斗絲生皮等其他屑物

其一 生絲ニ對スル産額及價額ノ歩合

其二 産出額ト輸出額トノ割合

第二 織物原料ニ供セシ蚕絲概況

其一 全国図表

其二 府縣別表

生絲

現況第一 全国ノ部

第一 産額及價額ノ増減

全国生絲ノ産額及價額ノ増減此何ヲ照査スルニ年ハ
 一年ニ増殖ノ概アリ去明治十六年ハ産絲高二百八十
 五万二千八百六十九トナリシニ今二十年ハ五百十二万四
 千七百八十八トナリ又價額ハ十六年度一千万四百
 六十九万四千九百五十一圓ナリシニ今二十年度ハ三千
 九十五万三千七百二十圓ニ達セリ即チ斤量ニ於テハ
 二百二十七万四千九百七十五斤價額ニ於テハ一千万六
 百二十六万四千七百六十九圓ノ増加ナリ今明治二十一年
 ノ産額價額ヲ最近五十年ニ對比スレバ右表ノ如シ

自明治十六年
至全廿一年 全国生絲產額價額表

年種 度目	產 額	價 額	百斤平均價額
十六	二百八十五万二千八百六斤	一千万四千九百七十九万五千五百一十圓	五百十五圓
十七	四百四十九万二千三百五斤	二千万四千九百七十九万五千五百一十圓	五百二十一圓
十八	三百七十七万四千九百五斤	一千万七千七百七十三万八千八百五十五圓	五百二十七圓
十九	四百零九万二千五百五斤	二千万九百九十四万五千六百六十三圓	六百五十二圓
二十	五百十二万四千七百八十八斤	三千万九千九百五十六万三千七百三十四圓	六百〇四圓
二十一	四百六十五万五千九百四十四斤	二千万五千四百六十八万八千九百四十四圓	五百四十七圓

備考

産額ハ麻布縣ノ報告ニ依リ調査シタ
リトイハ比價額ハ地方廳ノ報告信憑
スルニ豆ルヘキモノ幾ント稀ナルヲ
以テ其年度海外ニ輸販セシ絲價ノ平
均ヲ基準トシ地方業勢ノ進否ヲ察

十三行

シテ參酌加減シ以テ百斤ニ對スル價
ヲ算出シタルモノナリ

産額ハ實ニ前表ノ如ク毎年多少ノ伸縮アリトイハ
増進ノ勢年ハ一年ヨリ盛ナリ然レトモ内ニ顧ミレバ
茶業ノ方鍼未一迄セズ無慮百万ノ畜業盛ハ各自各己
、運動ヲシ生産品ハ逐々ニシテ海外ノ需用者ヲ滿
足セシムルニ足ラズ加又商榷常ニ彼ニアルヲ以テ一
動一舉外商ノ術中ニ陷ラサレト幾ント稀ナリ外歐
州ノ現況ヲ洞察スレハ學理ヲ實地ニ應用シテ日進月
歩シ輸贏ヲ市場ニ決スルノ術數至ラサル所ナシ最近
ノ報告ニ依レハ佛國ノ學士シヤルドンネー伯ハ植物
纖維質
ヲ以テ蠶絲ノ代用品ヲ低價ニ製造

之テ伊國及東方亞細亞ノ輸入ヲ防遏セントシ稍好果
 ヲ委セントスルノ域ニ達スト其ノ成否如何ハ豫期シ
 難シト雖彼ノ我茶絲ニ競争ヲ試ムルニ厥意敏捷ナル
 以テ見ルヘシ大凡物價ハ需給ノ釣合如何ニヨリテ其
 價直ノ定マルヤ論ヲ俟タズ然ルニ前條ニ陳ルカ如ク
 本邦ノ茶絲ハ漸ク増加ニ海外供給諸國ニ亦率テ成ト
 均ニキ割合ヲ以テ増進セルモノ多ク居レリ供給ノ
 競争更ニ起リナレバ需費能ク之ニ伴ヒ今日ノ盛等ヲ
 見ルニ差レリ然レバ現時ヲ以テ既往ヲ鑑ミルトキハ
 轉顧念ニ堪ヘザルモノアリ今在ニ既往ト現時ノ對照
 表ヲ掲ケテ警戒ヲ喚ブヘシ

年 目	火 斤	量	價	額	百斤價額
自明治元年 至六年 平均	九十九万二千四百五斤		六百一十一万一千七百二圓		六百二十六圓

十三行

自明治元年
至七年
平均

三百二万五千六百九十四斤

一亿七千九百九十五万五千八百八十八圓

五百六十八圓

前表ノ如ク既往ト現時ト對比スレバ斤量ニ於テハ
 二百二万三千六百九十四斤ニ於テハ一億七千九百九十五
 萬五千八百八十八圓ノ價格ニ於テハ五百六十八圓
 ノ低價ナリ是ニ由リテ觀ル時ハ供給ノ增加ハ價格ヲ
 低廉ナラシムルノ實蹟照々トシテ明ナリ故ニ全國生
 絲ノ現況ニ氣ヲ其梗概ヲ順次記述シ改良スヘキノ要
 ヲ知ラシメントス

其二 品位、精粗價類、昂低

我國生絲ノ品位ハ其ノ精巧ナルモノニ至リテハ世界
 ニ有名ナル所傳生絲ノ最良ナルモノニ此スルモ決シ
 テ一歩ヲ譲ラザルモノアリト雖モ其ノ粗細ナルモノ
 多數ナルヲ以テ勢粗絲ニ制セラレ常ニ教養ヲ諫ルニ
 至ル今其價直ノ最高ト最低トヲ比較スレバ其最貴キ
 絨絨生絲ハ百斤八百五十圓ニ至テ最賤シキ提絲ハ百
 斤五百十五圓ナリ僅ニ百斤ニ至テ其差三百四十五圓
 ノ多キニ至レリ其ノ精粗優劣ノ相隔ワルコト其レ斯
 ノ如シ豈亦大ナラズヤ今試ニ麻府縣ノ生絲ヲ七等ニ
 區分シ其價類等級比較表ヲ製スルトキハ概子セノ如
 ワナルヘシ

自明治十六年
至二十一年 一藤三府四十二縣産出生絲價額等級假定比較表

一	茅	二	茅	三	茅	四	茅	五	茅	六	茅	七	茅
長野	野馬	山梨	兵庫	神奈川	長崎	北海道	和歌山	香川	福崎	愛知	宮城	新潟	福井

十三行

自明治十六年
至二十一年 海外輸出生絲數量價格百斤平均相場稅額一覽表

年	量	價	額	百斤平均相場	稅	額
十六	三、二一九七五	一六、八三五	四九七六〇	五、一八	三七五	七四七、六三二
十七	二、〇九八、三九八	一、一〇〇、七、一七二	四九〇	五、二四	五五〇	五〇、一、三五四、〇一〇
十八	二、四七七、二〇三	一、三、〇、三、八七、一、九九〇	五三〇	五五七	五九〇	二、三五八、三三九

十九	二六三五、二九四	一七、三二一、三六一五〇〇	六五七三三六三三七〇〇一八三
二十	三一〇三、五八四	一九、三八〇、〇〇二五八〇	六二二二一七七四六三九七二一〇
二十一	四六七七、七〇八	二五九一六八六〇九三〇	五五四〇三八二二六三八九四一三

十三行

第三 工場ノ負數器械ノ積租

我國ノ製絲業ハ其由來古ク概テ農家ノ比守間仕事ナリシヨリ今尚舊套ヲ採守スルモノ多ク專業者甚乏ニ故ニ蚕ヲ養フモノハ多ク製絲ヲササドルモノナシ然レモ是等ハ旧來ノ身挽又ハ半練ノ旧式ニヨリ僅ニタニ自家用科ノ生絲ヲ製スルニ過キサレモノ其大部分ニ居ルヲ以テ製絲廠ヲ以テ同スルニ反ラズ業已ニ斯ル如シ是ヲ以テ工業者ノ負數及産額ヲ一々己副ニ得ルコト頗ル困難ナリ在今日ノ状態ニテハ到底之ヲ明ナラシムルニ由ナシ故ニ今先ク十人繰以上即エ女十名以上ヲ一所ニ備設ニテ本業ヲ営ムモノニ就キ必ク調査ヲナシ、ナリ

現在工場ノ百キモノヲ舉ケレハ昭和三年六月起業

今ヲ去ル
八十七年 兵庫縣 橋本國 宇栗郡 上野田村ノ 坐繰工場ヲ以
テ第一トス 其次ハ 文政年間 今ヲ去ル 七十一年 許ヨリ 継続セル工
場ニアリ 其一ハ 柄本縣 下野園 下都賀郡 嘉右衛門ノ 坐
繰工場ニシテ 其二ハ 青森縣 陸奥國 中津輕郡 紙漕町ノ
坐繰工場ナリ 又之ニ 並ケテ、ハ 慶應元年 起業 福澤縣
若代國 南會津郡 福采津 所坐繰工場 及 山梨縣 甲斐國 西
山梨郡 山田町ノ 工場ニシテ 計五ヶ所ナリ 其他ハ 皆明
治年間ノ 起業ナリトス 斯クモ 古キモノハ 旧式ニシテ 見
ルハ キモ、幾セント 稀ナリ 明治年間ノ 起業ニ 係ル工場
ト 雖モ 最今年度ノ 創設ニ 係ルモノ 隨テ 良全ナリ 見
ル 今之カ 統計ヲ 掲ケテ 器械ノ 精粗 類別ヲ 明ニスヘシ
名 全 數 二百以上 百以上 五十以上 二十以上 十以上 合計
トシテ 表スル

名	全	數	二百以上	百以上	五十以上	二十以上	十以上	合計
トシテ	表	ス	九	二二	六九	七〇	一七〇	

十三行

ケシ子ル 器械	六	一五	八三	四八一	七六一	一、三四六
坐繰 器械	一七	二一	三三	一四〇	一九八	四〇九
總 計	二三	四五	一一八	六九〇	一、〇二九	一、九二五

前表工場數 一ヶ九百二十五ヶ所ニ對スル 全數 繰湯運
轉繰雙ノ 種別ハ 左ノ 如シ

繰 釜ノ 別	繰 湯ノ 別	運 轉ノ 別	繰 雙ノ 別
蒸 汽	焚 火	汽 力	水 力
直 繰	再 繰		

計	五、六〇六	三、五〇	二、五八八	四、二九五	二、九四四	一、一八二	七
---	-------	------	-------	-------	-------	-------	---

尚カニ 製絲工場 五ヶ所以上ノモノヲ 摘載シテ 地方
工業ノ 大勢ヲ 知ルノ 便ニ 供セシ

- 一 長野縣 四百九十三ヶ所
- 二 岐阜縣 三百二十一ヶ所
- 三 山梨縣 二百〇二ヶ所

四	山形縣	百四十二ヶ町
五	愛知縣	百三十五ヶ町
六	群馬縣	七十七ヶ町
七	富山縣	七十七ヶ町
八	埼玉縣	六十一ヶ町

斯ノ如ク五ヶ所以上ノ工場アリハ僅カ八縣ニ過
 キス夫ノ群馬縣、此ノ産絲類ハ廳亦數ニ冠カレモ各
 々製造ノ余習今尚多ク十人以上一場ニ集リ業ヲ取レ
 モノ少キニ因レリ其他産類ノ多クニテ工場ノ少ナキ
 府縣亦同シ

工場ニ對スル産類ノ割合

我國製絲工場ノ數ハ第一項ニ掲ケタル如ク統計一ヶ
 九百二十五ヶ所ニシテ之ニ對スル繅蚕ノ數ハ五万六

十三行

千〇六十個ナリ此蚕數ヲ一ヶ九百二十五ヶ所ニ配ス
 レハ一ヶ所僅ニ二十七蚕ニ過キス小工場ノ數多ナル
 以テ見レベシ今件ノ蚕數ヲシテ一ヶ年間即三百日繅
 蚕ヲク倫カシラルモ、トナシ即ケ一蚕ヨリ生絲五十
 匁ヲ繅リ得ルモノトスレバ其ノ製産類ハ八十四万九
 百匁目ナリ之ヲ斤量ニ換算スレバ五百二十五万五千
 六百二十五斤トナルヘシ然ルトキハ五百六ヶ六ヶ個
 ノ蚕ニテ最近年度海外輸出ノ生絲ヲ製出シ得ルニ足
 ルヘシ然レニ五万六ヶ六ヶ個ノ蚕ハ第一項ニ述ビ
 ル如キ事實ナレバ此ニテ斯ノ如キ御ヤサス殆ト之
 カ羊類ナリテハ製蚕ニ得ヤルノ量況ナリ因テ其羊類
 ハ各戸製造ノ生絲生絲ヲ一戸ニ蒐集シテ一工場製出
 品ノ体ヲ裝ヒ其織度ト東裝トヲ一齊ナラシメテ

之ヲ海外ノ需用ニ充ツルモノナリ或ハ器械ナルモ
經正シカラズ且其管理法全クヲサレモノ十中七八
台ムルノ現況ニモテ各戸孤立ノ製造ニタテ及ハサル
粗絲ヲ出スモノアリ畢竟如此状態ナルモノハ其原因
種々アリテ存スルモノ、如クアレ比之ヲ要スルニ其
人乏キカ爲メナルヘシ該工場ノ如キハ管理者其人
アリテ其体面全クハク利益期スヘク資本集コレヘク
信用得テ買フヘシ然ルニ目下我國ノ製絲家ハ技術ヲ
知ラス商戦ヲ慮ラス百工ヲ駕馭シテ工場ヲ整理スヘ
キ能力ナク只蚕絲ニ利アリト厚キ其ノ業替ノ困難ナ
ルヲモ問ハス事ニ茲ニ短クモノ日ニ多キヲ加フルニ
似タリ業已ニ是ノ如シ故ニ偶工業ノ改良飛進ヲ熱望
スルモノアルモ時流ノ勢被ニ煙波セラレテ確守其全

十三行

面ヲ維持スルコト頗ル難シ又是ノ如キ思想ヲ有スル
輩ハ概テ資本ニ乏シキ貧困者ナルヲ以テ其素志ヲ伸
フル能ハサルノ状況ナリ夫レ是ノ如シ然ルニ近年各
地ニ製絲工場ノ勃興スルコト月ハ一月ヨリモ多キヲ
加フルノ勢アリテ我邦資本ノ欲乏ナルヲモ顧ミズ振
リニ資本ヲ固着セシメ枯トシテ愧ツル念ナキハ抑何
ノ心ソヤ想ハサルノ甚クシキナリ也ヲ如何ニテ前記
ノ勞働者ヲラシメ工業ノ全体ヲ一新シ得ヘケン乎

第四 乾業、日教労働ノ多寡

乾業日數ハ一ヶ年間三百五日ヲ以テ其最モ多キモノ
 トス其最モ少キモノニ至リテハ僅ニ十五日ナリ概ス
 ルニ我國一ヶ年九百二十五ヶ所ノ工場中百日以上業ヲ
 取ルモノ甚々多カラズ十中、五六ニ過キヤルモノハ
 如シ

工女一人一日、繰絲高ハ其最モ多キモノハ九十八匁ナ
 リト多ク最モ少キモノニ至テハ些ニ四五匁四分ヲ超ハス
 一人一日、働キテ概計スルニ二十五匁内外ノモノ多
 キニ居レリ之ヲ伊佛ニ圖ニ對照スルトキハ我國ノ三
 ハ較彼ノ一二當ルノ割合ナリ然ルニ是カ賃金ハ我ノ
 二ト彼ノ一トノ比例ナレハ我國、繰絲隊ハ人負及ヒ
 機械器具ニ於テ三分ノ二賃金ニ於テ三分ノ一ヲ贅糜

之ヲ漸ク彼ト等シキ製練ヲ得ルノ状況ナリ

十三行

第五 技術ノ巧拙費用ノ多寡

我國本業者ノ技術ハ稍熟セルモノ無キニアラズ雖モ概スルニ十中ノ五六ハ未熟ナルモノナリ故ニ繰繰高ノ少ナキノミナラス織度不整束帳燕雜ニシテ費用却テ多額ニ上レリ其極良繭ヲ以テ粗絲ヲ製シ已レテ損シ他人ヲ益シ遂ニ回利ヲ失フニ至ル柳ス製絲ノ工業ハ機械ニアラスシテ技術ニマリ吾技術者其人ノ能力如何ニ由テ存スルモノナリ是故ニ本業ノ改良ヲ欲スルモノハ第一技術者共者ノ改良ヲ先セヌンハアルベカラサルモノトス
百斤ニ對スル製送入費ハ其最多キモノハ二百四十圓其少キモノハ僅々四十圓ニ過キス是ニ由テ之ヲ觀レハ少キモノハ多キモノ、六倍ナリ何ヲ其差ノ甚

レキモノハ多キモノ、大倍ナリ何ソ其差、甚シキヤ
多キモノモ不當ナリ少キモノモ亦不當ナリ凡ソ事
算ナケレハ立タス況ヤ本業ノ如キ海外輸取、生産物
ニ於テオヤ洗ヤ思ハサルノ甚シキナリ熟ラ者フルニ
此何ニ精巧無類ノ良絲ヲ製スルモ二百四十匁、巨額
ニ達スヘキ筈ナシ如何ニ粗雜ナル太絲ヲ製スルモ四
十匁、方類ニテハ海外ニ輸取スヘキ程度ノ生絲ヲ
作シ得ルコト難シ何リ夫レ計算ノ不當ナル直シケ経
済ノ思想ヲ涵養シ此局ニ當ラシメサルヘカラサルモ
ノトス然レモ本邦ノ全体ニ就キ之カ製造費用ヲ算ス
ルトキハ百匁八十五匁ヨリ九十五匁位、モノ多岐ヲ
占ムル、有様ナリ

十三行

第六 資本、運用利子、昂低

現時ノ情況ニ徴レバ資本豊富ナルモノハ他ノ資本空
乏ナル企業者ニ比スレハ器械ハ自巧ナルモノヲ用ヒ
技術ハ精巧ナルモノヲ役シ毎ニ利潤、多キヲ見ル之
ニ反シ資本、缺乏ナルモノハ器械ハ粗悪ニシテ役ス
ル所ノ職工モ亦未熟ナル者多シ加之ヤス無理業役
ノ資本ヲ運用スルヲ以テ勢高利ナルヲ免レス最近年
度ノ調査ニ據レハ其最高キ資本ノ利子ハ二割ナリ然
レトモ本業流通資本ノ全体ニ就キ其平均ヲ見レハ八
分乃至九分利付ノ資本ヲ用フルモノ多キニ居レリ
元未本業ハ差引元資ニ對スレ一割乃至一割五分以
テ利益、基準ト見做スヘキニ尚シ前陳ノ如キ高利一
割以上ノ資本ヲ用フルカ如クシハ到底銀行其モノ、

労役者タルニ思キサルヘク遂ニハ廢絶スルニ至リシ
 口ニ國利ヲ唱ケルモ身ニ利益ヲクシテ難カ工場ヲ永
 續スヘキ否永續セント欲スルモ之ヲ遂クルコト難カ
 ルヘシ況ヤ我邦金利ノ割底ハ歐洲諸國ニ比シ年九分
 九厘八先ノ高キニ於テオ中(去十九年英佛獨其他諸國
 先ニモテ本邦ノ金利ハ)
 一割六分八厘ナリキ

十三行

第七 収支ノ事實利益ノ計算

収支ノ事實利益ノ計算ヲ明瞭トシムルニハ第一係
 料ノ價值券ニ存資ノ多寡券ニ存資ニ對スル利子ノ割
 合第四券銀ノ多寡長考ノ諸項ヲ詳ニシテ初メ収支
 利益ノ事實ヲ明瞭トシムルニ至ルヘシ故ニ今營業
 ノ算ナレ地方即チ埼玉群馬山梨岐阜福岡ノ五縣六日
 七十六ヶ所ノ工場ニ就テ其地ノ調査ノ遂テタリ其
 調査ニ依リ存價ノ賣トリ對比スルニトキハ五縣ノ平均
 調査ハ三万三百六十圓三十一錢六厘ニシテ稍満足ス
 ハキモノ、此々ナレ比之ヲ六百七十六ヶ所ノ工場ニ
 配スレハ一工場僅ニ四十四圓九十一錢二厘ナリ其
 此ヲ悉クタル益金ニテハ興業費即機械存資ノ償還年
 則金ニモ當ラズ況ヤ余ク利益ヲ享テタル工場ハ三百

八十ニテ所ニシテ其他二百九十四ヶ所ノ工場ハ多ク
 、概純ナルニ於テルカヤ今セニ損益計算表ヲ掲ケテ
 以テ大勢ヲ知ルノ便ニ供フ

埼玉外五縣六百七十六ヶ所製絲工場損益計算表

目次	埼玉	群馬	群馬	山梨	岐阜	福嶋	平均
百斤ノ製糸遊費	七八九三	六六五二四	八四七五四	七八五五〇	九六〇一七	八四九五四	
器械	九七二六八	七〇五五〇	八四八三五	七八五五〇	一〇四六六七	八七一〇四	
座繰	七四三〇八	六五〇五六	七六六〇〇	ナシ	九四〇九五	七七五〇〇	
滿一石ノ價	三二五〇六	三三〇四九	三六二一一	二七〇六二	二八一五三	三一四三二	
利子ノ割合	一三三三	九〇五	八八八	八五一	六四七	八九八	
原價	三九〇五〇	六七〇七八	九九九六四	八九四〇〇	一〇七八〇三	六三六三七	
賣價	三九二一六	七〇九五三	九九一〇九	八五七九七	一〇三六八	六五三三三	
利益	二〇五二九	三三四四四	三三四五五	三六四六一	三三三六六	三三三九九	

十三行

原價對立利益率表

工場	利益	原價	利益率
益	三〇	四七	六三
損	二九	二六	一〇九
散	五九	七三	八〇
内	三〇	四七	六三

第八 内地需用と海外輸販、差金

昭和十六年ヨリ今二十年ニ至ル五ヶ年間我國絹、絲、産額ヲ基本トシ絲量ヲ積算シ其高ヨリ實際海外ニ輸出セシ絲高ヲ扣除スルトキハ内地ニ残存シテ却入力種々、需用ニ充ツヘキ生絲高ノ大体ヲ知ルニ足ルヘシ今其割合ヲ左ニ示スヘシ

年月次	平均一 年糸量	産額對糸量	實際海外輸 出糸量	差引内地需用 額
十六	七、六	五、二五五、七九四	三、一三一、九七五	二、一三三、八一九
十七	七、六	六、〇八二、七九三	二、〇九八、三九八	三、九四三、九五八
十八	七、六	四、一四六、六五〇	二、四九七、二〇三	一、六八九、四四七
十九	七、六	五、八二一、九二三	二、六三五、二九四	三、一六四、六九四
二十	七、六	五、八二一、九二三	三、一〇三、五八四	二、七一八、三三九
平均	七、六	五、三一八、二三〇	二、六八三、二九一	二、六三四、九三九

今坎内地需用トアリシ生絲ノ斤量ヲ日本全國ノ戸數
及人口ニ割當ルトキハ則ち二場クル甲乙二表ノ如ク
ナルナリ

甲号

年度	内国需用額	全国戸數	一戸當り 斤	絲量 目
十六	二、一三三、八一九	七、六四九、〇四八	二七八九	四四六二
十七	三、九八四、三九五	七、六七二、三一二	五九九三	八三〇九
十八	一、六八九、四四七	七、七一〇、二二一	二一九一	三五〇六
十九	二、六四八、六九六	七、七二七、六一〇	三四二八	五四八五
二十	二、七一一、三九三	七、七七〇、九五六	三四九八	五五九七
平均	二、六三四、九三九	七、七〇六、〇二九	三四二〇	五四七二

乙号

十三行

年度	内国需用額	全国人口	一人當り 斤	絲量 目
十六	二、一三三、八一九	三、七〇、一七、三、〇二八	〇五五八	八九二八
十七	三、九八四、三九五	三、七、四五、一、七、六四	一〇三九	一六六二四
十八	一、六八九、四四七	三、七、八六、八、九、八七	〇四三八	七〇〇八
十九	二、六四八、六九六	三、八、一五、一、二、一七	〇六八六	一〇九七六
二十	二、七一一、三九三	三、九、〇六、九、〇、〇七	〇七〇〇	一一二〇〇
平均	二、六三四、九三九	三、七、七九、一、二、六、五五	〇六八四	一〇九四四

前表ニ示ス如ク内国需用額ニ百六十三万四千九百三
十九斤ノ生絲ヲ全國戸數ニ分配スレハ一人十匁〇九匁余トナル今
七分二匁人口ニ配スレハ一人十匁〇九匁余トナル今
減シ一人當リノ生絲即十匁〇九匁ヲ十集スレハ其ノ
量百〇九匁ナリ此生絲ヲ以テ減縮ニ充ツルモノトセ
ハ再集上ニ一割減減ニ割ハ減却スルモノト見做サ、

ルヘカラス然ルトキハ残り七十八分余ナリ假ニ之ヲ
絹布一反ト見積ルトキハ我知人ハ平均十年目ニ絹布
反ツ、留用スルノ割合トナルナリ

第九 販賣ノ情况

市場ハ即チ生産物ノ集点賣買ノ行ハル、所茲ニ於テ
輸贏決スヘク貯蔵欠マレヘシ横濱ハ秋外貿易ノ要港
殊ニ生絲ノ如キハ獨リ秋港ヨリ海外ニ輸出スルノ状
態ナレハ先以秋市場ノ實況ヲ知ラサルヘカラス本港
ハ守政六年開放以降茲ニ四十餘年其間由テ未ル所ノ
練習甚多ク生産者ノ同屋ニ於ケル同屋ノ外商館ニ於
ケル整理正セズンハマルヘカラス又隨テ多キニ
至レリ地方ノ生産者ハ市場ノ事情ニ暗ク又資金乏シ
キヨリ幣同屋ニ制セラレバノ生産物ニ對スル主權ハ
秋港ニ出ツルト同時ニ消滅シ去ルカ如キ趣ヲナスニ
ノ十中ノ七八ニ居レリ又賣上同屋ハ地方生産者カ刻
甚艱難ニテ製出シタル生絲ノ被批販賣ヲ蒙トシテカ

カラ或ハ代底ノ競争ニ眩迷ニ横濱市場アルヲ知りテ
 海外市場アルヲ忘失シ一朝外商買氣ヲ催スレハ忽々
 海外ノ高價ヲ唱ヘテ互ニ賣怯ニ生産者ノ依拠ニ背キ
 其極動モスレハ接会ヲ失ヒテ積貯ヲ生産者ニ負ハシ
 ムルニ至ルカ如キ其例絶ナリ或ハ之ニ反シテ外
 商買氣ヲ控フレハ忽々狼狽シテ荷主ニ投賣ヲ促スカ
 如キ一挙一動外商ノ衝中ニ陥ラサレモ、錢ノ稀ナ
 リ必竟我商人ハ自働ノ力ニ足シク常ニ他働ノ力ニ支
 配セラレ、セ、ナリ生産物而之ニ伴ヒ年々一更ノ價
 値ナク伊件其他ノ産絲ニ支配セラレ、ニ到ル外商ト
 輸贏ヲ決スル市場ノ實況大畧如此内關スレハ生産地
 方、事情前項ニ述ケルカ如シ嘆息セサラント怨スレ
 モ亦得ヘカラサレヘシ

十三行

今之ニ横濱販賣ト欧米直輸トノ手續ヲ叙ヘテ以テ市
 場ノ状況ヲ明ニスヘシ

横濱販賣

横濱ニテ生絲ノ外商ニ販賣セントスル者先ツ各自カ
 信用スル所ノ内商即ケ生絲賣込同屋ニ販賣ノ依拠ス
 ルヲ通例トス尤モ地方生産者正金銀行其他銀行等ハ
 荷為擔ヲ以テ出荷セシ者ハ荷受同屋ニテ荷受スルヲ
 幸トス而シテ大概各同屋ヨリ買本トシテ生絲一ニ推
 一推凡ソ三十銀ニシテ一銀ハ凡ソ二十或ハ數推ヲ同
 屋ニ携ヘ行キテ買ハンコトヲ求ムルヲ通慣トス外商
 ハ一口迄ヲ無驗シテ已シカ望ム所ノ品ニ就キ先其見
 本ト異ナラサレモ、若干アルヤヲ同フ假令ハ五乃至
 十個トセシニ五個ナレハ六百八十弗十個ナレハ七百

布ト云フカ如ク賣買ノ約定略整フニ及ンテ五乃至十
 個ノ荷ハ直ニ外商ニ送ルナリ外商ハ之ヲ倉庫ニ藏
 ヲ電報ヲ以テ絲價ノ動靜如何ヲ本國ニ照會シ其ノ返
 信ニヨリ利益ヲシト思惟スル時ハ前約ヲ破リテ買ハ
 ス之ヲ破談ト云フ又之ニ反シ利益アリト認ムル時ハ
 其絲荷ニ氣ヲ色澤束裝絲質纖度ヲ驗査ス之ヲ辨見ト
 稱フ若シ其絲荷中ノ差アルカ又ハ再繰上功斷著アル
 トキハ忽ケ之ヲ口實トシテ絲價ヲ低減スルヲ恒例ト
 ス又此驗査即ケ辨見ノトキ一個ニ付一拒ヲ撰ヒ一拒
 ノ中一拒凡リ二十兩百斤六十兩ト見命スヲ拒華シ該
 驗用ニ充ツルヲ口實トシタトヒ該驗ヲ行ハサルニ無
 代價ニテ取附ケリ慣例トス然レトキハ本邦最近年度
 ノ輸出額七万個ニ就キテハ五万二千五百圓ニ該當ス

十三行

ル金額直接為主ノ損耗トナルナリ明治二十一年春外
 商ト收儀ノ末二個ニ乾キ一紙ヲ該驗用ニ供スルコト
 ナレリ然レトモ尚キ半額二百六十斤二百五十斤ノ損
 耗不免レサルモノナリ
 尚比外生絲百斤ニ付帶紙結絲ノ量レモ之ヲ凡袋ノ斤量
 ヲ控クシ一ヶ五分ヲ減算ス此損金一個ニ付五圓ト見
 積ルモ七万個ニハ三十五万圓ナリ
 古今海ノ内外ヲ周ハス未嘗テ斯ノ如キ賣買法アルヲ
 聞カス是則外商ノ事横ヲ逞フシ絲價ヲ壟斷スト云フ
 所以ナリ

生絲販賣諸費

一回屋口減原價百分ノ一

内百分ノ三等合金ナリ以テ
口減ハ金ヲ百分ノ七ニ當ル

但一個九貫匁ニ付三百五十圓ト約定スルトキ

八金三日五十錢ナリ

一量目驗査料 之ヲ貫々料ト稱フ

但シ一個九貫ニ付金五十錢

一外高錘持込運賃

但シ一個九貫又ニ付金七錢

一同屋口錢

契子絲八厘價百分ノ二

生皮葎八分 百分ノ三

玉 絲八分 百分ノ一分三厘

一量目檢査料

但シ一個九貫又ニ付二十七錢

一外高錘持込運賃

但シ一個九貫又ニ付金七錢

十三行

明治二十年五月廿一日、横濱生絲商庄生絲入荷概算

但シ在荷ハ廿一年六月一日、調査リ

生絲 別庄名	目次	入荷高	在荷高
誤譯 喜作	一五、二七	四	二、三七五
茂木惣兵衛	一三、九四	七	一、六八六
原 善三郎	九、〇三	一	一、〇一五
同伸會社	六、三五	三	一、〇八七
小野 光景	四、三八	八	四、三七
若尾 幾藏	二、八一	九	一、〇八
飯嶋 商店	一、七六	三	四、六三
扶桑商會	一、三三	六	三、九五
山中商店	一、二〇	八	二、五二
中嶋 藤吉	一、〇七	二	七、五
淺邊 文七	一、〇一	三	九、五

守西徳兵衛	九八一	四八
太宰多三郎	九〇三	三七二
柏木彦太郎	八四二	二〇四
三井物産會社	八四〇	一〇二
山田酌吉	七三八	一〇八
井上好姓	六七二	一六〇
守達商店	五六八	一六一
大河原英次郎	三九〇	二二
小嶋瑞次郎	二八二	二七
小林源左衛門	二三六	五
林商店	一九二	
箕田長次郎	一二八	八四
福嶋	一七	

十三行

貿易商會	七七	
平沼孝藏	四一	二二
上原勝吉	一一	
小川組	一〇	
石垣虎吉	九	
小谷	八	
鈴木宇右衛門	四	
松浦嘉兵衛		
中里力ノ		
各銀行	七九〇	
合計三十四		
合計六万五千六百十二個		
合計九千二百十三個		
但二一個八九貫匁ナリ		

明治三十一年自一月横濱より各国へ生絲輸出表

出向先	采	佛	英	瑞	西	伊	利	合
甲九拾番	四、一八七	五、四〇三		一〇三		一四一		九八三
乙九拾番	四、三二九	二一						四、三五〇
百九拾八番	三、七二五							三、七二五
三番	三四	三、三二〇	二、三二					三、五八六
老番	一、三九五	一、六三九						三、〇三四
九拾五番	二、二二三	二、三四八		二六		一三三		二、七三〇
百九拾壹番	三一	二、二二	三、四三一					二、六八四
百七拾八番	一、九九二							一、九九二
真番		一、九三四						一、九三四
南八拾九番	六、三八三		六一					一、四四四
百七拾七番	三一七	八二七	五〇	一四五		七六		一、四一五

十三行

六拾叁番	一、二八	五〇七	五五五				一、一九〇
百四拾叁番	九四一			二六九		二六九	九四一
乙九拾番	一四六	一八九					八六九
百二拾肆番	一一五	五七四					六八九
二百番	六二五						六二五
百拾壹番	五四七						五四七
三拾六番	四五五						四五五
六番		一七五	一八八				三六三
四拾七番		二三四		二〇		一八	二七二
四拾九番		一四四	四三				一八七
八拾九番	六八	二五					九三
百拾六番		五二					五二
三拾三番			三八				三八

百六拾八番	二五								
四拾八番	四								三六
九拾四番									四
貿易商會		六三二						四〇	六七四
合併会社	二一七五	四五三						二六二八	
總計	二二八四五	一八六九一	三六〇	五六三	六七三	四六、三八〇			

直輸販賣

本邦人カ海外ニ生絲ヲ輸出セシハ明治九年米國ニ輸
 販セシヲ以テ嚆矢トス佛國ニ直輸セシハ明治十三年
 ナリキ當時ハ貿易商會同伴會社技業商會等アリテ之
 ヲ業トセシモ今日ハ只一、同伴會社アリテ存スルノ

十三行

之故ニ該社並輸ノ手續ヲ老シ記シ内外販賣得々如何
 ヲ探知スルノ便ニ供フ

各地方荷主ヨリ直輸同屋ハ荷物ヲ送達スルトキハ地
 元送状ト照合シテ之ヲ受領シ其荷主ノ意見ニ従ヒ米
 佛等ハ輸出ヲ取計ヲモ、トス尤モ輸出スルキ生絲ハ
 同屋ニテ一及之ヲ検査シテ不同ノモノアルトキハ同
 屋見込ヲ以テ造リ煉へ又ハ除去シ或ハ断然之カ直輸
 ヲ辦絶スルコトアリ而シテ右検査ヲ了リタルモノハ
 芽級織度を得明細ニ仕譯シ起元、仕譯書ヲ附シテ賣
 先送券ヲ製シ荷物ト共ニ米又ハ佛等ノ支店ニ向テ輸
 出スルナリ

海外為替取組ノ方法ハ其、同屋ニテ換漢ノ時價ニ準
 之荷物ノ原價ヲ定メ荷主氏於印量券ヲ明記シ之ヲ正

金銀行ニ出ス同行ハ検査算ヲシテ其同屋ノ倉庫ニ付
 其品質ヲ検査シ若シ同屋ニテ是ノタル原價不當ト認
 ハルトキハ其原價ヲ増減ス而シテ原價已ニ定マルト
 キハ輸出見積算トシテ每一俵ニ五十弗(米佛共)加ヘ
 合計ノ八割五分ヲ為揚高トシ之ヲ海外為換金看相携
 ヲ以テ米ナリ佛ナリノ貨幣ニ換算シ為換書金額ト其
 訖及荷物品目書船積証書ヲ添ヘ正金銀行ニ出シテ為
 換金額ヲ受取ルモノトス又海外同屋支店ニテハ外國
 貨幣ニテ正金銀行外國支店へ為換金ヲ送附シ其荷物
 ヲ受取賣却ノ手續ヲ為スモノナリ

十三行

米佛兩國輸出入受拂勘定表

種目	名	米	佛	國
輸出税	正和百斤舟銀貨廿五弗五厘	米國ニ全シ		
荷造費	本造一俵一圓四十九錢 上造一俵七十錢	本造一俵一圓八十錢		
持込持出運賃	一俵 拾錢	米國ニ全シ		
為換證印紙	香港金高 五百圓以上 十五錢 河内積出ノ多ク貨房ニヨリ一俵一圓 開通社手数料 千圓以上 十五錢 及船積入費 カレトモ大凡六拾錢	米國ニ全シ		
領事免狀	荷物二百斤檢印料トシ銀貨幣三三仙	無シ		
匯	貨 橫濱ヲ紐育迄皆鐵幣五斤金年割 橫濱ヨリ星野迄鐵幣五斤金年割			

次ニ輸送ノ荷物賣却ノ際ハ荷主ノ求メ或ハ本支店ノ
 間ニ於テ電信ヲ以テ照會スルコトアリ又ハ依頼ニ應
 ジ時域ヲ見討ヒ賣捌クコトアリ米國ノ近賣ハ凡ソ百

朱書

申ヲ以テ通慣トス十日以上六ヶ月間ヲ通何トス佛國
ハ凡ソ百日ヲ以テ通慣トス故ニ買人ヨリ買取証即ケ
身札ヲ得レハ直ニ身札ヲ刺引シ速カニ回金スルコト
ニ注意ス如何トナレハ可一買人ノ破産者ニ違ハレ荷
キニ損失ナキモ同座ノ買據ヲ免レサレヲ以テナリ
文症ニテ費上代金ヲ得タルトキハ老ノ費上諸費用悉
換充全及利子ノ不足等ヲ差引本座ノ勘定書ヲ送ル
本座是ニ由リテ速ニ所主ニ決算スルモノナリ

采買費上諸費用

- 一 從價費 件買口銭 同座口銭 保証料 佛買口銭 同座口銭 保証料 賣上高ノ五分
- 一 從量費 倉敷 荷造直ニ人支 行車 日方改費 共一付ニ付金三仙

佛國賣上費用

- 一 件次口銭 賣上高ノ五厘

十三行

- 一 海上保險料 原價及輸出見積費用合高ノ凡ソ一分トス
- 一 藏敷料 諸賦佛百基ニ付三月佛貨一法廿五參トス
- 一 火災保險料 希價ノ法ニ付一ヶ月佛貨廿參
- 一 荷物取扱費 一依并四法
- 一 細太紙驗費 一依ニ付四法但シ時ニヨリ有無アリ
- 一 乾濕検査費 佛百基ニ付佛貨六法トス
- 一 坪量費 今 五下參トス
- 一 電信料 賣上高ノ五分ノ一
- 一 賣上口銭 賣上高ノ三分

第十 相庭変動の概況

一 明治十六年 西曆一八八三年 六月七日 佛國養蚕ノ景況ア
 ア、ト、愛報アリ 今月廿四日 新絲ノ賣買アリ 提絲
 相場五百六十元 七月廿三日 之ヲ最高トス 最低ハ
 四百二十元 一五二五元 本年ハ 欧州絹物ノ景況ア
 ク漸々相場下振ス 加フルニ 報貨ノ変動非常ナリシ
 ヲリ 往々産ヲ傾リルモノアリ 然レトモ 支那生絲或
 今カ減方ニタルヲ以テ 下等品ハ 劇念ニ 價値ヲ落サ
 ス 十二月ニ至リ方ニク 騰貴セリ

一 明治十七年 西曆一八八四年 五月上旬 清國養蚕バブ
 説アリ 提絲ノ相場五百元 四月廿五日 七月ニ至リ 清
 佛戦争起リ 欧州市場ハ 却テ 諸國生絲停滯ノ結果ヲ
 顯ハセリ 提絲相場四百元 四月廿六日 之ヲ最低トス

十三行

本年ハ清佛、葛藤ト各國吾界一般ノ不景氣ト歎キ
 ノ用意トニヨリ如破上ノ全國節儉ヲ志スルモノ
 ノ如ク流行ハ下等爲物ニ傾キ相場次第ニ下落セリ
 一明治十八年西曆一八八五年二月河清兩國養蚕上作ノ報
 アリ三月下旬アソガニスタン占領ノ件ヨリ英露二
 國ノ紛擾トナリ歐洲全般商業不景氣現線ノ相場三
 百三十五弗即三百五十九以下ニ下レリ甚甚シキニ至
 リテハ現線取引ナシ是ヲ開港以來相場下落ノ極点
 トス十月下旬ニ至リ伊國生絲商見込買ヲナスモノ
 アリ現線歐洲ハ現線最低点ニ達シタルト在府ノ方
 救ナリシトニヨリ十一月初旬ヨリ一時ニ騰貴シ現
 線相場四百九十弗七月許ニ昂レリ本年終ノ際ハ横
 浜港在府五十六日毎個ナリキ

十三行

一明治十九年西曆一八八六年一月ヨリ二月ニ涉リ旧臘ノ
 相場ヲ維持シ現線五百九十弗マテニ上レリ六月十
 六日新線初取引アリシカ其際ハ漸次下向キノ市況
 ニテ現線相場四百八十弗之ヲ本年ノ最低トス六月
 下旬伊國養蚕ノ説アリ又支那絲減少ノ凡聞アリ方
 シテ好況ヲ呈ハシ八月下旬外國秀壞米價急落七十
 二弗二分ノ一ノ低點ニ下レリ十月上旬ニ至リ歐洲
 及亞采利加市場好況ノ報アリテ現線ノ最高六百五
 十四五弗ニ騰貴セリ迄ニテ十一月ニ入り市況多救
 ノ取引アリ本年ノ現線ハ近年稀ナル高價ナリシカ
 内商ノ賣懐ニト産額ノ増加ト内地ノ不景氣トニヨ
 リ又尙多ク二万二千四百毎個ノ餘河アリテ年ヲ越
 セリ現年新線ノ際ハ横浜港ノ在府ハ三十三日毎個

ニ過キヤル僅々タル救ナリキ

一明治二十年西曆八月十八年一月前年ノ相場ヲ稱シ維持
シ得テ提絲六百二十弗ノ高直ナリシニ二月ニ入り
独佛穀米ノ價アリ漸次下向キ四月上旬ニ至リ外國
為換変動米國卷着七十二弗四分ノ之ノ低矣ニ達セ
リ五月三十日電報伊佛卷況ヨロシ六月二十三日新
絲ノ初取引ハ四百八十弗ナリキ之ヲ本年ノ最低ト
ス七月五日伊國養蚕一割二分ノ減量ナリトノ電報
アリ又八月中旬佛國ニ投機賣買ヲナスモノアリト
ノ報アリテ一時盛況ヲ表ハセリ提絲ノ相場五日ハ
十八弗ニ騰貴ス夫ヨリ漸次下向キ十二月ヨリ翌年
一年ノ始ニ漲リ米國市場ニ安値先賣ヲ為スモノア
リトノ報導アリテ亦茂振ハス

十三行

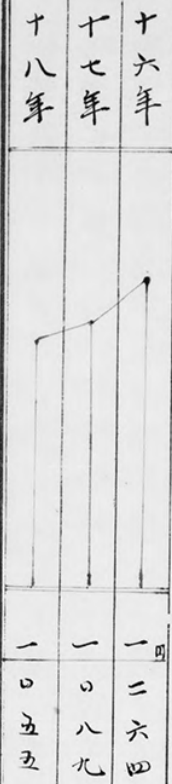
此年新絲ノ際在荷ハ一萬二千五個ノ多額ナリ

一明治廿一年西曆八月十八年八月頭ヨリ引續キ亦況振ハス
三月中旬独逸皇帝崩御ノ報計ニ接ス五月下旬ニ至
リ伊佛養蚕量作ノ電報アリ又同時ニ外國為換米國
卷着七十二弗二分ノ一ニ下レリ六月二十日新絲ノ
初取引提絲ノ相場四百五十弗ナリ今月下旬為換卷
蚕二割ヲ減ストノ報アリ次テ七月下旬佛國市場ニ
思惑賣買ヲ為スモノ起リ亜細亞生絲上景氣ナリト
ノ電報アリ忽ケテ五十弗許リノ騰貴ヲ示シ提絲ノ相
場五百弗トナレリ漸次下落十月下旬ニ至リテハ四
百四十弗ニ下降セリ之ヲ本年ノ最低トナス此際英
國倫敦ニ思惑商内ヲナスモノ現ハレタリトノ報ニ
接ス此ノ時ニ至リ外商中百九十三番羅士多教ノ買

入ラ為セリ為メニ漸次市況ヲ弛緩ニ向ハシナタリ
 十二月ニ至リ又投機買入再燃ノ報アリテ各種貨ニ
 買進ミタリ為ニ相場ハ一時ニ昇騰シテ五日二十弗
 ニ至レリ又ワ本年ノ最高トス坎年新絲ノ際ハ在河
 八千四百個ナリ

因ニ説ス明治十六年ヨリ今十八年ニ至ルニ三年
 間ハ銀紙ノ差額尠表ノ如クシテ貿易上ノ困難
 甚クシカリシカ今十九年ニ至リ兌換紙幣ノ制全
 ク成就シ銀紙ノ差ナキニ至レリ

自明治十六年
 至今十八年洋銀相場高低表



十三行

本表ノ相場ハ大藏省出納局ニ就キテ調査シタル
 毎年度ノ平均相場ナリ

生絲并ニ附属品輸出高年度比較

年度	其年七月ヨリ 相対年 前年	欧州	米	回	欧米合計高	附属品
明治七年		一、二九四一			一、二九四一	
八年		一、三五九一			一、三五九一	
九年		二、一〇六七	一五〇		二、一、三、一七	一〇、三、三四
十年		二、〇、六一三	一、四一一		二、一、〇、二、四	一、三、〇、三七
十一年		一、六、〇五七	三、三〇〇		一、九、三、五七	一、四、九、五九
十二年		一、三、七三二	五、一七五		一、七、八、九七	二、一、五、一二
十三年		一、六、九六三	五、三三七		二、二、三、三九	二、一、八、一二

十四年	一四、七四五	七、〇二〇	二一、七七六	二六、三五五
十五年	一九、一四五	九、五八九	二八、七三四	二五、四八〇
十六年	二〇、一二四	九、七八三	二九、九〇七	二三、九一六
十七年	一四、三六〇	一、一四三	二五、四〇三	二二、四八七
十八年	一〇、八五〇	一五、〇三四	二五、八八四	二五、七〇六
十九年	一三、三六九	一四、〇〇二	二六、三七〇	二七、四九一
二十年	一七、九九四	二〇、九六四	三八、九五八	二八、七八五

十三行

生絲附録

第一 懸斗絲生皮等其 他

明治十六年ヨリ今ニ十一等ニ至ル六ヶ年間全国産出
 スル所ノ懸斗絲生皮等其 他肩物ノ總額亦亦昂ル報及
 價額毎年八月ヨリ十二月ニ至ル五ヶ月間若懸斗花
 場ニ平均相ハ生絲ト共ニ年々増強ノ勢アリ今十六年
 度ト廿一年度トヲ對照スレハ數量ニ於テハ三十二万
 六百九十斤分ニ劇ニ價額ニ於テハ七十五万八千四百
 十六圓分ニ劇ニ増加セリ
 元來懸斗絲生皮等ノ此キハ生絲ノ製造上ヨリ生スル
 屑物ナルヲ以テ其多寡ハ固ヨリ本業ノ盛否ニ隨ヒ増
 減アルヤ論ヲ俟タズト雖モ又華蘭即銀迷素品ノ買入
 下製絲業ノ巧拙トハ更ニ甚シキ影響ヲ及ボスヲ以テ

養蚕業ノ豊歉ト製絲業ノ巧拙如何ヲ知ルノ一助ヲ
 与メカ爲メノ生絲産額ニ對スル慰斗絲生皮等ノ産額及
 ヒ價額ノ歩合ヲ尤ニ示スヘシ

生絲ニ對スル慰斗絲生皮等産額歩合一覽表

年次	生絲産額	慰斗絲産額	生皮等其産額	生絲ニ對スル慰斗絲歩合	生皮等其産額ニ對スル慰斗絲歩合	慰斗絲ニ對スル生皮等歩合
十六	二八、五二八〇文	三、五八三九四	五、七八一八九	一、六〇	二、〇五	三、六五
十七	四、四九三、三五六	五、〇〇、一〇八	五、六九、六五二	一、一一	一、二五	二、三二
十八	三、一四七、九三五	四、七〇、五四一	三、六〇、一五九	一、四八	一、一三	二、六一
十九	四、五九二、五三五	七、三八、〇〇七	三、七九、九六一	一、六一	八、二	二、四三
二十	五、一三四、七八八	八、八八、三三二	四、八五、九〇八	一、七三	九、五	二、七八
二十一	四、六五五、九四四	七、六二、一一一	四、九六、一六八	一、六三	一〇、七	二、七〇
平均	四、四八八、八九一	六、一九、三九七	四、七八、〇〇六	一、五三	一、二一	二、七四

十三行

生絲價額ニ對スル慰斗絲生皮等價額歩合一覽表

年次	生絲價額	慰斗絲價額	生皮等其價額	生絲ニ對スル慰斗絲價額歩合	生皮等其價額ニ對スル慰斗絲價額歩合	慰斗絲ニ對スル生皮等價額歩合
十六	一四、六九一、九五二	四、三七、三四〇	四、七九、九九七	三、七	四、一	七、八
十七	三、三四〇、五一七五	六、〇五、一三一	四、四三、七九九	二、六	一九	四、五
十八	一、七三三、一八五五	四、八四、三五七	二、三六、九〇〇	二、九	一、四	四、三
十九	二、九、九四三、二二三	一、〇三九、一五一	四、〇三、七五九	三、八	一、三	五、一
二十	三、〇、九五三、七二〇	一、三四、二三五	五、一五、〇三三	四、三	一、五	五、八
二十一	二、五四六、八、〇一四	一、一、四五、〇四	五、一、二〇、五三	四、六	二、〇	六、六
平均	二、三五三、三、三三〇	六、六〇、三、一六	四、二九、七四〇	三、七	二、〇	五、七

右ニ表ニ因リテ見レハ肩物ノ最多キハ明治十六年ニ
 シテ三割六分五厘其最少キハ十七年ニシテ二割三分
 七厘ナリ又前六ヶ年間ヲ通算スルトキハ二割七分四
 厘ニシテ生絲百匁ヲ製造シ得ルニハ肩物二十七匁四

分チ生スルノ割合トナルカ也シ
 價額ハ尙給、如何ニヨリ或ハ生絲ノ價額ニ俾ハサル
 フトアリト雖モ概子之カ昂低ラ一ニセリ今生絲ニ對
 スル英金ヲ照査スルニ其最昂キハ明治十六年ニシテ
 七分八厘最低キハ十八年ニシテ四分三厘ナリ又前六
 ケ年ヲ通算スルトキハ五分七厘ニシテ例セハ生絲老
 固ニ對シ肩物五錢七厘ナリカ也シ
 目下各製絲工場ノ實況ニ徴スレハ應年絲生皮芽、也
 キ肩物ハ生絲數量ノ三割五分可至四割五分ヲ占ム然
 ルニ地方廳ノ統計ニ因リトキハ前記ノ如クニシテ其
 割合僅ニ二割七分四厘ナリ想フニ地方廳ノ統計ハ生
 絲ニハ較ニ密ナルモ應年絲生皮芽ノ如キ肩物ニ粗ナ
 ルノ憾ナキ能ハサルナリ

十三行

其二 海外輸出ノ數量ト内地產出ノ額トノ割合

年度	海外輸出數量	内地產出額	差引過剩額
十六	二、四五四、〇一四斤	九、三六五、八三斤	一、五一七、四三一斤
十七	二、〇五三、〇六三	一〇、六七、七六〇	九、八五、三〇三
十八	一、五〇三、四〇八	八、三〇、七〇〇	六、七二、七〇八
十九	二、二一六、三〇八	一、一七一、九六八	一、〇九八、三八〇
二十	二、一六六、〇〇八	一、三七四、一三〇	七、八八、八七八
二十一	二、九六六、七八四	一、三五六、三九九	一、七〇九、五〇五
平均	二、二二六、一〇四	一〇、九七四、〇三三	一、一三八、七〇一

即チ是ノ如クニシテ六ヶ年ヲ通算スルニ現ニ百十二
 万八千七百一十斤ノ過剩ヲ見ル地方廳統計ノ粗漏モ亦
 甚シト謂フヘシ業セニ斯ノ如シ故ニ到底統計ニ依リ
 テ以テ現況ヲ察シ得失ヲ論スヘカラサルヤ明カナリ

去リトテ之カ調査ノ不完全ヲ地并概統計ノ不完全ニ付シ去ルヘキニアラズ是以較ニ信憑スルニ足ルヘキ萌産出ノ統計ニ因リ生絲ノ數量ヲ美出シテ之ヲ基本トナシ其四割五分ヲ盾物ト見積ルトキハ左表、如クニシテ稍々其意ヲ得ルヤ庶幾カラシカ

年日 度次	繭一升 總量	生絲數量	盾物數量	盾物輸出額	差引產出 不足
十六	七六	五、三五五、七九四	二、三六五、一〇七	二、四五四、〇一四	不足八八、九〇七
十七	七六	六、〇八二、七九三	二、七三七、二五七	二、〇五三、〇六三	六八四、一九四
十八	七六	四、四四六、六五〇	一、八六五、九九三	一、五〇三、四〇八	三、六二、五八五
十九	七六	五、二八三、九七〇	二、三三七、七九六	二、二一六、三三八	一、〇六七、四四八
二十	七六	五、八二一、八九三	二、六一九、八七五	二、一三三、〇〇八	四、五、六八五
二十一	七六	五、二二五、六九四	二、五三一、五三三	二、九六六、七八四	不足四三、五二二
平均	七六	五、三一九、四七四	二、四一六、三三三	二、二二六、〇〇四	一九〇、一五九

十三行

第二 織物原料ニ就キテ蚕絲概況

明治十七年中織物原料ニ依リテ蚕絲類ノ斤量ヲ調査スルニ凡ソ二十万四千八百四貫ナリ中織物工場組合等ニ於テ二十万九千二百六十八貫三場組合等ノ設置ナキ地方ニテ是自置業ノ為メニ消費セシモノ五万四千八百十六貫トス其他調査辭カラナル地方ナリ且左種ノ消費ニ係ルモノアルヘシト雖モ今之ヲ知ルニ由ラレハ省々右ニ揚リ織物原料合計ヲ以テ十九年蚕絲製造額ニ比スレハ即三分一強ニ當ル割合ナリ然レニ十九年海外ニ輸出セシ蚕絲類ヲ觀ミレハ七百八万二千九十一貫ニシテ之ニ織物原料ヲ加フレハ百四万三千七百七十五貫ニ至リ製造額調査數ノ不足スルコト二十三万二千八百八十八貫トス斯ク蚕絲製造額ノ割

用續ヨリ不足スルハ蓋シ蚕糸製造(絹)調査ノ粗漏ナル
 一由ルナルヘシ

十三行

府縣別表

府縣	十一年		十二年	
	絹物 生産額 貫	糸料 消費額 貫	絹物 生産額 貫	糸料 消費額 貫
東京	一、〇七二	三九	八七八	四四
京都	一四〇七七	六三、四五三	四、六五〇	四三、二〇八
兵庫	一九、九三六	一、〇八七	一七、三五一	九六七
長崎	五〇五	五七三	六八四	四八一
新潟	一九、七一九	五〇六六	一一、三三三	四、六八九
群馬	一七〇、七八二	五、一、六五六	一六、三一一	三、五四三
愛知	八、九六八	六、五九	一一、五一四	六〇一
山梨	四七、一〇七	一三、八六八	三六、〇四七	一一、六〇五
滋賀	二、三、七一九	一三、七八〇	四九、一一六	一四、九五三
岐阜	四三、三三〇	六、一三五	一八、六〇三	七、六九五

鳥取	山形	福島	長野	三重	栃木	茨城	埼玉	大阪	計	北海道	慶嶋	宮崎
二、一八七	三、八九九	一、二四、三三三	七、三三一	一、六七五	八、二七七	二、九一八	四、八、五、一八	六、四八	四、七、三、二、一四	一、四三	三、九八	七、五四
七、〇七	六、五三八	二、七、七八	一、〇、〇、〇	〇、〇、〇	一、三、三、三五	二、七、三	一、〇、三、七、九	一、八〇	一、七、一、四、七、六	一、〇	一	三、三、八
一、八九	五、八、六、五	一、二、七、五			一、一、一、四	三、九、七	八、〇、三、三		三、七、七、九、三	八、八		三、三、六
八、一六	二、七、二、九、八	六、七、七、一、三	七、三、三、三一	一、四、三、三	三、八、四、〇	三、〇、〇、一	三、〇、一、五、四	二、九、三	四、〇、三、六、七、〇	九	二、五、七	六、五、五
三、四八	六、三、五、七	四、四、五、四	九、五、二	二、〇、〇	一、四、〇、一、三	四、一、四	九、六、四、七	一、九、五	一、三、三、五、〇、八	一、一、二	一	二、四、九
一、九八	五、三、九、七	一、三、二、五			一、二、六、九	二、六、一	七、五、五、九		三、八、〇、七、九	一、三、〇		一、八、二

熊本	佐賀	福岡	愛媛	徳嶋	山口	富山	石川	福井	秋田	青森	岩手	宮城
一、〇、八、一	六、〇、四	一、六、三、六	四、八、六	九、一、九	七、二、七	一、三、八、三、四	三、三、九、六、九	一、一、三、三、八	一、二、四、八、〇	六、九、九	三、三、七、〇、五	二、五、三、三、八
一、一、八、七	五、三、五	三、七、九、一	九	七、四	三、八、五	一、一、九、八	二、九、九、八、三	三、三、三、三、三	一、四、三、六	四、〇	一、三、三	三、九、七
四、一	一、四、八	六、七		九、三	三	一、二、六、八	一、〇、三、七		七、八、九	二、一	五、五	一、七
一、〇、五、四	一、一、九、九	一、三、五、三	四、二、五	三、五、四	六、八、六	一、〇、三、三、三	七、六、六、八	六、〇、〇、六	九、〇、六、六	三、四、三	三、四、七、四、九	五、二、一
四、一	五、六、六	三、三、三、四		六、〇	二、〇、四	一、七、七、三	二、九、五、四	三、〇、八、八		四、九	一、五、三	五、二
四、一	一、五、一	四、四		九、〇	四、〇	一、七、八、七	九、八、一			一、三	七、〇	九

十三行

島根	岡山	廣島	大分	計	神奈川	千葉	静岡	和歌山	高知	計	合計
八八一	一九五三	一四三三	一八八〇	三九八、三三三	三三三、六七七	五三六	五八一六	三二六	一、三二八	四、四五一	八、三、八八七
一四三	一、一三三	九〇	三三三	三四、七三三	不詳						二、〇六、四〇七
三九	三八	八	四〇	一六、八八五	不詳						五、四、六七七
五九九	一、一三五	一四三	一六、一六	二、〇、三四四	二八五、〇五	四五	三八八三	二四一	五九三	二、三、二六七	六、四六、一八一
一三四	一三九	三五	一九三	三七、〇〇〇	不詳						一七〇、五〇八
三三	三六	七	一〇八	一六、〇八三	不詳						五、四、一六〇

表 中 長 野 縣 ノ ミ ト 糸 紡 製 造 額 ノ 調 査 了 了 サ レ ハ

十三行

止ムコトヲ得ス前年度ノ数ヲ借用ス

生絲 地方現況 二

十三行

生絲

現況 地方ノ部

目次

第一 北海道廳

第二 東京府

第三 京都府

第四 大阪府

第五 神奈川縣

第六 兵庫縣

第七 長崎縣

第八 新潟縣

第九 埼玉縣

第十 群馬縣

第十一	今葉縣
第十二	潁城縣
第十三	柘木縣
第十四	茶峽縣
第十五	三重縣
第十六	後知縣
第十七	薛岡縣
第十八	山梨縣
第十九	澁谷縣
第二十	岐草縣
第二十一	長新縣
第二十二	福鳴縣
第二十三	匡城縣

十三行

第二十四	岩手縣
第二十五	青森縣
第二十六	秋田縣
第二十七	山形縣
第二十八	石川縣
第二十九	福山縣
第三十	福井縣
第三十一	鳴根縣
第三十二	鳴取縣
第三十三	岡山縣
第三十四	廣島縣
第三十五	山口縣
第三十六	和歌山縣

第廿七 徳島縣
 第廿八 香川縣
 第廿九 高知縣
 第四十 愛媛縣
 第四十一 福岡縣
 第四十二 大分縣
 第四十三 佐賀縣
 第四十四 熊本縣
 第四十五 鹿崎縣
 第四十六 鹿児島縣

十三行

北海道

生絲

年度	產額	價額	百斤價額	製造家數	一戶製造額
十六	一〇〇斤	四六六	四六六		
十七	六三	二九七	四七二		
十八	五六	二六八	四七八		
十九	七九四	四六九三	五九一		
二十	一〇二五	五七三〇	五五九		
二十一	二九四四	一四六九一	四九九		

北海道廳

本道ノ製糸工場ハ明治八年八月起業石狩國札幌已北
 一帯東ニ十自紡織場ヲ以テ現在工場ノ数モトス
 其員數ハ五ヶ所ニミテ十人繰以上一ヶ所廿人繰以上
 四ヶ所ナリ繰登ノ總數九十六圓ニミテ卷絨廿四個坐
 繰七十二個ナリ

就業日數ハ一ヶ年間二百九十六日ナルヲ以テ長キモ
 ノトス其短キモノニ至テハ僅ニ十五日ナリ又工女一
 人一日ノ繰目ハ多クモ一十五匁サキモノハ僅ニ七匁
 一分ナリ

産額ハ毎一身ニ増進シ明治十六年度ハ一百作ナリシ
 ニ二十一年度ニ至リテハ二百九十四作ニ増進セ
 リ廿一年度ノ收入金額ハ一萬四千六百九十一圓ニシ

テ百斤ノ價格ハ概テ五百圓内外ナリ然レニ百斤ニ對
 エル製造入費ノ多キモノハ百七十二圓其方キモノト
 雖モ百〇九圓ナリ何ゾ其技術ノ拙劣ナルヲ斯カル多
 額ノ費用ヲ以テ下劣ナル製糸ヲナス誠ニ嘆スヘキノ
 極ナリ松岡國產製糸ヲ七等ニ分リテ本道ノ産糸ヲ評
 スルハキハ其品位七等ニ位スハニ故ニ本邦上等生糸
 ノ價直ニ比スレハ百斤ニ付二百圓以上ノ低價ナリ
 本道ノ産産ト製糸トヲ對比スルトキハ製糸ノ方甚々
 劣レルモ、此レ今之刀車候ヲ示セハ二十年度滿ノ
 産額ハ一ヶ五百三十五疋ナリ秋滿一疋ニ付平均糸量
 六匁六合ヲ有スルモノトスルトキハ一ヶ〇十三貫百
 匁ノ糸量ヲ得ヘシ之ヲ糸量ニ換算スルトキハ六ヶ三
 百三十二斤ナリ秋内コリ同年生絲ノ産額一ヶ〇二

十三行

十五斤ヲ扣除スル時ハ即ケ五ヶ三白〇七斤ノ餘額ト
 ナル殊に五ヶ三白斤ニ對スル原料ハ熟練トナリ
 又ハ熟練其物ニテ但ノ行際ニ輸販セラル、モノ、此

東京府

生絲

年次	産額	價	買價額	製造家数	一戸製造額
十六	一七〇六 <small>千</small>	七九五〇 <small>円</small>	四六六 <small>円</small>		
十七	一三二五	六二五四	四七二		
十八	四六三八	二二、一七〇	四七八		
十九	五、三八八	三、一、二五二	五九一		
二十	五、三八一	三、〇、〇八〇	五九九		
二十一	六、三四四	三、一、五五七	四九六		

十三行

東京府

本府ノ製本工場ハ明治十二年六月起舊蔵園北豊海
 郷上石神井村製本工場ヲ以テ現在工場ノ在キモノト
 又其負數ハ二ヶ所ニシテ二十人繰以上一ヶ所百人繰
 以上一ヶ所十ヶ所繰登ノ數ハ統計百七十二個共ニ蒸汽
 蒸機ナリ就蒸日數ハ一ヶ年間長キモノ二百六十日短
 キモノ八十日ナリ又工女一人一日ノ繰目ハ多キモノ
 ハ二十八処ガナキモノハ二十三処ナリ
 産額ハ年一年ニ増進シ明治十六年ハ千七百六十斤十
 リシニ二十一年度ニ至リテハ六千三百四十四斤ニ増
 進セリ乃々二十一年度ノ收入金額ハ三万一千六百五
 十七圓ニシテ百斤ノ價額ハ概テ五百五十圓内外ナリ
 百斤ニ對スル價額ノ多キモノハ百二十六圓ナリ

元ノハ八十八日ナリ今試ニ本邦産出生糸ヲ七等ニ已
 分シテ本邦ノ産糸ヲ辨スルトキハ五等ノ地位ヲ在リ
 ルモノ、他ニ故ニ之ヲ上等生糸ノ價並ニ比スレハ百
 円ニ付百四五十日ノ低價ナリ器械製糸ニシテ生糸ニ
 比テ劣レル粗糸ヲ製スルハ嘆スヘキ、至テラヌヤ
 本邦ノ最上ト製糸トリ對比スルトキハ最上ノ製糸ヲ
 リ劣レルコト數等ナリ今之カ原因ヲ尋クレハ二十年
 産期ノ産額ハ九百云々九百ナリ以テ繭一升ニ付繭量七
 匁ヲ有スルモノトスルトキハ六百七十八匁三百匁ノ
 糸量ヲ得ヘシ之ヲ寸量ニ換算スルニキハ四百二十三
 ナルナリトナル然レニ四年産生糸ノ産額ハ五千三百人
 ナリナリナリ故ニ一ヶ百四十二年ニ對スル糸種ハ他ノ
 地方ヨリ之ヲ仰カサルヲ得テハ之ニ是ヲ以テ製糸業

十三行

ノ養蚕業ヨリ優レリトスル所以ナリトス

京都府

生絲

年次	産額	價額	百斤價額	製絲家数	一戸製造額
十六	二三四八一	一〇九,四二一	四六六		
十七	二九,一〇三	一三七,四一三	四七三		
十八	二七,八〇〇	一三三,八九四	四七八		
十九	七八,五三八	四六,四七八	五九一		
二十	九八,八八八	五五,三七八	五五九	七七八	
二十一	七五,五九四	三七七,一六四	四九九		

十三行

京都府

本府ノ製絲ノ場ハ明治十一年六月起業丹後加佐郡北
 田辺町ノ築絲場ヲ以テ現在ニ場ノ在キニトスニ場
 數ハ二十六ヶ所ニシテ十人繰以上十九ヶ所二十人
 繰以上一ヶ所五十人繰以上五ヶ所百人繰以上一ヶ所
 十人繰全ノ總數ハ五百九十二個ニシテ蓄積三百三十
 五個半繰二百五十七個ナリ

乾葉日數ハ一ヶ年中長キモノ三百日短キモノハ四十
 五日ナリ又エ廿一人一日ノ繰目ハ多キモノ三十九人
 ナリ又モノナシナリ

産額ハ年一年ニ増進シ明治十六年度ハ二万三千四百
 八十一斤ナリシニ十七年度ニ至リテハ七万五千五
 百九十四斤ニ増強セリ又今年度ノ収入金額ハ三十七

十三行

万七千六百六十四圓十リ之ヲ十六年度ノ收入金額十
九千四百五圓ニ比シハ殆ト三倍ノ増加ナリキ百斤
ニ對スル平均價額ハ五百四十五圓十リハシ其製造入
費ハ多クモ又ノ百六十一圓少キモノ五十圓ナリ思フニ
其多クモノハ冗費トナリサキモノハ粗編ニ陥ル技術
ノ拙キ以テ見ルハシ誠ニ我國産出生絲ヲ七等ニ区ケ
テ等者ノ産絲ニ等位ヲ付スレハ四等ノ地位ヲ占ムル
モノ、此レ故ニ本邦ニ等生絲ノ價値ニ比スレハ百斤
ニ付百四五十圓ノ低價ナリ

本邦ノ養蚕ト製絲トヲ對比スルトキハ養蚕ノ製絲ニ
價ルコト數等ナリ今之カ原例ヲ奉ルレハ二十年度ノ
繭ノ産額ハ二万八千六百八十石ナリ其繭一石ニ付絲
量七匁五分ヲ有スルモノトスルトキハ二万四千五百十

十三斤

貫自ノ絲量ヲ得ヘシセテ作量ニ積算スルトキハ十三
万四千四百三十八斤トナル其内ヨリ同年生絲ノ産額
九万八千八百八十八斤ヲ扣除スルトキハ三万六千五
百五十二斤、存産トナル其ノ存産三万六千五百五十二
對スル原料ハ各種トナリテ土地ノ需用トナリ又ハ繭
其ノ物ニテ他ノ糸縣ニ輸販スルモノト見ゆシテ不可
ナキモノノ、此レ

大阪府

生絲

年度	産額	價額	百斤價額	製造家数	一戸製造額
十六	四三八	二〇四一	四六六		
十七	五八一	二七四二	四七二		
十八	五四四	二六〇〇	四七八		
十九	一八九四	一二一九四	五九一		
二十	一四二五	七九六六	五五九		
二十一	三、一三一	一〇、六三四	四九七		

十三行

大阪府

本府ノ製絲工場ハ明治十四年五月ノ創設ニ係ルモノ
一ヶ所現存スルノ之數ノ工場ハ絲卷ノ數二十個ニシ
テ人カヲ以テ運轉セルケンヤル式ノ粗送ヤル器械ナ
リ一ヶ年牛就業ノ日數ハ二百日ニシテ工女一人一日
ノ總日ハ平均十一台七分ニ當ル技術ノ拙劣ニシテ勞
力ノ微弱ナル以テ見ル可シ

産額ハ年一年ニ増進スルノ状アリ去ル明治十六年度
ニハ四百三十八斤ナリシニ一十七年度ニハ四百三
十一斤ニ増進セリ又同年度ノ収入金額ハ一万六千三
十四圓ナリ之ヲ十六年度ノ収入金額二十四千一百二
對比スレハ約五倍原ノ増加ナリキ
百年ニ對スル平均ハ五百圓内外ニシテ百斤ニ對スル

製造入賞ハ八十八圓ナリ今試ニ若邦産絲ヲ七等ニ已
 ケテ亦産出ノ生絲ニ等位ヲ附スレハ七等ノ地位ナリ
 亦新ノ養蚕ト製絲トヲ對比スレトキハ斯リ製絲業ノ
 幼稚ナルニモ係ラス養蚕ノ業ガレニヌリ、如シ今之
 カ實例ヲ尋ハレハ二十年度ノ繭ノ産額ハ三百二十三
 石ナリ其繭一升ニ付絲量平均六匁六分ヲ含有スルモ
 ノト故受スルトキハ百五十三貫百八十匁ノ絲量ヲ得
 ヘシ之ヲ斤量ニ換算セハ九百五十七斤トナル然レニ
 同年度製絲ノ産額ハ一廿四百二十五斤ナリ故ニ四百
 六十斤ニ對スル原料ハ地産ヨリ之ヲ仰カサレ
 ヲ得リルモノ、如シ是ヲ以テ製絲業ノ養蚕ヨリ優レ
 リト認ムル程ナリ

十三行

神奈川県

生絲

年度	産額	價額	百斤價額	製造家数	一戸製造額
十六	七五二五斤	四二八九五元	五七〇		
十七	一三五三八一	七八二一四八	五七七		
十八	一三三九七五	七七六五七四	五八四		
十九	一六八六八八	一三一九六二四	七二二		
二十	二二三三三三	一五二八七三九	六八三		三二二二
二十一	二九五四一九	一七九九二〇二	六〇九		

神奈川縣

本縣、製絲工場ハ明治十年六月ノ起業ニ係ル茲年製
 絲ヲ以テ現在工場ノ在キモノトス其負數ハ十一ヶ所
 ニシテ十人繰ニテ所二十人繰以上五ヶ所五十人繰以
 上ニテ所百人繰以上一ヶ所ニ百人繰以上一ヶ所ナリ
 其繰合ノ數ハ合計五百八十個内器械四百八十六個坐
 繰九十四ヶニシテ五十人繰以上ノ者ハケン子式ノ
 器械ナリ
 一ヶ年中日教ハ長キモノ三百日短キモノ百日ナリ工
 女一人一日ノ繰目ハ多キモノ平均三十四匁ニシテ
 少キモノハ十四匁九分ニ過キス
 産額ハ一年ニ増進ノ状ナリト雖モ以上府縣ノ如キ
 著シキ増進ニアラス去ル明治十六年度ハ七万五千二

百五十六斤ニシテ其翌十七年ハ十三万五千三百八十
一斤ニ上レリ此ノ一年間、連力ハ殆ト二倍ニ達スル
ノ有様ナリシニ又尔後ノ三年間ハ漸次ノ進度ニシテ數
テ若シキ狀ナカラン然レトモ二十一年ニ至リテハ二
十九万五千四百十九斤ニ増強セリ又同年度ノ収入金
額ハ百七十九万九千四百二十圓ナリ之ヲ十六年度ノ收
入金額四十二万八千九百五十九圓ニ對比スレハ殆ト
四倍以上ノ増加ナリキ

本縣生絲百斤ノ平均價額ハ六百圓内外ニシテ之ヲ製
送入費ハ多クモ、百二十八圓ナリキモ、大正五年ナ
リキ本縣ノ蠶桑業ハ其起因甚古ナリ以テ先入主トテ
リ改良ノ勦甚薄リ未タ以テ旧時ノ身挽或ハ坐繰ノ規
絲又島田繰ヲ以テ得色世間ニ誇ルル也ナリ然レリ是

十三行

等、生絲ハ百斤四百六七十圓ノ價額ニシテ該地方ノ
改良筋ニ比スレハ百五六十圓ノ下位ニアルニ又因襲ノ
久シキ父祖ノ道ヲ改メサル三年又三年ト謂ヘルカ如
キ者ナリ、之ハ究竟是力改進ノ気力ヲ阻害セシムル者ハ
地方ノ蠶織即地機ナルモノ、行ハル、ヨリ粗絲ノ需
用依然トシテ殆スルハ爲メナリ故ニ如此地方ハ其他
亦蠶織ノ改良ト共ニ之ヲ改良ヲ實施スルニアラスレ
ハ到底蠶織ヲヘクシテ行ハレカニ者、如シ今外邦ノ花
絲ヲ七考ニ命テテ本縣産出生絲ヲ耕スル時ハ四考ノ
地位ヲ増スヘシ是則改良器械生絲ノアトル爲ナリ
本縣ノ蠶桑ニ製絲トク對比スル時ハ製絲ノ額養蚕ニ
リ名レルコト既考ナリ今又カ事實ヲ挙ケレハ去年ニ
十年間ノ産額ハ七月三十一日三十一天ナリ故爾一升ノ

綿量ヲ七匁五分トスシハ五万四千八百五十二貫目ノ
 綿量ヲ得ヘシ之ヲ斤量ニ換算スルトキハ三十四万二
 千八百二十五斤トナル其巾ヨリ同年生絲産額二十二
 万二千三百六十三斤ヲ相減スルトキハ十二万四千六
 十二斤ノ餘贏ヲ生ス是故に蠶ノ對スル原料ハ各種ト
 ナリテ土地ノ需用ニ供セザルト原繭其御ニテ化ノ
 糸斷シ輸販セザルハ者ト見極シテ不可ナカラシカモ
 ヲ以テ製絲ノ養蚕ヨリ劣レリトイフ所以ナリ

十三

兵庫縣

生絲

年次	産額	價額	百斤價額	製産家数	戸製産額
十六	六七、七五	三、八二、九八	五七〇		
十七	七六、八三	四、四三、五九	五七七		
十八	六七、二五	三、九三、五九	五八四		
十九	一一四、二五〇	八、三六、三八	七二五		
二十	一〇五、六二五	七、二一、四九	六八三	二、三二一	
二十一	一〇八、三〇六	六、九八、七五	六四九		

兵庫縣

本縣ノ製絲工場ハ享和九年六月播磨國宍粟郡上野田村伊藤製絲場ヲ以テ現存工場ノ最古キモノトス享和三年正月文化ト改元セリ九年トアルハ誤リナラン今後ニ享和三年ノ起業トスルニ今ヲ去ルコト八十七年ナルハ合リ日本産糸ノ年號ニシテ伊藤又ハ長濱等ノ製用ニ依リタ 其次ハ明治元年七月ノ起業ニ係ル今郡東野場村上山製絲場ナリトス然レ以上ノニ工場ハ此録ナレヨリ以テ同ヨリ上録ヲ製出シ得ヘキモノニアラス思フニ軍ニ管業ノ継続セリヨリ以テ工業ノ斷続セリニモ係ラス起業ノ年月トナシタル者ナランカ此ヲ疑フ所レテ茲ニ是ヲ端ルルコトハ為シタリ其次ハ明治十一年六月ノ起業ニ係ル但為國氣多邸久野村擴産社製絲場ナリ此ノ工場ヲ以テ本縣改良製絲ノ嚆矢トス工場ノ數ハ總計三十八ヶ所ニシテ十人織二十ヶ所

十三行

二十人繰以上二十六ヶ所ナリ又其繰巻ノ数ハ合計七百
十八個内巻機二百九十七個半繰四百二十一個ナリ
一ヶ年ノ就業日数ハ長キモノ二百二十二日短キモノ
三十日ナリニヤ一人一日ノ繰目ハ多キ者平均四十六
匁七分ナキ者十三匁ニ過キス其労力ノ微クニシテ技
術ノ拙キ以テ見レ可シ

産額ハ次第ニ増強ノ姿ナレトモ新規起業ノ地方ノ如
ク著シキ増収ヲ見ス然レトモ明治十六年度ノ産額ヲ
最近ノ産額ニ比スレハ強ト二倍ノ多クニ至レリ今秋
収入金額ヲ算スレハ十六年度ハ三十八万二千八百九
十八圓ナリシニ二十年度ニ至リテハ七十二万四千四百
十九圓ノ額ニ上レリ

十三行

産費ハ多クオモノ百八十七日ナリキモノ七十日ナリキ
際ニ各繰業ノ起因甚在キヲ以テ用費ヲ減守スルモノ
多クハ近リハ丹後編組ノ常用遠クハ之ヲ長決ニ輸販
ノ目的ヲ以テ粗繰ヲ製シ在レ者夥多ナリ故ニ地方機
織ノ改進ニ伴フシヤラサレハ到底之ヲ改良ニ専ラコ
ト難カレ可シ誠ニ就郵産出張繰ヲ七等ニ分ケテ本縣
ノ産額ヲ詳セハ上中下ノ平均ハ先ウ四等ノ地位ヲ占
ムヘシ必竟茲ニ進ミシモノハ半繰ノ團結ト器械工場
ノ漸次ニ成ヲ進メ来リタルニ因レリ

本縣ノ産額ト在繰レリ對比スレトキハ廢巻ノ業額繰
ニ優レリ今之ヲ事實ヲ示セハ去ル二十年度内閣ノ産額
ハ二百七十四万五千七百九十九匁一匁、繰量七百五十分
トスレハ二百二十七万八千三百七十七匁五匁ナリ得ヘシ之ヲ

斤量ニ換算スルトキハ十二百六十七百七十三斤トナ
 ル地中ヨリ同年生絲ノ産額十萬五千六百二十五斤ヲ
 扣除スルトキハ二百四十八斤ノ餘額ヲ生ズ是地ノ
 餘額ニ對スル原料ノ養蠶トナリテ土地ノ需用ニ供セ
 ラル、ト原南其物ニテ他ニ輸出セラル、等ニ同ル元
 、、地ノ故ニ蠶桑ハ製絲ニ優レリト謂フ可ナリ

十三行

長崎縣

生絲

年次	産額	價額	百斤價額	製造家數	一戶製造額
十六	四八〇〇	二八、八六四	五八		
十七	四、三三八	二二、五二二	五二五		
十八	三、一八八	一六、八九一	五三一		
十九	二、三〇〇	一五、一一一	六五七		
二十	三、五四三	二二、〇〇二	六二一		
二十一	四、三〇六	二二、八五五	五五四		

長崎縣

本縣ノ製絲工場ハ明治十五年三月起業肥前國北高束
 郡諫早村大所社ヲ以テ現在工場ノ世キモノトス其資
 額ハ六ヶ町ニシテ十人繰以上ニヶ町二十人繰ニヶ町
 五十人繰以上一ヶ町ヤリ其ノ繰釜ノ數ハ合計百五十七
 個ニシテ悉皆半繰ヤリ
 一ヶ年中產量日數ハ長キモノ百四十四日短キモノ
 二十日ナリ又工女一人一日ノ繰自ハ平均十八匁ヲ
 以テ多キモノトシ十匁ニ墜ラ次テ少キモノトス技術
 ノ拙キ以テ凡ル可シ
 産額年一年延縮ノ景況ナリモカ二十年後ニ至リテハ
 稱概後ノ色ヲ呈セリ今之ノ實況ヲ察リレハ去ル十六
 年及ハ四ヶ八百ヶナリレニ十八年ニ至リテハ三ヶ三

十三行

八十一斤ニ減シ又翌十九年ニハ二十斤三百斤迄ニ墜落
セリ然レニ二十年度ニ至リテ三千五百四十斤ニ恢
復セリ同年度ノ産額ト十六年度ノ産額トテ對照スル
トチハ千二百五十七斤ノ差アリ然レハ價額ハ相場ノ
上リタルト技術ノ較シ進ミタルヨリ打撃ノ如キ若シ
キ屋下ルヲ見ス僅ニ二十八日六十二日ノ増額ナリキ
本縣生絲百斤平均價額ハ六日圓ニ近ク之ヲ製造費ハ
多クモノ百十八日五十九日秋少キモノ九十六日四十二日
ナリ

本縣ノ養蠶業ハ甚基固甚古ルカラス概シ明治五十六年
以後ノ起業ナルヲ以テ関東地方ノ此キ陋習ナク率テ
法ヲ上州ニ取リタル坐繰製絲ナリ其品位ハ東洋有数
地方ノ坐繰ニ比スレハ敢テ劣ラザルモノ下リト雖モ

十三行

是等ノ良繭ハ僅少ニシテ技術ノ幼稚ナルモノ多ク加
フルニ産額増少ナルヲ以テ真價ニ賣却スル能ハザル
ノ態アリ可惜ナリ茲ニ我邦産絲ヲ七等ニ分ケ本縣ノ
産出生絲ニ等級ヲ付セハ上中下ヲ平均シテ五等ノ地
位ヲ在リ得ヘキノ有様ナリ

今養蚕ト製絲トノ度合ヲ對比スレハ産額額産額額
リ超ヘタリ之ノ事實ヲ示セハ去二十年度滿ノ産額ハ
十三日十九日九日ナリ秋滿一升ノ絲量ヲ平均七匁ト仮定
スルトキハ九匁四十四匁三百匁ノ絲量ヲ得ヘシ之ヲ
斤量ニ換算スレハ五十九日〇二斤トナル茲額ヨリ生
絲ノ産額三々五日四十三斤ヲ扣除スレハ二々三日五
十九斤ノ産額ヲ生ス是故産額ニ對スル原料ハ養種ト
ナリテ土地ノ需用ニ供セラルルト秋滿其物ニテ此ノ

地方ニ輸販セラルルモノト見物ニテ不可ナカラシク

十三行

新潟縣

生絲

年次	產額	價額	百斤價額	製造家數	一戸製造額
十六	四〇、二六三	一八七、六三六	四六六		
十七	三四、四八八	一、五八七、〇三	四七二		
十八	五三、〇〇六	二、五三三、三九	四七八		
十九	一〇四、八九四	六、九、九二四	五九一		
二十	一〇三、三八一	六、三九、三三八	五九九	八一三	
二十一	一〇六、五三一	五、八、八九九	四九九		

新潟縣

本廳ノ製絲工場ハ明治八年五月起業越前南東沼郡湯
 澤村樋口製絲場ヲ以テ現在ニ工場ノ在キモノトス其復
 數ハ二十三ヶ所ニシテ十人繰以上十二ヶ所二十人繰
 以上七ヶ所五十人繰以上ニテ百人繰以上ニテ耐トス
 其繰屋ノ數ハ統計セバ六十八個ニシテ内釋スレハ若
 城二百七十七生繰四百九十一個ナリ
 一ヶ年結業日數ハ長キモノ百五十日短キモノ九十日
 ナリ又一人一日ノ繰目ハ其多キモノハ八十七匁ニ
 シテ少キモノハ十匁ニ過キス
 産額ハ一匁一匁ノ收アリト雖モ十九二十年兩年頃ヨリ
 ハ着目米ヲ産シ来リタルノ勢アリ今二十年度ノ産額
 ナリテ去ル十年度ノ産額ニ對照スレハ三倍ノ増

十三行

殖トナリ然ルニ其價額ニ至テハ六倍以上ノ増加
ニ至レリ是は竟然價ノ昂リタルト多ク技術ノ進
ルニ因ルル可シ乃ケテ十六年度ノ收入金額ハ十八
七千六百二十六圓ニシテ二十年度ノ收入金額ハ六十
二万九千三百二十円トハナレリ

本縣生絲平均平均價額ハ五百五十六圓ニシテ之カ
雜送費が多キモノ百十五円キモノ五十四円ナリ今
地所ノ生絲ヲ本邦ノ良絲ニ改スレハ百斤ニ付百四五
十圓ノ低價ナル可シ試ニ之ニ階級ヲ付スレハ較ニ五等
ノ地位ヲ保有シ得ルモノ、此ニ再言スレハ全國輸出
生絲ノ總平均平均價額ヨリモ一割ヲ減ス可シ

養蚕製絲ノ度合ヲ對比スレハ產絲額ヨリ產額ノ方
較劣レリ今之カ證據ヲ養うレハ去二十年度ノ產額

十三行

ハ三万五千九百九十一五ナリ其間平均一斗生量七
ト見積ルトキハ二万五千九百三十三貫七圓ノ生量ヲ
得之リ今算ニ檢算スレハ十五万七千四百六十一斤
ノ成績ヨリ同年度生絲ノ產額十一万二千五百八十一
斤ヲ扣除スルトキハ四万四千八百八十斤ノ差額ヲ生
ス是故四万四千八百八十斤ノ對スル原料ハ養蠶トナ
リテ土地ノ需用ニ供セラルル、乃又ハ養蠶其物ニテ地
ノ地方ニ勸導セラルルモノト見做シテ不可ナラズン

歟

埼玉縣

生絲

年 目 次	產 額	價 額	百 斤 價 額	製 造 家 數	一 戶 製 造 額
十 六	二二二,一〇〇斤	一,二二〇,二七七円	五七〇円		
十 七	三六六,六七五	三,一〇三,三三三	五七七		
十 八	一四六,三九四	八四九,一〇一	五八四		
十 九	三三九,一三一	一,六五六,六一七	七三三		
二 十	三三七,六三三	一,五五四,五九七	五八三	三〇一八	
二 十 一	二〇八,二一九	一,三三七,四四三	六四九		

十三行

埼玉郡

本縣ノ製絲工場ハ明治八年七月起蒙武藏國南埼玉郡
 岩槻町高橋製絲場ヲ以テ現在工場ノ志キモトトス然
 レトモ以工場ハ半繅ニシテ全放僅ニ十個ナリ蒸汽器
 祇製絲場ハ同國高橋郡上廣瀬村嶋業会社ヲ以テ嚙矢
 ニナク本縣製絲工場ノ數ハ六十一個所ニシテ十人繅
 以上ノ四十所二十人繅以上五十人繅以上八ヶ所百人
 繅以上七ヶ所二百繅以上一ヶ所トス但六十一ヶ所ノ繅
 全ノ總數ハ二千五百六十五ヶ林内卷城全數四百七十
 一ヶ繅全數二千九百四ヶナリ
 一ヶ年統當日數ハ長キモノ二月五日短キモノ四十
 日ニシテ概シテ日ノ前後ニテ停業スルモノ、如シ又
 工女一人一日ノ繅目ハ甚多キモノ四十四匁甚少キモノ

十三行

、ニ至テハ僅ニ十一匁糸ノ蓄ル何ハ支シ労働、微弱
ナル糸業日數ノ短縮ナルヤ枝師其人ニアラサレモ之
ガ事業ニ激シ技術ノ拙ヲレトニ業経済ニ産レル方
法、余カラスナルヲ知ルヲ得ヘシ

産額ハ一送一返年ニ多クノ差違アリト雖モ他、新場
地方、如キ増加ヲ見ス今明治十六年度、産額ト同ニ
十年度トノ産額トヲ對比スレハ二十年度ノ十六年度
ヨリ増スコト僅カニ六十百十三斤ナリ然レトモ價
額即相場ノ昂リヨリ収入全額ニ於テハ斤量増強
ノ割合ヨリハ多クニ多シリ乃チ去ル十六年ノ収入全
額ヲ算スレハ百二十六百二百七十圓ニシテ同二十年
度ハ百五十五万四千五百九十七圓十斤ナリ茲ニ本
縣産絲ノ等位ヲ附スレハ本邦輸出生産絲ノ芥三寺・庄

十三行

ルハシ價額ニ就テ又ヲ詳セハ海外輸出生産絲ノ平均相
庭ヨリ上ルコト一副以上ナルモノ、如シ百斤ノ平均
價額ハ最近年度ニ徴スレハ六百二十圓以上ニアリ又
製造入費ハ多クモノ百三十圓ニシテラヤキモノ五十
二圓ナリ然レトモ之ヲ概スレニ百斤ノ製造入費ハ八
九十ナレモノ多クニ産シ

茲ニ本縣産糸製絲ノ度合ヲ對比スレハ産絲額ヨリハ
繭額頗ル多クモノ、如シ今之カ証據ヲ算スレハ去年
明治二十年度ノ産繭額ハ三百五十九圓九十一斤ナリ
以前一升平均絲量八匁五分トスレハ七百二十四圓八
十三匁五百五十自ナリ之ヲ斤量ニ換算スレハ四十五
万六千四百四十七斤トナル然レヨリ同年度生産絲ノ産額
二十万七千六百十三斤ヲ比較スレハ二十二万八千

五五三十四斤ノ原蠶ヲ生ス尾好原蠶ニ對スル原科ハ
 糸種トナリテ土地ノ常用又ハ他府縣ノ常用ニ供セリ
 此トナリテ内外ニ販賣セリヤ疑ヲ容レリナリ
 以テ觀テ才賦ハ製絲ノ業務養蚕ニ比スレハ甚ク劣レ
 ルニト見仰ス決テ不可ナキモノナリシ歟

十三行

解馬縣

生絲

年月次	産額	價額	百斤價額	製送家數	一戸製送額
十六	五〇三・八五〇斤	三〇〇・二九四圓	五九六圓		
十七	七二二・八三八	四二九・九五〇圓	六〇四		
十八	七二七・五九九	四四四・五一四圓	六〇一		
十九	七四九・八〇〇	五六一・八四八	七五六		
二十	一一一・二七五六	七九四・五〇七八	七一四	三九七七	
二十一	八四七・五三四	五三九・八八五五	六三七		

解馬場

本縣製糸工場ハ明治九年六月起業上野國第解馬場前
 瓶紺屋町ハ辰美吉ノ本縣製糸場今年今日起業同國因
 郎前橋相生町根岸金次郎ノ本縣製糸場ヲ以テ現在工
 場ノ最古キモノト又器械製工場ニ於テハ明治六年
 六月創立ノ同國佐位郎伊勢崎町共研會社ノケン子
 式工場ナリト本縣製糸工場ノ數ハ七十七ヶ所ニシ
 テ其内十人繰以上二十七二十人繰以上二十乙五十人
 繰以上十人繰以上二十乙五十人繰以上十ヶ所ナリ
 七十ヶ所繰釜ノ總數ハ六十三百三十七個其内器械
 七百七十四半繰五ヶ五廿六十三個ニシテ器械ノ器械
 ヲリ多キモノト四ヶ七日八十九個ナリ故ニ本縣ノ産絲
 ハ十年ノ八以上ハ本縣製ト認ハサレ得又

一十年ノ就業日數ハ長キモノ三百十八日經キモノ六
十日ニシテ二日日前後ノモノ多キニ及レリ又工女一
人一日ノ縫目ハ多キモノ八十九枚少キモノ十五枚ナ
リ是ヲ以テ百介ニ對スル製造入費ニ隨テ巨遠アリ其
多キモノニ至テハ百十枚ヨリ少シキモノハ僅ニ五
十ニ因ニ過キヌ妹ノ費用ノ少キモノハ概テ粗製ニシ
テ多キモノハ純テ精製ノ生絲ヲ產出スルト云フニ敢
テ不才ナキモノ、也シ

産額ハ年一身ニ増強シ明治十六年度ト二十年度ヲ對
比スレハ幾ントニ倍次上ノ増加ナリ即チ十六年度ノ
産額ハ五十万三千八百五十九トナリシニ同二十年ニ至
テハ百一十一万二千七百五十六トナリ多キニ至レリ今茲
ニ又入産額ヲ對比スレハ十年身ハ三百二十万九千四

十三行

十六年ナリシニ廿年度ニテハ七月廿四日五十七千
八圓ノ巨額ニ上レリ殊ノ如ク産額増加ノ劇急ヨリ収
入産額ノ多キモノ、暗價ノ十年身ヨリ高カリシ爲メ
ナリ甚密ノ運ミタルカ爲メニハアヲカハナリ茲ニ亦
歸ノ産絲ニ等級ヲ付スレハ青銅生絲中第一等ニ位ス
ヘシ今價格ニ飛テ之ヲ示セハ海外輸出生絲ノ平均相
度ヨリ高キト一到五方以上ニシテ最近年度ニ及レ
トハ百介六日七日上ノ價格ヲ有スルモノ、也シ
又養蚕製絲ノ産額ヲ對比スレハ産額額ヨリ産額額
ル多キニ及レリ今之カ實記ヲ尋テシハ明治二十年度
ノ産額額ハ十六万三千三百六十二トナリ、秋蘭一升ノ
綿量ヲ人毎五合トスレハ十三万八千八百五十七量七
百八分ナリ今量ニ標準スレハ八十六万七千八百六十一

千葉縣

生絲

年次	産額	價額	百斤價額	製込家数	一戸製込額
十六	五九〇斤	二七四九四	四六六		
十七	三〇〇	一四一六	四七二		
十八	二一三	一〇一八	四七八		
十九	三五二	一四八七	五九一		
二十	三九九四	二二二二六	五五九		
二十一	二〇三八	二五一四〇	四九九		

作トナレ以親ト二十年産絲額トテ對照スルハ二十四
 百四十八百九十五斤ニ對スル原料ハ此ノ新築多ク購
 買シ之ニ加工シテ轉販スルモノナラン

十葉野

本縣ノ製絲工場ハ明治十一年ノ起業ニ係ル下條町區
瑤野最川村並條製絲場一ヶ所ノミ纏登ノ數ハ十三個
ナリ

就業日數ハ一ト年百二十日ニ廿一人一日ノ總日ハ二
十五及六合ナリキ

産額ハ一延一退已々ナリト雖モ敢テ増強ノ色ナシ去
ル下六年度ノ産額ハ五千九百斤ナリシニ十七年ハ

僅ニ三千斤ニ減少シ其翌十八年ニ到テハ尙一層減シ
テ二千十三斤ノ最少額トナレリ十九年ハ二千五百十
三斤ニ上リ二十年ハ三千九百九十四斤ニ恢復セリ同
年度ノ收入金額ハ二百二十四千五百二十天田ナリキ

五年ニ對スル平均價額ハ五百五十六十田ニシテ海分額

十三行

玉生絲ノ平均價額ニ比較スレハ一割以上ノ低價ナリ
 或ニ外國産絲ノ全作ニ就キ品位ヲ評スレハ較ニ五等ノ
 地位ヲ占メ可シ
 本縣ノ養蚕製絲ニ就キ産額ノ度合如何ヲ討查比較ス
 ルニ明治二十年度ノ繭ノ産額ハ廿九日十六日ナリ林
 繭日一糸絲量ニ処八分ヲ得ルニ一ト後定スレハ一
 廿三日ロニ貫八百八十丸トナル之ヲ斤量ニ換算スレ
 ハ八百四十三斤ナリ此ノ額ヨリ同年度ノ産額ヲ
 扣除スレハ四百四十九斤ノ差額ヲ生ス由之觀テ四年
 百斤ノ原料ハ繭繭其物ニテ他府縣ニ販賣セザル
 者ノ如シ

十三行

茨城県

生絲

年次	産額	價額	百斤價額	製造家数	一戸製造額
十六	一〇七五〇	五五、六八五	五一八		
十七	一三、三三八	七〇、〇二五	五二五		
十八	一五、九六九	八四、七九五	五三一		
十九	一四、七七三	九七、〇七二	六五七		
二十	三五、八〇〇	二二二、三一八	六二一	五一四	
二十一	三六、五七五	二〇二、六二六	五五四		

茨城縣

本縣、製絲工場ハ明治五年六月起業下総國西葛飾郡
古河町坐繰製絲場同年起業常陸國東茨城郡水戸市
、坐繰工場ヲ以テ現在工場ノ在リモ、ト不其ノ負教
ハ廿九個所ニシテ十人繰以上十六ヶ所二十人繰以上
十ヶ所五十人繰以上三ヶ所ナリ五十九ヶ所ノ繰屋
、總數ハ七百三十七個以内區域七十三個坐繰六百六
十四個ナリ

執業日數ハ一ヶ年半長キモノ二百七十日短キモノ八
十日ナリ又ニ廿一人一日ノ繰目ハ多キモノ三十人ナリ
キモノ十四人ナリ

光緒八年一年ニ増進ノ勢ナリ明治十六年度ノ産額
一萬七千五百ナリシニ二十年度ニ至リハ三万三千

八百斤の上レ、其價額ニ至リテハ産額ヨリモ一層滑
 此ノ有様ナリ即十六年度ハ五百五十六百八十五日ナ
 〇〇〇ニイテ年度ニ及ンテハ二〇二万二千三百十八日
 ノ多キニ至レリ下ナニ掛スル平均價額ハ凡ソ六百二
 十田〇〇〇ナリ等邦産額ノ全年ニ就テ階級ヲ附スレバ四
 等ノ地位ニ至ッヤシ

本縣養蚕製絲ノ度倉ヲ討查比較スルニ明治二十年度
 ノ南ノ産額ハ八千七百三十三石ナリ北南一升ノ絲量ヲ
 七女五分トスレバ六千九百九十九貫七百五十九石ノ絲量ヲ
 得ヘシ之ヲ寸量ニ換算スレバ三千八百八十四石二十三
 斤トナル其内ヨリ内倉製絲ノ産額ニ百五十八百斤ヲ
 扣除スレトキハ二千三百三十三斤ヲ餘スナリ是レ其額
 即チ二千三百三十三斤ニ對スル原料ハ南産其物ニテ地

十三行

ノ存貯ニ漸取セラレ、七ノト見極シテ不可ナキモノ
 如シ

朽木縣

生絲

年 目 次	產 額	價 額	平均 價額	製造 家數	一 戶 製 造 額
十六	二四七一三斤	一三八〇一三四	五八八		
十七	一九〇八一	一〇〇、一七五	五二五		
十八	一九〇五二	一〇一、一五六	五三一		
十九	二九五三五	一九三、九七九	六五七		
二十	四八、四八一	三〇、一〇六七	六二一		
二十一	四〇、七八八	二二、五九六六	五五四		

十三行

栲木綿

本縣ノ製絲工場ハ文政二年五月起業下野國下都賀郡
 森右衛門町四十九番地ノ製絲場ヲ以テ現存工場ノ最
 又在キモ、トス其地又及ニ兼又ハ明治元年ヨリ製業
 ヲルヌノアリト雖モ目下何レモ此條ナルヲ以テ製業
 ノ當時ニアリテハ手繰人織度大キ粗絲ニ外テモサレ
 可シ惟以業ヲ其身間ヨリ子之ヲ續キ孫之ヲ襲ヒテ今
 日ニ經營セリモ、此ノ政州ノ器械ヲ模シ改良ノ先
 鞭ヲ看ケタルモ、ハ同國内郡郡井村大崎高倉ノ製
 絲場ナリ此工場ハ明治四年四月ノ起業ニシテ常ニ聲
 優アリ生絲ヲ製出スル本邦屈指ノ製絲場ナリ本邦製
 絲場ノ總數ハ三十四ヶ町ニシテ十人繰以上二十三ヶ
 町二十人繰以上八ヶ町廿一人繰以上二ヶ町二十人繰以

十三行

上一ヶ町トスル三十四ヶ町ノ繰産ノ繰数ハ一ヶ二十
 五個以内ニ畧減繰産日個産繰産九日二十五個トリ
 一ヶ年産日数ハ長キモノニ百七十日短キモノ八十
 日ニシテ百日前後ノモノ多キニ産レリ又二女一人一
 日ノ繰目ハ其多キモノ四十人少キモノ十四人トリ
 新業日数ノ短キモノ多ク且テ其ノ労力ノ微弱ナル以
 テ之カ不振ヲ徴ス可キナリ

産額ハ其素勢ノ振ヤレモ係ス年一年ニ増加ノ勢アリ
 今明記十六年度ト同廿年度トリ對比スルニ十五年度
 ハ二百四十七百十三年ニシテ二十年度ハ四百八十四
 百八十一ヶノ多キニ至ル乃々二倍ノ増殖ナリ其價額
 七及テハ産額ノ割合ヨリ較々増加ノ勢ヲ示セリ之生
 産ノ改良上ヨリ来リタルモノシハアラスレテ繰價ノ

十三行

昂リシカ爲ナリ即チ十六年度ノ價額ハ百二十八ヶ
 十三日ニシテ二十年度ハ百一ヶ六十七日ナリ試
 ニテ平均ノ産額ヲ七等ニシテ合シ本縣産額ニ階級ヲ附ス
 レハ四等ノ地位ニアル可シ尚價額ニ就テ之ヲ詳セハ
 百六十六日ニテ田内介ナリ即チ海介薪出生産最近年
 度ノ平均價額ニ相當ナリ之カ製込入費ハ其多キモノ
 ノ百ヶノ多キモノハ六十三日多キハ百六十日ナリ
 茲ニ本縣ノ養蚕製繰ノ度合ヲ對比スレハ以前繰産ヨリ
 産額額較々多量ナリ今之カ記録ヲ示セハ去レ明記廿
 年度ノ産額額ハ一万百八十八日ナリ其間一ヶ平均繰
 産七女五分トスレハ七女六日四十一貫目ナリ之ヶナ
 昔ニ較テ下ルトキハ四百七十七日五十六ヶトナリ然
 レニ同年生産ノ産額ハ四百八十四日百一ヶ之ヶ對

照スルニシテヤシクテノ数ノハ原料ハ他ノ地方ヨリ
 購買スルモノ、此ニ

十三行

奈良縣

生絲

年目次	産額	價額	百斤價額	製造家数	一戸製造額
十六	五八一	二七〇七	四六六		
十七	三一九	一五〇六	四七二		
十八	一、〇八八	六、二五七	四七八		
十九	一、五〇六	八、九〇〇	五九一		
二十	一、七二三	九、五七六	五五九		
二十一	五、四四四	二七、一六六	四九九		

奈良県

本縣ノ製糖工場ハ明治二十年六月起業ノ唯糖工場ニ
アルノ之一ハ大和國老野郡下市村ニ一ハ同國宇智郡
五富村ニ在リ而シテ一ハ十人繰以上ニシテ他ノ一ハ
二十人繰以上下リ繰釜ノ數ハニヶ町居セテ三十二個
トス

一ヶ年ノ就業日數ハ長キ方ニ十三日ニシテ短キ方ニ
十五日ナリ又ニ廿一人一日ノ繰目ハ多キモノ二十人
ニシテ少キモノ僅ニ十四人ナリ其卸糖ナル糖ニテ知
ル可シ

産額ハ年一年ニ増進ノ勢アリ本縣ハ昔ハ明治二十年
度ノ設置ナレトモ大阪府ノ管轄ニ係ル年度中ノ大和
國ニ付之カ進退如何ヲ探討スルニ明治十六年度ノ産

類ハ五百八十一年ナリニ同二十年度ニ至テハ七七
百十三年ニ上レリ之ニ乃テ之ヲ見レハ強ト三倍ノ増
進ナリ哉ニ我國ノ産絲ヲ七者ニ正合シ本國ノ産絲ニ
階級ヲ付スレハ五等ノ地位ヲ占ム可シ尚之ヲ價額ニ
就テ評スルトキハ百斤五百五六十圓ニシテ海分輸出
生絲最近年度ノ平均價額ヨリハ一刻以上ヲ減スルハ
品位ナラン百斤ニ對スル製造入費ハ多キモノ七十五
圓方キモノ六十九圓ナリキ

本國産絲製絲ノ度合ヲ對比スレハ産絲親ヨリ收購額
ノ不順ハ多キニ居レリ今之カ記憶ヲ尋ラレハ明治二
十年度ノ産額類ハ六千七百七十七石ナリ採繭一升ヨリ
絲量七匁ヲ得リ得ルモノトスレハ四千三百三十七貫
九匁九ナリ之ヲ斤量ニ換算スルトハ二千三百七十四

十三行

二千トナリ採繭ノ類ヨリ二十年度ノ産額類一千七百十
石斤ヲ採得スレハ二千五百三十九石九斤ノ多額ヲ經
不可ニ足ル餘額ニ對スル原料ハ産繭其類ニテ他種
際ニ輸取セシムルト見滿シテ不可ナキモノ、此ニ

三重縣

生糸

身目次	産額	價額	平均價額	製造家数	一戸製造額
十六	七、六八一	四三、七八二	五七〇		
十七	六、九七五	四〇、三四六	五七七		
十八	六、三九四	三六、七五七	五八四		
十九	八、四一三	六八、三二六	七三三		
二十	一、二八六	八一、〇六五	六八三		
二十一	一、一三四	六八、四七六	六〇九		

十三行

三重縣

本縣ノ製絲工場ハ明治六年五月起業伊勢國度合郡山
 田下中ノ郷町北村製絲場及同國同郡十稜村織家製絲
 場ヲ以テ現存工場ノ古キモノトス然レトモ芝罘製
 一シテ稱揚スルニ足ラス以地方ニ改州凡ノ器械起リ
 多シハ東ニ明治七年六月ナリ此等概ハ同國三重郡
 山村伊藤十左衛門ノ私立創設セルモノニシテ第一油
 外ニ聲價ヲ博シ模範ヲ遠近ニ示スニ足ルハヤ我邦
 指ノ製絲場ナリトス本縣製絲場ノ總數ハ五ヶ町ニシ
 テ十人繰以上一ヶ町ニ十人繰以上ニテ町五十人繰以
 上ニテ町トナス以上五ヶ町ノ總數ハ百七十一個
 以内畧減總數百〇二個也總數六十九個ナリ
 一ヶ年飛業日數ハ多クモ一三二日ナキモノ六十四日

ナリ又エセ一人一日ノ繰目ハ多キモノ平均ニ十六
 才キモノニ至テハ僅ニ十九才ニ過キテ
 産額ハ年々増進ノ有様ナリ今明治十六年度ト同二十
 年度トテ新比スルニ其額較ニ倍ニ近シ十六年度ハ産
 額七千六百八十一才ニシテ價額四百三十七百八十
 日ナリシニ同二十年度ニ至テハ産額一萬一千八百六
 十九才ニシテ價額八百九十百六十五日ニ上レリ或
 邦産絲ヲ七割ニ止メテ本邦産シ階級ヲ付スレハ四
 等ノ地位ヲ在リ可シ故ニ地安ヲ占メ得ルモノハ夫ノ
 宝山製絲場アルカ爲メナリ尚價値ニ兼テ又ノ詳セハ
 百斤六百二十日以上十斤可ク即海外輸出生産ノ平均
 價値ニ相當ス可シ百斤ニ對スル製造ノ費ハ多キモノ
 由五十五日ニシテ少キモノハ十五日ナリ

十三行

茲ニ本邦養蚕製絲ノ度合ヲ新比スレハ産額漸クナリ養
 繭類ノ多キヲ見ル今之ノ事實ヲ示セハ明治廿年度ノ
 産繭類ハ四千三百七十五石ナリ其繭一升ヨリ産量七
 匁五分ヲ得ルモノトスレハ三斤二日ノイニ費目ナリ
 之ヲ斤量ニ換算スレハ二百五十三斤トナル其内ニ
 一周年産ノ産額一萬四千八百六十九斤ヲ扣除スレハ八
 千六百四十四斤ノ餘額ヲ生スヘシ是ハ産額ニ對スル
 産繭ハ成繭其物ニテ化ニ輸販セラルト養種トナリ
 テ土地ノ需用ニ供ヤルモノト見御サレリ得ス

愛知縣

生絲

年 目 次	產 額	價 額	單 價 額	製 造 家 數	一 戶 製 造 額
十 六	四五、一九四	三、五七、六〇六	五七〇		
十 七	四七、九七五	三、七六、八一六	五七七		
十 八	四九、八三八	三、九一、〇五四	五八四		
十 九	四六、六五〇	三、三、七、八〇	七二三		
二 十	四一、五八八	二、八、四、〇、四六	四、八、七	四六七	
二 十 一	四一、七五〇	二、五、四、三、二八	六〇九		

十三三

愛知縣

本縣ノ製絲工場ハ明治三年六月起業尾張國丹羽郡柏
 置村澤本莊在外七ヶ所及岡郡柏木村外一ヶ所計十ヶ
 所ノ工場ヲ以テ現存製絲場ノ最モ古キモノトス其算
 數ハ百三十五ヶ所ニシテ十人繰以上七十四ヶ所二十
 人繰以上五十七ヶ所五十人繰以上四ヶ所ナリ概百三
 十五ヶ所ノ繰釜ノ總數ハ二百六十四ヶ個ニシテ味
 内器成繰釜二百二十七ヶ個坐繰四百十個ナリ
 一ヶ年就業日數ハ多キモノ百八十日短キモノニ至テ
 ハ僅ニ七十日ニ過ラズ以短期七十日位ノモノ十中ノ
 七八ニ居レリ又工女一人一日ノ繰目ハ多キモノ六十目
 少キモノニ及ンテハ菲微十一目ナリキ
 産額ハ他ノ府縣ノ如ク違劣ノ勢ナシ去レ明治十六年

度ノ産絲額ハ四百五十七百九十四斤ナリシニ同二十年
 ニ至リテハ四百五十八百八十八斤ニ減少セリ尤モ此ノ如
 キ些々タル減額ハ敢テ其ノ減少ヲ来ラシ足ラサレモ
 ノニテ先ヨリ進退ノキモノト云テ可ナリ然レバ價額ニ
 至ラハ條價ノ昂リシヨリ十六年度ヨリ二十年度ノ方
 二万六千四百四十日、増加ヲ見ル哉ニ我國産絲ヲ七
 考ニ之分シ本條ノ産絲ニ階級ヲ付スレハ四等ノ地位
 ナレハ可シ百斤ノ價額ハ平均六日二十日内外ニシテ
 海外ニ慕出セシ産絲ノ最近年度ノ平均價額ヲ有スル
 モノナリ又百斤ニ對シハ製造入費ハ多クモ、七十五
 日ヤキモノ、六十九日稍其ノ半半ヲ得テリ
 茲ニ倉庫製絲ノ度念ヲ對照スレハ收蒔額ヨリ産絲額
 ノ方大ニ劣レシモノ、此レ今之カ事實ヲ示セハ明証

十三行

二十年度蒔ノ産額ハ一万五千五百八十四斤ナリ以蒔
 一斗絲量七及五分トスレハ一万斤六日八十八費目ナ
 リ之ヲ斤量ニ換算スレハ七万三千五百五十斤トシ然
 ルニ同年度ノ産絲額ハ四百五十八百八十八斤ナリ是ニ
 由テ見ルトキハ三万四千六百二十斤ニ對スル原料即チ
 蒔ハ番種トナリテ土地ノ帶用ニ供スルト地ノ地亦ニ
 輸取ヲナレ、ス、此レ

靜園錄

生絲

身目次	產額	價額	原價額	第次家數	巨額此額
丁六	一、五三八	五九七六七	五一八		
十七	一、五三八	六〇五七五	五二五		
十八	二〇、八七五	一、〇八四六	五三一		
十九	二六、五五六	一、七四四七三	六五七		
二十	四四、七〇〇	二、七七五八七	六三一	三五八	
二十一	二〇、二五一	一、一三〇八〇	五五四		

十三行

静岡縣

本縣ノ製絲工場ハ明治十一年十一月起業伊豆國那賀
 郡大澤村松崎製絲場ヲ以テ現在工場ノ古キモノトス
 工場ノ員數ハ四ヶ所ニシテ二十人繰以上ニテ五十
 人繰以上ニテ所ナリ石四ヶ所ノ繰登ノ總數ハ百五十
 個ニシテ以内器械日三十階繰ニナリトス
 一ヶ年孰業日數ハ長キモノニ日二十五日短キモノ
 日二十日ナリ又工女一人一日ノ繰目ハ甚多キモノハ
 平均二十ニ及ニシテ甚少キモノハ僅ニ十一及ナリ其
 働微弱ナル其技術ノ幼稚ナル推シテ知ル可シ
 産絲額ハ其業額ノ幼稚ナルニ係ラス年一年ニ増進
 ノ勢アリ明治十六年度ノ産絲額ハ一万余五百三十八
 斤ニシテ價額ハ五万九千七百六十七圓ナリシニ同二

十年産シ五丁ハ産額四百四十七日ナリシテ價額ハ二
 十七万七千五百八十七日ナリ之ニ由テ之ヲ觀レハ
 量ニ於テハ三丁ニテ六丁ニテ増加シ價額ニ於テ
 ハ二十一丁七千八百二十日、増加ナリ其ノ進歩、著
 ルシキ際ニ四倍ノ上ニ出リ他ノ地方ニ多ク其ノ比ヲ
 見ナル可ナリ哉ニ於テ、産絲ヲ七等ニ分シ本縣ノ
 産絲ニ等位ヲ付スレハ先ツ五等ノ地位ヲ得ル可シ
 平均價額ハ五百五十六日ニシテ最近年度ノ海外
 輸出生産ノ價額ニ比スレハ恰ニ其平均價額ヨリ一割
 ク低廉シタルモノナリ故ニ地方産絲百斤ニ對スル製造
 入費ハ多ク又ノ日五十五日少クセシ、六十日ナリ本
 縣ヨリ聲價アル生産絲ヲ製出スル能ハサルニ日百六十
 十五日ノ費用ヲ要スルカ也キ其技術ノ拙クシテ冗費

十三行

ノ多ク知レ可キナリ
 今養蚕製絲ノ度合ヲ比較スルニ産絲額ハ産額ヨリ
 割合ニ多ク其見ル所ニ是ノ事實ヲ示セハ明治廿年度
 前ノ産額ハ六千五百九十一日ナリ其前一年産額七
 丁二丁トキハ四千六百十三日、其後七丁目之ヲ計量シ標準
 スルトキハ二千八百八十三日トキハ然レニ日廿
 年度ノ産額額ハ四百四十七日ナリ其額ヨリ二丁八
 千八百三十日ナリ其際スルトキハ一丁五千八百六十
 四日ノ餘額ヲ生スルノ餘額ニ對スル原料即ケ繭ハ之
 ヲ他ノ地方ヨリ購買シテ生産ト為スモノ也シ

山梨縣

生絲

年 目 次	產 額	價 額	百 斤 價 額	製 込 家 數	一 斤 製 込 額
十 六	二七三、五三三	一、六三〇、四三五	五九六		
十 七	一五〇、五五〇	九〇九、三三三	六〇四		
十 八	二四三、一一九	一、二四一、〇五七	六一一		
十 九	二一九、五三八	一、六五九、七〇七	七五六		
二 十	二五〇、三三三	一、七八七、三三五	七一四		
二 一	二八七、八九四	一、三三三、八八五	六三七		

十三行

山梨縣

本縣ノ製絲工場ハ慶應二年六月起業甲斐國西山梨郡
 山田所御佐七ノ製絲場ヲ以テ現在工場ノ古キモノト
 ス工場ノ員數ハ總計二百二十ヶ所ニシテ十人繰以上六
 十八ヶ所二十人繰以上九十一ヶ所五十人繰以上三十一
 三ヶ所百人繰以上八ヶ所二百人繰以上二十ヶ所トス右
 二百二十ヶ所ニ對スル繰屋ノ數ハ合計七ヶ所五十個ニ
 シテ其内岩城繰屋七ヶ所十二個壺繰屋三十八個トリ
 一ヶ年熟業日數ハ長キモノ二百日ニシテ短キモノハ
 僅ニ五十日ナリ又工女一人一日ノ繰目ハ多キモノ六
 十一女ナキモノニ至テハ平均僅ニ十一女ニ過キ不致
 術ノ拙キ推知スヘキナリ

産額ハ年々消長ナシニアラスト雖モ常ニ稍手荒ラ保

4 産 170、此 150 明治十六年度ノ産絲額ハ二十
 七万三千五百六十斤ニシテ以價額ハ百六十三万四
 百三十五円十リ同二十年度ノ産絲額ハ二十五万三千
 十三斤ニシテ以價額ハ百七十八万七千二百三十五
 円十リ之ニ由テ之ク觀レハ産絲額ハ二十年度ニ於テ
 二万三千四百五十斤ヲ減シカレバ價額ニ於テハ却テ
 十五万六千八百円ノ増加ナリ是ヲ増加ハ業勢ノ成分
 ノ進ニシテト絲價相場ノ昂リシカ爲メナリ今茲ニ裁
 抑ノ産絲ヲ七等ニ区分シ本縣ノ産絲ニ階級ヲ付スレ
 ハ二等ノ地位ニ在ルヘシ尚價額ニ就テ詳下スレハ百
 斤六百七十八円ニシテ海外輸出生産品近年度ノ平均
 價額ヨリ一割五分以上ノ高價ニ在リ又百斤ニ對スレ
 製造入費ハ多クモ七円十七分ニシテテケキモノハ五十

十三行

四ナリ
 本縣蚕糸製絲ノ度合ヲ對比スレハ産絲額ヨリ産額類
 甚々多クモ一産レノ今之カ事實ヲ示セハ明治二十年度
 ノ産額類ハ五万五千八百八十九斤、平均一斗平均八
 匁五分ノ絲量トスレハ四百六十九匁八匁八分十リ
 之ヲ斤量ニ換算スレハ二十九万三千四百八十六斤十
 ル然ルニ同二十年度ノ産額類ハ二十五万三千三百三
 十斤ナリ以テ差ハ四百八十八斤七十三斤ナリ是等差
 額ニ對スル原料ハ養種トナリテ土地ノ需用ニ供セウ
 ルト他ノ地方ニ輸送セウルト、ト繭其物ニテ販賣ス
 ルモノ、此ノモノニテ繭ノ主ナル賣除ハ長野縣ニシ
 テ他縣縣ニ出ツルモノハ甚僅ナリモノ、此ニ

滋賀縣

生絲

年月次	産額	價額	百斤價額	製造家数	一戸製造額
十六	九三、六一三	五五七、九三三	五九六		
十七	二二、五三八	一、三七七、六九〇	六〇四		
十八	二六、八〇六	一、六三三、八三五	六一一		
十九	二七、二一九	二、〇五七、三二〇	七五六		
二十	二五、〇三八	一、七五九、八八五	七一四		
二十一	一五、七四三	一、〇〇二、七二一	六三七		

十三行

滋賀縣

本縣ノ製絲工場ハ明治十年六月起業近江國犬上郡平
 田村産根製絲場ヲ以テ現在工場ノ古ルキモノトス工
 場ノ負數ハ十七ヶ所ニシテ十人繰以上凡テ所二十人
 繰以上七ヶ所五十人繰以上一ヶ所十人繰十七ヶ所ノ
 繰全ノ總數ハ四百二十個ニシテ若城繰屋百個繰屋三
 百二十個ナリ本縣製絲場ノ數ハ近時ニ三ヶ所新設セ
 本年度ノ調査ニ依リ

一、八年就業日數ハ長キモノ三日短キモノハ八十
 日ナリ又工女一人一日ノ繰自ハ多クモ二十三日ニ
 シテ少キモノハ僅ニ十一日ニ過ヤス其働キ微弱ニシ
 テ技術ノ拙ヲ推シテ知ル可シ

産絲額八年々増強ノ勢ナリ明治十六年度ノ産絲額ハ

九千三百六十元十三年に於ては、價額ハ五十五万七千九百
 二十三元に達し、然るに同廿年度に至るハ、産額二十五万
 百三十八元にして其價額ハ百七十八元五角九分八十
 五厘に上り、即ち前年を越え、於てハ十五万六千五百二十
 五元を増加し、價額ハ於てハ百二十万八千五百二十二元
 増加したるに對し、其増加ノ若しハ僅に五年に
 して二倍以上を達せり、故に、本邦ノ産額ヲ七等に分
 ち、本邦ノ産額ノ階級ヲ分すレハ、第一等ノ地位ヲ占ム
 へし百十ノ價額ハ平均六元七八十圓にして、海外輸出
 生産最近年度ノ平均價額より一割五分以上ノ昂價ヲ
 示す、又之ノ前年ハ製造ノ費用ハ少キモノ五十八圓にレ
 テ多キモノハ百七十九圓に達せり、
 茲ニ養蚕製絲ノ産額ヲ對照スレハ、産額總より、産額總

十三行

頗る多キモノ、此に於て又カ事實ヲ示セハ、明治二十年
 度ノ産額總ハ七百八千三百七十三元、其後漸一外絲
 量ハ、又三令ト改定スレハ、六万五千四百九元五百九十
 元ナリ、之ヲ前年ニ換算スレバ、四十万六千五百六十
 十元トナル、然るに同年度ノ産額總ハ二十五万三千三
 十八元ナリ、是ニ由テ是ヲ見レハ、十五万六千四百二十二
 元ニ對スル生産ノ原料即ち繭ハ、養種トナリテ土地又
 ハ他邦製ノ需用ニ供スルハ、繭其物ニテ他ノ地方ニ販賣
 せらる、又ノ、此ニ

岐阜縣

生絲

年度	產額	價額	平均價	製造家數	下製造額
十六	一四六七七五斤	八七四七七九圓	五九四		
十七	一五八二二三	九五五九〇九	六〇四		
十八	九四〇〇〇	五七四三四〇	六一一		
十九	二四一四六三	一八二五四六〇	七五六		
二十	二三七五九四	一六九六四二一	七一四		
二十一	二二六五〇〇	一五〇六五〇五	六三七		

十三行

岐阜縣

本縣、製絲工場ハ明治元年起業、漢國各府、部ニ井村
 石井、甲、卯、製絲場ヲ以テ現存工場ノ最古キモノトス
 工場ノ數ハ總計三百二十一個所ニシテ十人繰以上ノ
 モノ二百十一ヶ所、二十人繰以上ノモノ九十八ヶ所、五
 十人繰以上ノモノ八ヶ所、百人繰以上ノモノ三ヶ所、十
 人繰以上ノモノ一ヶ所ノ繰屋ノ總數ハ六ヶ所ニシテ九十一
 個ニシテ都ヲ畧域ナリ
 一ヶ身新業日數ハ長クシテ百人十日、繰リシテ廿七日
 ナリ又女子一人一日ノ繰目ハ多クモ七十一次、少クモ
 七十一次ナリ平均繰目ノ七十一度ナル工場ハ外國ノ
 工場ニ於テ多ク見サル所ニシテ最モ上等ノ當キナリ
 トス然レモ此等ノハ贅價アル長絲ヲ製出セサル工場

十三行

ニハアヲヤル歟又一曰一人十匁十匁モ、ハ極メテ僅
クニシテ他ニ多ク其ノ比ヲ見テハ可ナリ既スルニ本邦
ノ産額ハ二十匁乃至三十匁五匁ノ多ク其材術ノ
拙キ推シテ概ハヘキナリ

産額ハ一年ニ増強ノ勢ヲ示セリ明治十六年度ノ
産額ハ十四匁六匁七匁七十五匁ニシテ價額八十七匁
四匁七匁七十九匁ナリ然ルニ同ニ十年度ノ産額ハ二
十三匁七匁五匁九十四匁ニシテ價額ハ百六十九匁
六匁四匁二十匁一匁ナリ乃チ産額ニ於テハ九万八千十
九匁價額ニ於テハ八十二万六千四百二十匁、増強ナ
リ頃ニ著シテ増強ト認マヘキナリ今我ニ我邦ノ産額
ノ七等ニ区分シテ本邦ノ産額ニ階級ヲ分スレハ芥ニ
芥ノ地位ニアレ可シ百匁ノ價値ハ平均六匁七八十匁

十三行

ニシテ海外輸出生産最近年度ノ平均價格ヨリハ一割
五分以上ノ昇價ナリトス又百匁ニ對スル製造入費ハ
多クモ、百三十四匁ナリトシ至チハ僅ニ四十四匁ナ
リ是故四十四匁ナリトシ極メテ粗造ナルモノヲ出
スニアラスハ到底成レ得ヘカラスナリト思科ス
茲ニ養蚕製絲ノ産額ヲ對照スレハ産額額ヨリ産額額
ノ多キヲ見ル今之ノ事案ヲ示セハ明治二十年度ノ産
額ハ七匁六匁六匁六十九匁ナリ秋蘭一分採集ヲ八匁
三分ト收獲スレハ五匁九匁四匁八十五匁ニ至七十匁
ナリ之ヲ平均ニ採集スレハ三十七匁七匁八十三匁
トナル然ルニ同ニ十年度ノ産額ハ三十三匁七匁五
匁九十四匁ナルヲ以テ百三十四匁四匁四匁十九匁ノ
産額ヨリ生ズ是ハ産額ニ對スル原料ハ養種ナリナリ

地ノ需用ニ供スルハト爾其物ニテ地ニ販賣スルモノト
 見知シテ不可トキモノ、此ノ

十三行

長野縣

生絲

年月次	產 額	價 額	百斤價額	製造家數	一戶製造額
十六	五〇九、三四四	三、一六八、二二四	六二二		
十七	一四、五七、九〇六	九、八四、八〇八	六三〇		
十八	三、六四、七七五	三、三三、三六〇	六三七		
十九	七、九八、九九四	六、三九、六〇三	七八八		
二十	八、一四、六三八	六、六九、〇五三	七四五		
二十一	八、四七、五五六	五、四一、八〇七	六三五		

長野縣

本縣ノ製絲工場ハ明治元年起業信濃國南支曇郡倭村
 中師利洋次ノ製絲場ヲ以テ現在工場ノ在キモノトス
 工場ノ数ハ總計四百九十三ヶ所ニシテ十人繰以上ノ
 工ノニ百七十四ヶ所二十人繰以上ノモノ百九十九ヶ
 所五十人繰以上ノモノ十五ヶ所百人繰以上ノモノ三
 ヶ所二百八人繰以上ノモノ二十ヶ所計四百九十三ヶ
 所ノ繰合ノ總數ハ一千五百五十二個ニシテ以內若
 一ヶ年ノ就業日數ハ長キモノ二百五十日短キモノ五
 十二日ナリ概スルニ二百四十五日ノモノ多數ヲ占ムル
 モノハ姑シ又ニ廿一人一日ノ繰目ハ多ク又ノ平均ハ
 十八日ニシテ大概四五十日ノ間ニ在リ然レモ其ノ中

七ノニ至テハ僅ニ十三四ノ平均ニ過キサル印程ノ
 二場其間ニ懸セリ又労働時間ノ長キモノハ十四時乃
 至十五時ヲ使役セリ之等ノ工場ニ於テハ其熟練セル
 工女ハ新爾即ケハ九月ノ候ニハ一人一日百内外ノ
 結算ヲ得ル得ルニ至ルル如キ労働時間ノ長キ工場
 ニテハ未明又ハ黄昏ニ及ビテハ数個ノ「ランプ」ヲ場中
 ニ照燈シテ明ヲ取ルノ習慣アリトス業色ニ此斯故ニ
 鎌目ノ多キト生産費ノ少キトノニ懸テリ経済ヲ支持
 シ今日ノ域ニ達シタリモノ、此ニ是別ノ本業ノ余固シ
 尠クハ所収ナリ
 産額ハ年一年ニ増強ノ勢ヲ表ハス一進一退時ニ或ハ
 非常ノ増強ヲ見ルモ其ノ次年ニ至リテハ頗ルニ其額ヲ
 減シ殆ト平額ニモ上ラザルコトアリ必竟此ノ如キハ

十三行

産業ノ盛衰ニ基シタルニ外ナラズモノ、如ク現シ
 出ル明証十七年度ハ爾ノ産額較トニ倍ニ増加セリ
 日ノ産額ノ産額ハ稍ニ三倍ノ近キマテニ増強ノ勢
 也然ルニ翌十八年ニ至テハ爾ノ産額四分ノ一減リ
 ニ低減セシメリ此等産額ニ元々一併テテ一様ノ減額ヲ
 見ルニ至レリ是ノ如ク進退遷移セル時日固ニ漸次
 ナシテ来レリ即チ明証十六年度ノ産額ハ五十九
 千三百四十四千ナリニ同二十年度ニ至テハ八十一
 千四百六十三千ナリニ上レリ價額ハ十六年度三十三
 千八百八十四千ニ同日ナリニ同二十年度ニ至テハ六
 千六百五十五千ニ同日ニ増加セリ亦業ニ於テハ二十
 年ノ増加ヲ見ルニ價額ハ二日九千四百餘ノ増加ニ
 ナリ較ニ倍ニ近シ若ク歩ヲ進メ来リシノ狀勢以テ見ル

可_レ今_レ試_ニ 採_採ノ 産_産絲_絲ヲ 七_七等_等ニ 已_已分_分シ_テ 本_本際_際ノ 産_産絲_絲
 二_二階_階級_級ヲ 付_付ス_レハ 昔_昔一_一等_等ノ 地_地位_位ヲ 保_保ツ_ハシ_テ 百_百付_付ニ 對_對
 ス_ルハ 平均_{平均}價_價概_概ハ 先_先ツ 七_七日_日新_新ニ_シテ 海_海外_外輸_輸出_出生_生産_産最_最
 近_近年_年度_度ノ 平均_{平均}價_價概_概ヨリ_ハ 二_二割_割ノ 高_高價_價ニ_シテ 其_其聲_聲價_價高_高
 カ_リシ_トコ_ト抑_抑内_内ニ_比テ_キヤ_ノ 有_有採_採ヤ_リ然_然レ_トモ 熟_熟ヲ 本_本
 際_際ノ 産_産絲_絲ヲ 實_實地_地ニ 照_照核_核ス_レハ 絲_絲價_價較_較テ 勝_勝レ_ルニ_アラ_ズ
 下_下地_地外_外商_商ノ 皆_皆好_好ヲ 惹_惹ク_シ最_最之_之長_長シ_タル_ニモ_ハ 色_色澤_澤ノ
 美_美麗_麗采_采裝_裝ノ 整_整齊_齊個_個數_數ノ 多_多額_額一_一採_採ノ_モ多_多足_足以_以三_三熟_熟テ
 リ_ト下_下又_又百_百付_付ニ 露_露ス_ル 製_製法_法入_入費_費ハ 概_概テ 百_百付_付内_内外_外ノ 工
 場_場多_多シ_テ然_然レ_トモ 其_其多_多キ_ニ至_至テ_ハ 百_百付_付内_内外_外ノ 要_要ス
 ル_ニモ_ハ 下_下アリ_テキ_ニモ_ハ 僅_僅ニ 五_五十_十付_付ニ 過_過テ_キル_ニモ_ハ 下_下
 リ_テ其_其若_若械_械ノ 租_租送_送ナル_ニ至_至テ_ハ 本_本邦_邦中_中又_又其_其比_比ヲ 足_足キ_ル
 ノ 状_状況_況ナ_リ是_是ニ_乃テ 足_足リ_テ觀_觀レ_ハ 製_製絲_絲工_工業_業ハ 甚_甚械_械ノ 精_精

十三行

巧_巧ニ_アラ_スシ_テ人_人為_為ノ 精_精練_練ニ_アル_ニモ_ハ、 如_如シ
 茲_茲ニ 養_養蚕_蚕ト 製_製絲_絲ト_ノ 度_度居_居ヲ 照_照查_查ス_ルニ 産_産絲_絲額_額ヨリ 産_産
 繭_繭額_額ノ 額_額ハ 巨_巨大_大ナ_リシ_テ見_見ル_ニ今_今之_之日_日華_華東_東ヲ 示_示セ_ハ 即_即法
 二十_{二十}年_年度_度ノ 産_産繭_繭額_額ハ 十九_{十九}万_万九_九千_千三_三百_百九_九十_十リ 其_其繭_繭一_一付_付
 ノ 産_産繭_繭ノ 八_八分_分ト 收_收入_入ス_レハ 十六_{十六}万_万九_九千_千四_四百_百五_五
 貫_貫目_目ナ_リ之_之ヲ 付_付繭_繭ニ 換_換算_算ス_レハ 百_百五_五万_万八_八千_千七_七百_百八_八十
 一_一付_付ナ_リ其_其内_内ヨリ 同_同年_年度_度ノ 産_産絲_絲高_高八_八十一_{十一}万_万四_四千_千六
 百_百三_三十_十八_八千_千九_九百_百九_九十_十付_付ナ_リニ 十_十四_四万_万四_四千_千四_四百_百三_三十_十付_付ノ
 餘_餘額_額ヲ 生_生ス_ル是_是ハ 餘_餘額_額ニ 對_對シ_テ 舊_舊科_科即_即チ 繭_繭四_四万_万五_五千_千九
 百_百五_五十_十六_六千_千九_九百_百九_九十_十付_付ナ_リ概_概テ 舊_舊科_科ト_テリ_テ 土_土地_地ノ 産_産種_種ト_テリ
 又_又ハ 此_此新_新際_際ニ 取_取出_出ス_ルニ_モ、 如_如シ 其_其餘_餘額_額ノ 繭_繭額_額ヲ 以_以
 テ 舊_舊科_科ヲ 製_製造_造ス_ルニ_モ、 下_下收_收入_入ス_レハ 九_九万_万二_二千_千三_三十_十万
 貫_貫ノ 舊_舊科_科タル_ニ可_可シ_テ然_然レ_ト又_又是_是走_走リ 舊_舊科_科ハ 十_十万_万ニ_アラ_ズ

スレテ解島地所ノ繭其物ニテ輸販スルモノモ亦ナカ
 三カハニ似たり

十三行

福嶋縣

生 絲

年月次	産 額	價 額	平均額	製造家数	一戸製造額
十六	二二三四〇斤	一五七三九四〇	五九六		
十七	三三四五三八	二〇八〇六一〇	六〇四		
十八	三四三、六七五	二〇九九八五四	六一一		
十九	三三九五一一	四、五九二一八	七五六		
二十	六四八七七五	四、三三三、三五四	七一四	一、九六二	
二十一	四九六七三一	三、六四、七六	六三七		

福嶋縣

本縣、製絲工場ハ慶應元年七月起業、岩心園、南、金津、郡、
 福米、得村、現、貴一、製絲場、及、岩城、園、西、白、河、郡、白、河、所、
 橋、本、金、即、製絲場、ヲ以テ、現在、工場、ノ、在、キ、モ、ト、又、工、
 場、ノ、負、教、ハ、総、計、ニ、三、十、四、ヶ、所、ニ、シ、テ、十、人、繰、以、上、十、九、個、
 所、二十、人、繰、以、上、三、ヶ、所、五、十、人、繰、以、上、四、ヶ、所、引、人、繰、以、
 上、四、ヶ、所、二、百、人、繰、以、上、四、ヶ、所、ト、又、在、三、十、四、ヶ、所、繰、登、
 、總、數、ハ、四、千、八、十、二、個、ニ、シ、テ、内、岩、城、繰、登、百、七、十、八、個、
 坐、繰、登、三、千、七、百、四、個、ナリ、
 一、ヶ、年、新、業、日、數、ハ、長、キ、モ、二、百、五、十、日、短、キ、モ、ハ、七、
 十、日、ナリ、又、工、女、一、人、一、日、ノ、繰、目、ハ、多、キ、モ、ハ、平、均、四、
 十、二、匁、ナリ、少、キ、モ、ハ、平、均、ニ、至、テ、ハ、僅、ニ、十、四、匁、ニ、過、キ、ス、
 大、抵、二、十、五、匁、乃、至、三、十、目、ノ、間、ニ、在、リ、本、縣、ハ、業、務、ノ、支、

十三行

ノコテ其危ヲ得シタルニモ係ラス本業ノ花違セサル
ハ軍配取ト稱スル従来ノ半繰器ヲ使用スルモノ多ク
番械ニ場ノ之ニキリ由レリ凡テ養蚕業ニ迄テ得シタル
モノハ伊達信丈ニ郡ニ老練ノ種師アリテ養蚕ノヨリ
スルト明治五年ノ條ニ本松ニ吹州凡ノ製絲場起リ
製絲及番茶ノ改良ヲ促シタリヨリ番種番絲ノ聲價ヲ
増シ延レテ今日ニ至レ凡者ノ如シニ本松汽笛ノ聲ハ
耳ヲ敏シタ今ハ只腕力ノ繰車ノ聲アリ手故ニ製絲ハ
利ニ改良ノ状ナシ

産額 八年一年ニ増強ノ勢アリ明治十六年度ノ産絲高
ハ二十六万二千四百六十九リシニ同二十年度ニ及テ
ハ六十四万八千七百七十五リ上レリ價額ハ十六年
度百五十九万三千九百四十四リシニ同二十年度ニ

十三行

至テ八十四百六十リニ至テ百二十四日ニ増加セリ斯
ノ増加シタルモノハ軍ニ産額ノ増加シタルノ之ニア
ラスニテ價額ノ二十年度ノ昂リシト爲リテ然レト
モ免ニ南ニ石臼日ノ進ニハ若シキモノナリ吾作ニ
對スル製送入費ハ多キモノ日五十日以上ニシテ十ヤ
モノ七十日イリ今我ニ外國ノ産絲ヲ七等ニ分レ本
縣ノ産絲ニ階級ヲ付スレハ第一等ノ地位ヲ在ル可シ
第二等ノ對スル平均價額ハ六日七十日計ニシテ海外輸
出生産品近年度ノ平均價額ヨリ一割五分以上ノ高價
ナリトス

茲ニ養蚕製絲ノ度各ヲ照査スルニ産絲額ヨリ産額
ノ多キヲ見ル今之カ量度ヲ示セハ明治二十年度ノ
産額ハ十二万七千六百二十五石ナリ秋蘭一斗絲量凡

ト彼更スレハ十一万四千三百五十八圓五拾日ヨリ之
 ク片葉シ増葉スレハ七十一万四千七百四十一斤ト下
 ル故ノキヨリ同年度ノ産額高六十四万八千七百七十
 五斤ヲ北澤スレハ六万五千七百六十三斤ノ餘額ヲ生
 ス是故餘額ニ對スル際兩ハ凡ソ一万四千七百二十七斤
 餘シシテ概ニ悉奪トナリテ土地ノ稔穰トナリ又ハ他
 ノ府縣ニ販賣スルモノ、此ニ然レトモ故餘額ナル際
 和シテハ大約五十八万六千餘斤ノ稔穰トナリテハ得
 テ裝スヘリヲサレモノトシレハ原産其物ニテ他方ニ販
 出スルモノトシト見御ニテ不可ナキモノ、此ニ

十三行

鹿城縣

生絲

年次	産額	價額	百斤價額	製造家數	一戸製造額
十六	七、七三三、五	一、四一、三三六	五、一八		
十七	八、八三、一	四、四、〇〇〇	五、二五		
十八	八、九六、三	四、一、七、七四	五、三一		
十九	一、三六、五、三九	八、九七、三、五八	六、五七		
二十	一、四五、二、〇九	九、〇、三、八九	六、二一		
二十一	一、四四、〇、〇〇	七、九七、七、六〇	五、五四		

巨城縣

本縣ノ製糖工場ハ明治十三年八月起業陸前岡本若邸
 横山村横山製糖場ヲ以テ現在工場ノ在キモノトス工
 場ノ數ハ總計十ヶ所ニシテ十人繰以上ニケテ二十人
 繰以上ニケテ五十人繰以上ニケテ五十人繰以上ニケテ
 十ヶ所十ヶ所ノ繰屋ノ總數ハ六十個ニシテ巨城繰
 垂四日口丸佃半繰屋ニ日口一個ナリ
 一ヶ年能業日數數キモノ三日日繰キモノ凡十日ナリ
 又工女一人一日ノ繰目ハ平均多キモノ三十日外ニシ
 テ其少キモノニ至テハ僅ニ十日ナリ本縣ハ元彌島
 縣ノヤ作番業トモ謂フヘキ状態ナリシヲ去ル十六年
 ノ候ヨリ其面目ヲ一進ニ大ニ改良シ氣象ヲ視出シ遂
 ニ今日アテテ數セリ然レトモ困難ノ久シキ猶或ハ福

島地方ノ商賈ニ一時リ時トシテ制カラル、有様ナリ
 然レトモニ本松ノ相統者伊具邸全クニ生レタルノ状
 況ナレハ今ヨリ改良ノ途ニ就リコト火ヲ見ルニシテ
 一ノ可シ今日ノ状況ヲ以テ將來ヲ推ストキハ福端ニ
 一歳ヲ輸下年ヲ期シテ候ツヘキナリ
 産額ハ年一身ニ増強シカレトモ九年度ニ至テハ大ニ進
 ニ廿年度ハ尚一層ノ進歩ナリ今十六年度ノ産額ト廿
 年度ノ産額トヲ對照スレハ強ニ流ノ増加ナリ即チ十
 六年度ハ七百七十ニ百二十五ナリシニ廿年度ハ十
 四百五十四ナリシニ上リタルハナリ又價額ハ十六年
 度ニ十四百ナニ百二十六日ナリシニ二十年度ニ至テ
 ハ九百下三百八十九日トナレ、産額ニ比スレハ價額
 ノ額ハ上道セルヲ見ル可シ其増加ハ強ト云候以上ナ

十三行

リ是れ改更ノ如ク、ミナラス絲價ノ昇騰セルカ為メ
 ナリ今紙ニ於テ、産額ヲ七等ニ分シ水陸ノ産額ニ
 各位ヲ付スレハ四等ノ地位ニ在リ右ノ對スル平均
 價額ハ六百ニ百四十ナリ可シ海外輸出生産最近年度
 平均價額ニ相當スルモノ、此ニ又五百ナリ對スル製造
 入費ハ多キモノ百四十ニ百六十ナリ、六十四日ナリ
 今卷卷ト製造トノ度合ヲ對照スルニ去年ノ蘭
 ノ産額ハ四百ナニ百十七ナリ四年ノ産額高ハ十四
 百五十四ナリナリナリ以テ材料所蘭ハ二百七十九
 百七十ナリナリナリナリトヤハ、一、百三十四ニ百三
 九ナリ、蘭ノ條ハスノニシテ之ヲ製造シテ斤量ニ見
 積レハ六百八十九ナリナリナリナリナリナリナリナリ
 此更ニ依テ是レハ、一、百三十四ナリ、蘭ハ卷種トナリテ

土地ノ常用トナリ又ハ他方ノ常用ニ使シ或ハ備蓄物
ニテ他ニ輸配セラル、モノト見テ不可トナラン

岩手縣

生絲

年次	產額	價額	百斤價額	製造家數	一戸製造額
十六	三九、六五六	二〇五、四一八	五一八		
十七	三九、六五六	二〇八、一九四	五二五		
十八	一八〇、七三五	九五九、六五〇	五三一		
十九	一七〇、八三八	一、一三三、四〇六	六五七		
二十	七六、三三三	四七三、三八三	六三一		
二十一	七〇、四一三	三九〇、〇八八	五五四		

若手跡

本縣、梨給工場ハ明治十六年八月起業陸中園禱管郡
 黒川口村、生藤製絲工場ヲ以テ現在工場ノ古キモノ
 トス工場ノ数ハ後新十五ヶ所ニシテ十人繰以上一ヶ
 所二十人繰以上七ヶ所五十人繰以上四ヶ所百人繰以
 上ニヶ所ニシテ人繰以上一ヶ所ナリ概十五ヶ所繰屋、
 繰敷ハ九百二十二個ニシテ畝域繰屋二百七個生繰屋
 七百十五個ナリ
 一ヶ身就業日数ハ長キモノ三日日短キモノ五十四日
 ナリ又男女一人一日ノ繰目ハ多キモノ二十九反ナキ
 モノニ至テハ僅ニ九反ナリ技術ノ分辯ナル地ニテ知
 ル事ニ

産額額ハ年々増進ノ勢アリ示セリ明治十六年度ノ産額

ハ三十九年六月五日不介ナリシ一同一十年度ニ至テ
 ハ七下六千二百十三介トナレリ又愛親ニ於テハ十六
 年ハ二十下五千四百十八日ナリシニ二十年ニ至テハ
 四十七下三千二百八十三日ニ増加シタリト量ニ於テ
 ハ三下六千五百五十七介ヲ増シ全額ニ於テハ二十六
 万七千八百六十五日ヲ増シタリシニ若シキ進
 歩ト認ツヘキナリ哉ニ秋野ノ産端ヲ七等ニ区別シテ
 本端ノ産端ニ階級ヲ付スレハ四等ノ地位ヲ占メ入シ
 巨ヤノ價値ハ下ヤニテ田新ニシテ最近年度海外輸出
 仕條ノ平均價格ニ相當セリ百介ニ對スル製造ノ費ハ
 多キモノ也六十八日方キモノト雖七百〇二日ノ費セ
 リ労力ノ微弱ニシテ費用ノ多キ以テ見ル可シ
 今養蚕ノ製端トノ度合ヲ照査スルニ明治廿年度ノ繭

十三行

ノ産額ハ二万四千五百九十石ナリ致一外産量七反
 ト収束スレト一万七千二百十五貫石反ニシテ之ヲ介
 算ニ據系スルトキハ十下七千五百九十四介トナル致
 内ヨリ同年産ノ産額七万六千二百十三介ヲ扣除ス
 レハ三下千三百八十一介ノ餘額ヲ得ス是次餘額ニ對
 シル爲科ハ養種トナリテ土地ノ需用ニ供スルト繭其
 物ニテ他ニ販賣スルモノナラン歟

青志物

生絲

身月次	産	額	價	額	平均價	製造家数	一三製造額
十六	八四四	三九三三	四六六				
十七	八四四	三九八四	四七二				
十八	一六三五	七七八八	四七八				
十九	三八一三	二三五三五	五九一				
二十	五〇八八	四四八八八	五五五				
二十一	五五二九	二七五四〇	四九九				

十三行

青森縣

本縣、製絲工場ハ文政元年五月起業文政元年八月令リ
 身ノ税シシルモニ方積ハ固酒十ハ筒群ヲ用井太事
 之其子孫能ク之ヲ修置シ今日ニ至リタハ八怨リ明治年開
 進前行ハルハ歩懸器城ニ改メタルハ怨リ明治年開
 寸許リノ長トナシ其ノ内郡ヲ兼テ去リ之ニ糸ヲ卷キ
 取リタリ陸奥國中津輕郡純濃所ノ坐繰紫絲場ヲ以テ
 現存工場ノ最ニ古キモノトス工場ノ數ハ概計六十所
 ニシテ十人繰以上二十所二十人繰以上三十所五十人
 繰以上一ヶ所十人繰以下六十所繰屋ノ總數ハ百八十三個
 ニシテ器城ニ十八個吐繰五十五個ナリ
 一ヶ年飛蠶日數ハ長キモノ百二十日短キモノニ至テ
 ハ僅ニ三十日ナリ又女子一人一日ノ繰目ハ多キモノ
 四十目ニシテサナキモノハ十三目ナリ

十三行

産絲額ハ毎一年ニ増強ノ勢アリ明治十六年度ノ産額
 ハ八四四一四キナリシニ同十七年度ニ至テハ五千八十
 八キニ上レリ此ノ増加ノ著シキ以テ見ル所ニ然レト
 又尙僅クナルヲ以テ二十年度ノ産額ハ四万四千八百
 八十八田ニ至キス試ニ存テ、産絲ヲ七キニ已割ニ本
 路ノ産額ニ等級ヲ付スルハ五等、地産ニ在ル可シ否
 并ノ價格ハ凡五田五六十田ニ至テ最近年度海外輸出
 半價平均價格ニ比スレハ一割以上ノ低價ナリト又
 吾等ニ對スル製造入費ハ斯ル粗絲ヲ出スニ係ラズ
 甚ク多クモ元ノアリ其甚シク老ニ至テハ百六十田十
 リ何ノ支燕雜ナル想ハカナル甚シキナリ又サキ元ノ
 ニ於テハ六十田十リ是即價格ニ對スル相當ノ量甲
 ナラン

十三行

養蚕ト製絲トノ度全ク照査スルニ蘭ノ産額ヨリ生絲
 ノ産額較多キヲ見ル今之ノ事實ヲ示セハ明治廿年度
 ノ産額額ハ一十百三十石ナリ以蘭ヨリ絲量不処不
 分ヲ繰リ得ルモノト彼反スレハ七百四十七貫七石八
 十九ナリ之ヲ并業ニ轉業スレハ四百六十七石四ナリトナ
 ル然ルニ同年度、産額額ハ五千石八十八斤ナリ是ニ
 由テ是ヲ觀ルト千八百四十四キニ對スル為料ハ他ノ
 地方ヨリ購買スル為、此ニ

秋田縣

生絲

年 目 次	產 額	價 額	百 斤 價 額	製 造 家 數	一 戶 製 造 額
十六	二四、四一九	一、三三九、三三	四六六		
十七	四〇、二一九	一、八九、八三四	四七二		
十八	四七、三三三	二、二六、九五	四七八		
十九	六三、〇〇六	三、七三、五四七	五九一		
二十	四九、八二五	三、七八、五三三	五九九	一、五三七	
二十一	四五、六五〇	二、二七、七九四	四九九		

十三行

秋田縣

本縣ノ製絲工場ハ明治十九年以在起業ノ製絲場ノ之
其負數統計七ヶ町ニシテ十人繰以上四ヶ町二十人繰
以上ニシテ五十人繰以上一ヶ町十人繰以上七ヶ町繰全
統數ハ百六十一個ニシテ畧城繰全百三十個ハ繰全ニ
十一個ナリ

一ヶ年飛業日數ハ多クモノ百二十日ナキモノハ五十
五日ナリ又工女一人一日ノ繰目ハ多クモノニミテ十
七処方ナクモノニ至テハ僅ク九処ニ過キ又技術ノ幼稚
ナル以テ見ル可シ

産絲額ハ漸ク増加シ明治十一年ニ二百四ヶ百四十
九斤ナリレニ同廿年ニ至テハ四百九十八斤ニ十五斤
ニ達セリ又其價額ハ十一年ニ十一万三千七百九十三

田ナリモシ同七年ニ到リハシ十七百八十五日ニヤシ
田ニ増加セリ熟レヨリスルニ係以上ノ進歩ナリ
ニ本邦産物ヲ七等ニ正命ニテ本邦ノ産物ニ階級ヲ付
スレハ五等ニ位ス可シ田ノノ費スル價格ハ海外輸出
産物ノ平均價格ヨリ一割ノ低價ニシテ凡ソ五百五不
十田ナリレモ又百斤ノ製造ノ費ヲ調査スレハ斯ルハ
粗造ノ生絲ヲ製スルニ係ルニ其多ク又ノハ二日
田ニ上レリ何ソ支シ浪費ナシ技術ノ拙劣ナシ種ニテ
知ルハシ

病ニ養育製法ノ産物ヲ照査スルニ萌ノ産物ナリ生絲
ノ産額多クニ居レリ今之ノ事情ヲ示セハ明治二十年
ノ萌ノ産額ハ一百万ニ比ルニ四年ノ改萌ヨリ一不係
産七処ヲ得レモトト改産スレハ七年ニ比七十玉買八

十三行

百目ナリ之ヲ介量ニ豫算スレハ四百五十四日七十四
介トナレ然ルニ同年度ノ産額ハ四百九十八日二十
五介ナリ是ニ比テ之ヲ觀レハ四年ニ比五十一介ニ對
スル係種ハ他ノ地方ヨリ購買スルモノト見仰サレ
テ得ケルナリ

山形縣

生絲

年 度	目 次	產	額	價	總	百斤價	總	製 造 家 數	一 戶 製 造 額
十 六		二〇九、七九四	一〇八、六七三	五、一八					
十 七		一七二、八五六	九〇、三三四	五、二五					
十 八		一三八、一八八	七三、七七八	五、三一					
十 九		一七三、四〇〇	一、三九、九三八	六、五七					
二 十		二〇三、七三八	一、三五九、〇〇三	六、二一					
二 十 二		三二二、九五六	一、一七九、七七六	五、五四					

十三行

六年度生絲ノ産額ハ二十万九千七百九十四斤ナリ
 ニ二十年度ノ期ナハ二十万二千七百三十八斤ニ減セ
 リ然レトモ價額ニ於テハ却テ廿年度ニ増加ヲ見ル足
 則係價騰貴セリカ爲メナリ乃テ十七年度ノ價額ハ百
 〇八万六千七百三十三圓ナリシニ二十年ニ至テハ百
 二十万五千九百〇〇圓ナリシレリ今試ニ本邦産絲ヲ七
 等ニ区別シテ本島ノ産絲ニ等級ヲ付スレハ四等ノ地
 位ニ在ル可シ即チ百斤ノ平均價額ハ百圓ニ至リ日ニ
 元ノ海外輸出生絲ノ平均價額ノ上ニヤルヘシ本縣ノ
 生絲ハ東西置賜郡ノ盛ニシテ他ノ各郡ハ未タ却稱ナ
 リトス玆地方ノ工場ヲモテ勢打アルモノハ米澤ノ榮
 絲會社ナリ玆ノ工場ハ本邦屈指ノ工場ニシテ恒ニ價
 價アル生絲ヲ製出セリ之ニ至ルモノハ多勢組製絲工

十三行

リキ又巨斤ニ新スハ製造入費ハ多キモノ百七十七圓
 ニシテ亦キモノハ五十三圓ナリ
 養蚕ト製絲トノ度在リ新比ナリシ生絲産額ナリ爾ノ
 産額較多キヲ見ル今之ノ事業ヲ不セハ明治廿年度ノ
 産額額ハ四百九千六百七十六斤ナリ玆前一年ヨリ絲
 量八割ニ合リ得ルモノハトスレハ四百九千二百三十一貫
 八十九ナリ之ヲ介量ニ換算スレハ二十五万七千六百
 九十四斤トナレ玆内ヨリ廿年度生絲ノ産額二十万二
 千七百三十八斤ヲ加臨スレハ五百四十九千五百六十
 斤ノ餘額ヲ生ス玆餘額ニ對シテ原料ト爲稱トナリテ生
 地ノ常用ニ使スルト蘭葉物ニテ他ニ輸出スルモノト
 見做スル不可ナキモノ、此ニ

石川縣

生絲

身 度 目 次	產 額	價	額	單 價 額	製 送 家 數	一 戶 製 送 額
十六	三五四一八	一八三四六五	五二八			
十七	三九四三八	二〇七〇五〇	五二五			
十八	三七七四四	二〇〇四三一	五三一			
十九	九五七八八	二二九三三七	五五七			
二十	八九二九	五五四三六〇	六三一	六九		
二十一	八六六七五	四八〇一八〇	五五四			

十三行

石川縣

本縣、製絲工場ハ明治七年八月起業加實國金澤市長
町川岸金澤製絲工場ヲ以テ現在工場ノ古キモノトス
實數統計ハ二十八ヶ所ニシテ十人繰以上十九ヶ所ニ
十人繰以上八ヶ所百人繰以上一ヶ所ナリ右ニ十八ヶ
所ノ繰釜ノ統計ハ五百九十七個ニシテ番城五百六十
九釜繰ニイハ個ナリ

一ヶ所毎飛業日數多キモノハ二百六十八日ニシテ少キ
モノハ五十日ナリ又又女一人一日ノ繰目ハ多キモノ
平均二十三匁ナリ又平均十匁ナリ
産絲額ハ年一毎ニ増強シ来ル、幣アリ明治十六年度
ノ産額ハ三万五千四百八十匁ナリシニ同二十年度ニ
到リハ八万七千二百六十九匁ニ上レリ又其産額ハ十

六身度十八百三十四百六十五日ナリシニ同七年度ニ
 ハ五十五万四千三百六十四日ニ増加セリ即チ斤量ニ於
 テハ二倍以上増額ニ於テハ三倍以上ノ上進ナリ今茲
 本邦産物ノ七等ニ区別シ本邦ノ産物ニ等級ヲ付ス
 レハ四等ノ地位ニ在リ可シ即チ價値ハ六日二十日
 計ニシテ海外輸出生産ノ平均價値ニ相當スハ二百斤
 ノ製造ノ費ハ多ク又ノ二百十五日ニシテ寸キ又ノ五
 十四日ナリ生産者ノ製造ニ二百十五日ノ巨費ヲ要
 スルカ如キ迂濶又亦甚シ初産額稅ニ歸セザルヲ得テ
 ルニナリ其ノ技術ノ拙キ推シテ知ル可シ
 今養蚕ト製絲トノ度合ヲ照査スルニ本邦ハ繭ノ産額
 ナリ生産ノ産額多ク見ルニ之ノ事實ヲ示セハ明治廿
 年度ノ繭ノ産額ハ一萬七千八百五十四石ナリ其繭一

十三行

斤ヨリ絲量七丸ヲ得ルモノト仮死スレハ一百三十八
 百九十七貫八百自ナリ之ヲ斤量ニ換算スレハ八百六
 十八百六十一斤トナル然ルニ同年度生産ノ産額ハ八
 万九千二百六十九斤ナルヲ以テ二十四日〇八斤ニ對
 スル産額ハ他ノ産物ヨリ繭其物ニテ購買スルモノト
 買御ニテ不可ナキモノナラン歟

富山縣

生絲

年 目	次 産	額	價	額	百 斤 價	製 込 家 數	一 戸 製 込 額
十六		四六、一八八	二、三九、二五四	四、四	五一、八		
十七		四九、五一九	二、五九、九七五		五二、五		
十八		四八、六八一	二、五八、四九六		五三、一		
十九		六一、二五一	四、〇二、三八八		六五、七		
二十		七八、六三五	四、八八、二六一		六二、一		
二十一		六三、五一三	三、四六、三三二		五五、四		

十三行

富山縣

本縣ノ製絲工場ハ明治八年七月起業越中國師波郎福
 光村中村杯造ノ製絲場ヲ以テ現在工場ノ在キモノト
 ス工場ノ員數ハ七十不ケ所ニシテ十人繰以上四十六
 ケ所二十人繰以上二十五ケ所五十人繰以上五十ケ所十
 〇所七十不ケ所繰卷ノ總數ハ廿五日五十五日個ニシテ
 在城繰卷一ヶ五日四ヶ日個歩繰卷十二個ナリ
 一ヶ年就業日數ハ多キモノ三日日ニシテ少キモノ四
 十七日ナリ又工女一人一日ノ獲目ハ多キモノ六十日
 少キモノ十一日ナリ
 産絲額ハ身一身ノ増殖ニ來ルノ勢アリ明治十六年度
 ノ産額ハ四百六ヶ廿八ヶ八ヶナリシニ同二十年度ニ
 至テハ七百八ヶ不日ニ十五ヶニ上レリ又産額ニ於テ

八十六年度ニ二十三十九日二十四日ナリニ同
 二十年度ハ四十八日八日六十一日ニ増加セリ是
 ニセテ元々見レハ債額ニ於テハニ係以上ノ上進ナリ
 トス今試ニ北野ノ産額ヲ七等ニ分割シ本際産額ニ等
 級ヲ付スレハ四等ノ地位ニ在ル可シ又百斤ノ對スル
 價格ハ七目二十日新シキテ海外輸出多條最近年度ノ
 平均價格ニ相當ス可シ百斤製造入費ハ其多クモノ百
 三十一日ガモノハ五十三日ナリ石川縣ニ比スレハ
 當額ノ優リタル所アルモノ也

今養蚕ト製絲トノ度合ヲ照査スルニ本縣ハ南ノ産額
 ナリ生絲ノ産額雖ル多クモ見ル今之ヲ事實ヲ示セハ
 明治廿年度ノ南ノ産額ハ一萬九千八百五十四石ナリ
 北野一ノ産額七處ト依定スレハ七千七百二十一貫五
 十三石

百目ナリ是ノ介量ニ糖兼スレハ四百八十八石ニナリ
 ナリトナリ然レニ同年度生絲ノ産額ハ七百八十八石ニ
 ナリナリ故ニ北野ナリ四百八十八石ニナリナリナリ
 際スレハシテ百石ニナリ糖ニ對シテ生スル糖額ニ對スレ
 生絲ノ產額ハ之ヲ地方ヨリ仰カサレハカサレ
 状況ナリ

福井縣

生絲

年 度 次	產 額	價 額	百 斤 價 額	製 造 家 數	一 戶 製 造 額
十 六	二九,七八八 <small>斤</small>	一六九,七九二 <small>圓</small>	五七〇 <small>圓</small>		
十 七	一六,三三五	九四,一九五	五七七		
十 八	二五,一四四	一四六,八四一	五八四		
十 九	五七,九八八	四一九,三三三	七三三		
二 十	六三,一八八	四二四,七四四	六八三	一三三七	
二 十 一	七三,三三三	四四六,四七六	六〇九		

十三行

福井縣

本縣、製絲工場ハ明治九年七月起業越前國大野郡野
 山元祿町野山製絲會社ヲ以テ現在工場ノ在キ者トス
 本場ハ関西ニ在アリ工場ニシテ恒ニ聲譽アリ此業ヲ
 兼出セリ工場ノ員數ハ三十五ヶ所ニシテ十人繰以上
 十七ヶ所二十人繰以上十一ヶ所五人繰以上六ヶ所
 二人繰以上一ヶ所十人繰以上三十五ヶ所繰全、總數ハ
 八百九十九個ニシテ若松繰屋五百三十二個並繰屋三百九
 十六個ナリ
 就業日數一ヶ年多キモノ、三百日少キモノ、六十日ナリ
 又工女一人一日、繰日ハ多キモノ、四十ニ及ナキモノ
 ナニ及ナリ
 産額ハ年々増強ノ勢ヲ觀セリ明治十六年ノ産額ハ二

万九千七百八十八斤ありしに同廿年を到り八千六百二
 千八百八十斤増加せり又價額ハ十年を以て下九
 千七百九十日十リに廿年を以て四十二日四十七日
 四十四日の上り之に由り之の價額ハ産額ニ於てハ
 三倍價額に於てハ一倍半増し増しに之の割合ナリ今
 試ニ本邦産額カ七層に比合シ本邦産額ニ等級ヲ付ス
 レハ三等ニ位スヘシ但テ其ノ平均價額ハ六百四
 十圓許ニシテ海外輸出多額最近年産ノ平均價額ヨリ
 八一圓許ノ高價ナリ可シ又百斤ノ製造入費ハ多クモ
 百七十日ヤキモノ五十四ナリ
 本邦ノ養蚕ト製絲トノ度合ヲ照査スルニ生絲ノ産額
 ヲリハ繭ノ産額多ク見ル今之カ事實ヲ示セハ明治
 七年産繭ノ産額ハ二百八十四石ナリ秋繭一十石

十三行

重七分五分ト仮定スレハ二百三十四日十費五百日十
 リ之ヲ斤量ニ換算スレハ十四百六十三日三十三斤十
 ル以内ヨリ同年度生絲ノ産額ヲ把握スレハ八百四十
 日二十八日ノ産額ヲ生スルノ餘額ニ對スル原料ハ蚕
 撞トナリテ上地ノ需用ニ供セシムルト繭其物ニテ他
 ノ地亦ニ輸販スル者ナリ也

島根縣

生絲

年月次	產額	價額	百斤價額	製造家數	一戸製造額
十六	七〇五六	三三八八一	四六六		
十七	二六一九	一三三三二	四七三		
十八	三、一三一	一四、九六六	四七八		
十九	四、六七五	二七、六三九	五九一		
二十	九、一三一	五一、〇四三	五五九		
二十一	六、六九四	三三、四〇三	四九九		

十三行

島根縣

本縣ノ製糖工場ハ明治十八年以迄ノ起業ニ係ルモノ
、ミコシヲ傳ニニ工場ナリ其ハ出雲國能義郡荒馬
村生協輸出會社其ハ石見國近原郡久利村前原製糖
場ナリ右ニテ所産糖ノ換取ハ三七割ニシテ皆産糖
場ナリ

就業日數ハ一、年多キ者ニ日十三日ナキモノ、日五十日
ナリ又エ女一人一日ノ課目ハ多キ方廿四日ニシテ少
キ方ニ十三日九分ナリ

産額ハ身々増加ノ勢ヲ顯ハセリ明治十六年ハ七、四、
五、十、五、斤ナリシニ同世年ニ初テハ九、九、七、三、一、斤ニ
増進セリ又價額ハ十六年三、百、二、十、八、百、八、十、一、月、ナ、リ
シニ二、十、二、百、五、十、四、十、二、日、ニ、上、レ、リ、今、試、シ、本、邦、産

綿ヲ七等ニ已別シテ本縣産綿ニ等位ヲ附スルトキハ
 五等ノ地位ヲ在ムニ即百斤ノ價額ハ五百五十六圓
 評ニシテ海外輸出生綿最近年度ノ平均價額ヨリ一割
 評リノ低價ヤリ又百斤ノ製送入費ハ多キモノ百六十
 ニ因リキモノ百ニ十圓ナリ費用ノ多クシテ品位ノ粗
 ナル得テ相償ハナレテ知リ得ヘシ

本縣産生製綿ノ度合如何ヲ調査スルニ蘭ノ産額ヨリ
 生綿ノ産額較多キヲ見ルニ力事案ヲ考テレハ明治廿
 年度蘭ノ産額ハ一々七百四十六石ナリ本蘭一々ヨリ
 綿量七匁五分ヲ得ルト仮定スレハ一々三匁九匁五匁
 目ナリ之ヲ斤量ニ換算スレハ八々百八十四斤トナル
 然レニ同年度生綿ノ産額九々百三十一斤ナリ因テ考
 フルニ本縣額九々百四十七斤ニ對スル原料ハ地ノ地方

十三行

ヨリ購買スル者ノ比シ

鳥取縣

生絲

年度	次	產額	價額	百斤價額	製造家數	一戸製造額
十六		四七〇〇斤	二一九〇二圓	四六六圓		
十七		四九七五	二三四八三圓	四七二圓		
十八		四三一九	二〇一六七圓	四七八圓		
十九		一〇,九三三	六四,七九一圓	五九一圓		
二十		一八,〇五〇	一〇〇,九〇〇圓	五五九圓		
二十一		一六,三九九	八一,四三三圓	四九九圓		

十三行

島取縣

本縣、築橋ノ場ハ明治八年四月起業伯耆國日野郡魚
 沼泊ノ邊築橋ノ場ヲ以テ現在ノ場ノ在キモノトス工
 場ノ敷ハ總計八ヶ町ニシテ十人纏以上四ヶ町二十人
 纏以上五ヶ町五十人纏以上一ヶ町十人纏以上八ヶ町纏
 八百九十ヶ個ニシテ畝域也十人纏半纏七十七個也
 執業日敷ハ一ヶ町中多キモノ二百二十八日ニシテサキ
 モノ六十日ナリ又工女一人一日ノ纏目ハ多キモノ三
 十九日平均ニシテサキ者ハ纏ニ八九ナリ
 産額ハ前一年ニ増強ノ状勢ナリ明治十六年ノ産額ハ
 四ヶ町七ヶ町ナリシニ同廿年ハ一乃八ヶ町五十ヶ町
 加ナリ又價額ハ十六年ニ二百ヶ九日二日ナリシニ同
 廿年ハ二百ヶ九日ニ増加セリ乃ヶヶ斤量ハ三ヶ八日

五十二斤價銀七百八十九元九角八分
 本邦産絲の七等之地位に於て本邦産絲の等級が不
 一トヤハ五等ノ地位に在り可シ海外輸出に於て最近年
 度ノ平均價銀は次スレハ一割ノ低價ナリトス即チ各
 邦ノ價銀五百五十六圓ナリ又百々ノ製造費ハ多
 キモノ百四十九圓ニ至リテ若テ十圓ナリ
 茲ニ本邦製絲ト養蚕トノ度合ヲ照査スルニ生絲多ク
 養蚕ノ輩頗ル上進ノ状ヲ見ル今之カ事實ヲ示セハ明
 治廿年ノ産ノ産額ハ六千四百二十圓ナリ其前一年
 銷量七萬五千斤に保稱スル者トスレハ四千八百十八圓
 目ナリ之ヲ千圓ニ換算スレハ三百七十三斤ナリ然
 ルニ向年産額額ハ一萬八千五百十斤ナレハ差引一萬
 二千六百十斤ノ産額ナリ爾ノ餘額ニ至ルニ概爾ハ各産

十三行

トナリテ土地ノ需用ニ供セラルト爾其物ニテ他ノ
 産物ニ取次スルモノ、也シ

岡山縣

生絲

年 目	次	產	額	價	額	平均額	製造家數	一戸製造額
十	六	六八五〇	三一九二一	四六六				
十	七	四三三五	二〇四三七	四七二				
十	八	五九八一	二八五八九	四七八				
十	九	九〇六三	五三五六二	五九一				
十	十	一三一六三	七三、五八一	五五九				
十	十一	一一九八八	五九、八二〇	四九九				

岡山縣

本縣、工場ハ明治八年五月起業、美作國東郷郡高田村
 此處工場ヲ以テ現存製絲場、在キニ、トス然レトモ
 是ハ世傳十人取ノ工場ニシテ、今ノ工場ノ体裁ヲ備ヘ
 タルモノハ明治九年起業、備中國小田郡三田村山陽總
 務會社ヲトス工場、負ハ總計十六ヶ所ニシテ十人
 繰以上十一ヶ所二十人繰以上四ヶ所五十人繰以上一
 ヶ所ナリ在テ今ノ所據、廢絲數ハ二百八十個ニシテ
 昔據、繰全二百十個、製絲屋七十二個ナリ
 起業日數ハ一ヶ年中多クモ一白七十日ナリモ、九十
 日ナリ又モ一廿一人一日、繰目ハ平均ニ十七日ナリ
 多クモ一トシ十日ナリ以テ、ナリトス
 産額ハ第一年ニ増進ノ勢アリ明治十六年ハ六千八百

十三行

五十ヶ年ナリシニ二十年ニ到テハ一万三千六百
 ニ増加セリ又價銀ナリ十六年ニ三万四千七百一十
 ヲシニ同廿年ハ七万三千五百八十一圓ニ上レリ米
 ニ係次上ノ増加ナリ穀ノ秋邦産額ナリ七等ノ合ナリ
 本縣産額ニ奉銀ナリ付スレハ五等ニ位スヘシ廿年ニ穀
 スハ價銀ハ五万六千四百餘ニシテ海外輸出生産額並年
 産ノ平均價銀ニ比テハ一割ノ低價ナリ又廿年ノ穀
 産ノ費ハ多クナリ廿四年ノ穀ナリ又廿五年ナリ
 本縣養蚕製絲ノ業ナリ新比ニシテ繭ノ産額ナリ年額ノ
 産額多クナリ見ル今之カ事更ナリ尋ラシハ明治廿年ノ繭
 ノ産額ハ二万五千七百九十石ナリ其間一斗ヨリ絲量七
 匁ノ得ルモノトスレハ一斗ハ四十七匁ニ匹ナリ
 之ヲ計スルニ繭桑スレハ一万七千五百四十六斤トナリ然

十三行

ルニ同年産量年額ノ産額ハ一万三千六百六十斤ナリ
 以テ其差ハ一斗六百七十九斤ナリ之ニ對テハ繭科ハ繭
 其物ニテ他ノ好幣ヨリ抑々是ハ之ノ如シ

廣島縣

生絲

年次	產額	價額	百斤價額	製絲家數	一斤製絲額
十六	一〇四四	四八六五	四六六		
十七	七〇六	三三三二	四七二		
十八	七五〇	三五八五	四七八		
十九	八一六九	四八三七九	五九一		
二十	五〇三一	二八一三三	五五九	三八四	
二十一	六六〇〇	三三九三四	四九九		

十三行

廣島縣

本縣、製絲工場ハ明治七年五月起業備后國吾那郡西
 中島村金尾階平ノ製糖工場ヲ以テ現在工場ノ在キモ
 ノトス工場ノ數ハ總計不々所シシテ十人操以上三々
 所二十人操以上三々所イリ在テ今所操處ノ總數ハ四
 十九個ニシテ器械七十六基機四十三個ナリ
 就業日數ハ一々年中多クモ二日二十日ニシテ方々
 七ノ不十五日ナリ又エキ一人一日ノ總日ハ平均二十
 不短ク以テ多クモ九ノトシ九日九分ナリモナリ以テ方
 キモノトス
 産額ハ年々増進ノ勢ヲ現セリ明治十年年度ノ産額ハ
 千四百四十ナリシモ同廿年度ニハ五千三百一十ニ増
 加セリ又價額ハ十年年ニハ四千八百五十五圓ナリシ

十三行

同二十年ハ二市八日二十三日ニ増加セリ即チ
升華ニ於テハ五倍價額ニ於テハ殆ト云候ノ増進ナリ
斯ノ如ク升華ノ割合ニリ價額増加ノ多ク又ハハ倍價
ノ高カハリシカ爲テリ意ニ改良ノ功ノミナラズヤハ
可ニ裁ニ本邦産物ノ七等ノ區分ニテ本邦産物ノ牙位
ヲ付スレハ五等ノ地位ヲ在ルヘシ即チ日斤ノ價額ハ
五百五六十日ニシテ海外輸出ニ係ル最近年度ノ平均價
格ヨリ一副ノ低價ナリ又日斤ニ對スル製造ノ費ハ
多ク又日四十七日ナリ又七十日ナリ

本邦ノ養蚕ノ製絲トノ現在如何ヲ調査スルニ製絲ヲ
リ養蚕ノ方上進ノ状態ナリ今之ノ事實ヲ察スレハ明
証二十年ノ繭ノ産額ハ日天十九日ナリ秋繭一升
ヨリ絲量七匁五分ヲ獲リ得ルモノトスレハ日四日一

十三行

費七百五十匁ナリ之ヲ升量ニ標準スレハ八十七日六
十一日トナレバ因テリ同年度ノ産額五十三日ナリ
ナリ此際スレハ日斤ニシテ升ノ製繭ヲ生ス是ニ由テ
是ヲ觀レハ我ノ絲産額ハ産種レテリテ土地ノ需用ニ
供スルト繭其始ニテ他ニ輸販スルモノハ此ニ

山口縣

生絲

年 度	次	產	額	價	額	平均價	額	製造家數	一戸製造額
十 六		三、五三二	天	一、三三、四〇	五、八				
十 七		二、一九四		一、二五、一九	五、二五				
十 八		三、七三二		一、九八、二一	五、三一				
十 九		三、七〇六		二、四三、四八	六、五七				
二 十		三、六三一		二、五、四九	六、二一				
二 十 一		五、一五〇		二、八、五三	五、五四				

十三行

小の縣

本縣、製絲工場ハ明治十四年五月起、業用所國若敷即
山以後河原町番手襟花町ノ製絲工場ヲ以テ現在工場
ノ在キ元ノトス工場ノ數ハ總計五ヶ所ニシテ二十人
、織以上ニシテ五十人、織以上ニシテ十人、不立ヶ所、機舎
、總計ハ二百四十個ニシテ皆半操ヤリ

就業日數ハ一ヶ年間二百四十日ヲ以テ多キモノトス
其方キモノニ至テハ八十日ナリ又工女一人一日ノ織
目ハ多キモノ、平均十枚ニシテオキモノハ六枚ニ過
キ下生竟其勤メノ緩弱ナリハ技術習習ノ性領ヲ以テ
業ヲ取ルモノ多キニ因ルモノ、此シ業界ノ幼稚ナル
概ニテ知ル可シ

産額ハ年々増強ノ勢ヲ享セリ明治十六年度ハ二月五日

五十二ヶ年ナリシニ同二十年度ニハ三ヶ年六日三十一ヶ
 ニ増加シタリ又價額ハ同十ヶ年ニハ一五三ヶ年ニ日四
 十四ナリシニ二十年ニハ二五二ヶ年五廿四十九日ニ増
 シタリ茲ニ本邦産絲ヲ七等ニ七分シ本縣産絲ニ等級
 ナリスレバ四等ノ地位ニイレルヘシ百ヶ年ノ價格ハ六日
 ニ十円許シシタ毎外輸劣劣絲展近年度ノ平均價格ニ
 比スレバ同價格ニアルモノ、此レ又百ヶ年ノ製造入費
 ハ多クヌノ二日四十九円九角十銭ニシテガキモノ九
 十円四ナリ想フニ二日四十九円九角十銭トアルハ然ラ
 ヲ傳習ヲ目途トナスヨリ未クも此レノナラン歟假令
 溢利ノ目的ナラザレバ此レノニ製用ヲ費スルモノハ
 経済ノ點ニ見テ意ヲ注カサルカ也
 本縣養蚕製絲ノ度合如何ヲ照査スルニ養蚕主リ製絲

十三行

ノ若レハノ親ハ今之カ筆頭ヲ奉ルレバ明治二十年ノ
 蘭ノ産額ハ一ヶ年九十トナリ秋滿一ヶ年ナリ絲量七五
 合ヲ得ルモノトスレバ八日十七貫五百目ナリ之ヲ斤
 重ニ換算スレバ五ヶ年七ヶ年ナリ然レニ同年度ノ産額
 額ハ三ヶ年五日三ヶ年ナリナリ次ヲ其差一ヶ年四日七十
 ハナナリ秋滿額ニ對スル原料ハ各種トナリテ土地ノ
 需用ニ供スルモノト滿其物ニテ他ニ輸販スルモノト
 見解ニテ不可ナキモノ、此レ

和歌山縣

生絲

年次	產額	價	額	百斤價額	製造家數	一三製造額
二十	二六三斤	二一五七	四四〇	四四〇		
十七	一九四	三〇九五	四四六			
十八	一四〇六	六三〇九	四四三			
十九	一〇三八	五七九二	五五八			
二十	二五六三	一三、五三三	五二八			
二十一	三〇三八	一四、三〇九	四七一			

十三行

和歌山縣

本縣ノ製絲工場ハ明治二十年七月起業セ伊國和歌山
 巨南不賀郡町島和手共衛ノ製絲場一アノミ味工場
 ハケン子ノ式二十人織シシテ焚火ナリ
 所業日數ハ一ヶ年間ニ百四十日シシテ工廿一人一日
 ノ織目ハ平均十丸四分ニ過カス
 産額ハ年一毎ニ増加モ来リノ勢ヲ見セリ明治十六年
 度ハ二百六十ヶ疋ナリシヨリ二十年度ニハ二百五十五
 ヶ疋ナリニ増加セリ又價額ハ一千百五十七日ナリシ
 ニ二千五百六十日ニ増シテ又此年ニ於テ製絲額ハ一工
 場ノミノ製出ニテラズ他ニテ々ノ製絲アリテ製出ス
 ルモノアリハ他ノ府縣ト同シキヌノ、此ノ織ニ秋卯
 ノ産額ヲ七等ニ占ケテ本縣ノ産額ニ階級ヲ付スレハ

六等ノ地係ニ在ルヘシ有テノ價格ハ五百二十自許ニ
ニテ海外輸出品係有テノ平均價格ヨリハ一副五分許
ノ低價ナリトス又百斤ニ對スル製造入費ハ其多ク日
六十七日ニ達セリ是ニ由テ是ヲ觀レハ是又和佛銀行
ノ帳簿ヲ有スルニモナリ力爲ノ事注ニ至レハモリ、
如シ

本縣養蚕ト製絲トノ度所如何ヲ照査スルニ本縣ハ蘭
ノ産額ヨリ生絲ノ産額較多キヲ見ル今是カ事實ヲ示
セハ明治二十年蘭ノ産額ハ四百九十斤ナリ其蘭一斗
絲量不尠五分ノ得ルニモト比定スレハ三百六十斤ハ
百目ナリ之ヲ介量ニ標準スレハ今九百八十斤ナリ
然ルニ同二十年産額係蘭ハ二百五十五斤ナリ其
内ヨリ今九百八十斤ヲ比定スレハ今九百八十斤ナリ其
十三行

絲ヲ生ムヘシ地ノ制絲ノ對スル原料ハ他ノ府縣ヨリ
購買スルニモト見知シテ不可ナキモノ也

徳島縣

生 絲

年次	産 額	價 額	百斤價額	製造家数	一丁製造額
十六	八三一	三、五五八	四四〇		
十七	八四六	三、七四九	四四六		
十八	二、〇五八	九、一〇八	四四三		
十九	四、六九四	二、六一九	五五八		
二十	九、三七五	四、九五〇	五三八	三〇八	
二十一	八、九三八	四、三〇九	四七一		

十三行

徳島縣

本縣ノ製絲工場ハ明治十九年七月起業阿波國石末郡
徳島町糸條傳習所一アルノミ本所ハ縣立ニシテ十人
強ノ製絲製絲場ナリ

既業日數ハ一ヶ年同日ニシテ工廿一人一日ノ操員
ハ僅ニ六人ニ分ノ平均ナリ

産額ハ年一年ニ増殖ノ勢アリ明治十六年度ノ産額ハ
八日五十一ヶナリニシテ同廿年度ニハ九ヶ三日七十五
ヶニ増加セリ又價額ハ十年年ニシテ五ヶ五十六日十
ヶニシテ同廿年ニハ四ヶ九ヶ五廿日ニ増進セリ其進度
ノ速ヤナル十倍以上ニシテ全國ニ早クナリ然レトモ其
業日尚該キヲ以テ米々僅少ト謂ハラルヘリトモ其
本邦産額ヲ七割ニ占別ニテ本縣ノ産額ニ等伍ク付ス

レハ上等、地位ニ在ルヘシ之ヲ海外輸出生絲最近年
 度、平均價格ハ此スレハ一割五合許、低價ナルヘシ
 即チ昨日五日二十日内外ナルモノ、此レ又古斤ニ討
 下ル製造入費ハ本縣ノ調査ナキヲ以テ之ヲ知ル能ハ
 養蚕製絲ノ度合ヲ照査スルニ生絲ノ産額ヨリ繭ノ産
 額多キヲ見ル今之ヲ事實ヲ示セハ明治廿年、繭ノ産
 額ハ二万五千五百二十一石ナリ、繭ノ産額ヲ六及八分
 トスレバ八千七百四十一貫四百八十石ナリ、之ヲ斤量ニ
 換算スレバ一万八千八百八十四斤トナル、此内多ク同廿年
 度ノ産額額九千三百七十五斤ヲ扣除スレバ一万九千五百
 九十斤ノ餘額ヲ生ズ是ハ餘額ニ對スル原料ハ養種トナ
 リテ土地ノ需要ニ供スルト繭桑物ニテ他ニ輸販スル
 モノ、此レシ

十三行

香川縣

生絲

年月次	産額	價額	百斤價額	製造家数	一斤製造額
十六	立縣前				
十七	〃				
十八	〃				
十九	〃				
二十	〃				
二十一	〃	一三八	四七五	四四三	

香川縣

本縣ニハ製糖工場十ヶ所ヲ以テ競明スヘキナシ

十三行

高知縣

生絲

身目次	產額	價額	百斤價額	製造家數	一三製法額
十六	四九八一	二二二一	四六六		
十七	四九八一	二二五〇	四七二		
十八	三七〇六	一七七一	四七八		
十九	六八五六	四〇五一	五九一		
二十	一三五八	七〇三七	五五九		
二十一	一三四三	六六九一	四九九		

十三行

高知縣

本縣ニハ製絲工場ナカラ以テ統明スヘキナシ

十三行

愛媛縣

生絲

年次	產額	價額	昇價額	製造家數	一三製法額
十六	二二三一	一〇、三九六	四六六		
十七	二、八三八	一三、三九五	四七二		
十八	二、一九四	一〇、四八七	四七八		
十九	二、六四四	一五、六二六	五九一		
二十	二、六五〇	三六、六一五	五五九		
二十一	二、三三一	三一、〇九三	四九九		

十三行

愛媛縣

本縣ノ製絲工場ハ明治十三年五月起業伊豫國北宇和
郡北下路興業會社ヲ以テ現在工場ノ在キモノトス工
場ノ數ハ五ヶ所ニシテ十人繰以上四ヶ所二十人繰以
上一ヶ所ナリ右五ヶ所繰合ノ繰數ハ八十一個ニシテ
器械五十一臺繰三十個ナリ
 就業日數ハ一ヶ年間迄三十日ヲ以テ最モ多キモノト
 又其方キモノニ至テハ僅ニ三十日ナリ又工女一人
 一日ノ繰目ハ多キモノニ二十五匁方キモノハ六匁ニ過
 キ又其枚ノ知稱ナル推シテ知ルヘシ
 産額ハ一區一區ノ間漸次ノ増強ヲ示セリ殊ニ明治廿
 年及ハ其増進頗ル著シキヲ見ル明治十六年ハ八千
 二百三十一斤ナリニ同廿年ハ六千六百五十九斤ニ

増進セリ又價額ハ十年一力三巴カ十六日ナリシ
 廿年ハハ三力六日六日十五日ニ上レリ共ニ三億ノ
 増加ナリテ賦ニ致テ、産絲ノ七等ニ区ケテ、産絲
 ニ等任リ付スレハ五等ノ地位ヲ占ムルモノ、如シ海
 外輸出ニ絲百斤平均價額ニ照ストキハ一割ノ低價ニ
 シテ百斤五日五丁四許ナルヘシ又百斤ノ製込入費ハ
 多キモノ、百四十五日ニシテ付キモノ六十日ナリヤ
 養蚕製絲ノ度各如何ヲ照査スルニ生絲ノ産額ヨリハ
 前ノ産額較シキヲ見ル明治廿年産繭ノ産額ニ據リテ
 之カ事實ヲ探討スルニ該年産繭ノ産額ハ八日四寸
 七五ナリテ、前一年絲量ヲ六八八合ノ平均ト仮定スレ
 ハ一ヶ二日五寸五釐九日六寸目ナリ之ヲ計算シ、繭糸
 スレハ七ヶ八日五寸ナリトナリテ、前年産繭ノ産

十三行

産額ナキナ日五寸ナリヲ扣除スルトキハ一ヶ二日五寸
 産額ヨリ生ス足ニ由テ是ヲ觀レハ一ヶ二日ナリニ對スル
 原料ハ若種トナリテ土地ノ需用ニ供スルト繭生絲ニ
 于テ他ニ輸出スルモノ、如シ

福岡縣

生絲

年 度	目次	產 額	價 額	百斤價額	製造家數	一丁製造額
十七	六七七五	三五四九五	五二八			
十八	八一五六	四三、八一九	五二五			
十九	六八六九	三六、四七四	五三七			
二十	八六一三	五九、五八七	六二一			
二十一	九、七四四	六〇、五一〇	五五七			
二十二	一〇、七一三	五九、三五〇	五五四			

十三行

福岡縣

本縣ノ製絲工場ハ明治六年五月起業豊前國築城郡椎
 田村井上製絲場ヲ以テ現在ニ場ノ古キモノトス工場
 ノ数ハ總計十一ヶ所ニシテ十人繰以上四ヶ所二十人
 繰以上六十ヶ所五十人繰以上一ヶ所可ニシテ共十一ヶ所
 ニ對スル繰登ノ總數ハ二百六十八個ニシテ畧稱六十
 八個坐繰ニ百個ナリ

新業日數ハ一ヶ年百八十日ナリモノヲ以テ最モ多キ
 モノトス其ガキモノニ至テハ僅ニ廿四日ナリ又工女
 一人一日ノ繰目ハ二十七処ヲ以テ多キモノトシ六処
 ヲ以テ少キモノトス其働價ガナリハ技術ノ切替ナリ
 ヲ見ルニ及ハ可シ

産絲額ハ年々増強ノ勢アリ明治十六年度ノ産額ハ六

十七日七十五斤ニシテ同二十年度ノ産額ハ九千七百
四十四斤ニ増進セリ又價額ハ十六年ニハ三万五千九
十五圓ニシテ同二十年ニハ六万五千五百イ目ニ増加セリ
賦ニ代國ノ産額ヲ七等ニ割リテ本縣ノ産額ニ増進ヲ
付スレハ四等ノ地位ヲ在リ可シ海外輸出ノ額最近年
度ノ平均價格ニ比スレハ同等合スルモノニシテ即チ
十月二十日新ヤシ又百斤ノ製造入費ハ多キモノヨ
四十五日ニシテヤシキモノ八十日ナリ

養蚕ト製絲トノ度合ヲ照査スルニ養蚕ハ製絲ヨリ劣
レルモノ、此レ今之カ事實ヲ察スレハ明治廿年度ノ
繭ノ産額ハ千八百六十圓ナリ、林繭一升ヨリ繭量七
反五分ヲ得ルモノトスレハ千三百八十圓目ナリ之
ヲ十量ニ換算スレハ八千七百三十八斤ナリ然レニ同

十三行

年度ノ産額ハ九千七百四十四斤ナリ以テ秋産ハ千
六百ナリ、秋産額ニ對スル原料ハ他ノ地方ヨリ購買ス
ルモノ、如シ

大分縣

生絲

年度	產額	價額	平均價格	製絲家數	一戶製絲額
十六	七,四四四	三八,五六一	五.一八		
十七	八,八六三	四六,五三一	五.二五		
十八	八,三三八	四四,二七五	五.三一		
十九	九,七八八	六四,三〇七	六.五七		
二十	一七,三五七	一〇七,七八七	六.一一	二四	
二十一	一七,八八八	九九,一〇〇	五.五四		

十三行

大介略

本縣、製絲工場ハ明治十二年四月起業、豊前國下北郡
 三ノ丁末廣會社及豊後國北海部郡臼杵町番繰會社ノ
 二製絲場ヲ以テ現在工場ノ古キモノトス工場ノ統數
 ハナシヤ何ニシテ十人繰以上六ヶ所二十人繰以上六
 ヶ所五十人繰以上一ヶ所ナリ、五十ヶ所繰會ノ統數
 ハ二百六十個ニシテ器械日ナシ聖蹟日五十二個ナ
 リ
 就業日數ハ一ヶ年間百五十日ノモノヲ以テ多キモノ
 トス可キモノハ僅ニ十八日ナリ又工女一人一日ノ繰
 目ハ多キモノニテ尺ナキモノハ僅ニ七尺ナリ
 産額ハ年一ヶ年ニ増強ノ勢アリ、明治十六年ハ七千四百
 四十四斤ナリ、同二十年ハ一萬七千三百五十七

十三行

介ニ増加セリ又價額ハ十六年ニハ三万八千五百六十
 円ナリシニ同廿年ニハ十万七千七百八十七円ニ増加
 スルニ至レリ試ニ本邦ノ産絲ヲ七等ニ分ケテ本邦産
 絲ニ階級ヲ付スレハ四等ノ地位ニ至ワヘシ海外輸出
 生絲最近年度百斤ノ平均價格ニ相當スルモノ、此レ
 即チ六百二十四新、平均價格ヲ保ツヘキモノトス又
 百斤ノ製造入賞ヲ算スレハ其多キ百七十八圓ニ上ル
 モノアリ其少キモノニ至テハ五十七圓ニ過キス
 故ニ絹糸ト製絲トノ度合ヲ照査スルニ製絲額收繭額
 日リ優レシヲ見ル今之ノ事實ヲ示セハ出ル明証二十
 年ノ繭ノ産額ハ三万九千九百四十九担一升ヨリ絲量
 七担五分ヲ得ハスノト收束スレハ三万九千九百五十五
 五百目ナリ之ヲ介量ニ換算スレハ一万四千九百七十

十三行

二介トナル然レニ同年度ノ産絲額ハ一万七千三百五
 十七斤ナリヲ以テ三万九千九百八十五斤ノ差アリ致差額
 ニ對スル原料ニ化シ地方ヨリ購買スルモノ、此レ

佐賀縣

生絲

年 度	產 額	價 額	原 價額	製 造家數	一 戸製造額
十 六	一、三、一、三	五、七、三、三	四、七、二		
十 七	六、二、八、一	三、〇、〇、三、三	四、七、八		
十 八	三、〇、八、八	一、八、三、五、〇	五、九、一		
十 九	一、三、一、四、四	六、七、八、八、五	五、五、九	一	
二 十	一、一、九、五、〇	五、九、六、三、一	四、九、九		

十三行

佐賀縣

本縣ノ製絲工場ハ明治七年起業肥前國佐賀郡赤松町
厚生會社ヲ以テ現在工場ノ古キモノトス其員數ハ總
計ニテ所シシテ十人繰以上ニテ可二十繰以上一ヶ町
ナリ在ニテ所經全ノ總數ハ六十個ニシテ總テ半繰
ナリ

就業日數 ハ一ヶ年同ニ日日ヲ以テ多キモノトシ百二
十日ヲ以テ少キモノトス又工女一人一日ノ繰目ハ僅
ニ十八処ナルモノヲ以テ多キモノトシ少キモノニ至
テハ九処ナリ

産額 ハ一進一退ノ状況ナリシカ去ルニ十年以後ハ製
糸増強ノ勢ヲ示セリ明治十七年ニハ産額廿二日十三
ヶナリシニ同二十年ニハ一乃二十四日十四ヶナリ

又價賤ハ(十六年ハ五縣前ナルヲ以テ知ルヲ)十七年
 度ニハ五ヶ七日ニナリシニ同二十年ニハ六月
 七日八月十五日ニ増進セリ若シテ進歩ト稱フヘシ
 試ニ我邦産絲ヲ七等ニ区テ本縣ノ産絲ニ等位ヲ付
 スレハ五等ノ地位ニテハシ海外輸出生絲最近年度
 ノ平均價格ニ比スレハ一割ノ低價ニシテ五百六十
 円ナレハシ又日斤ノ製造又費ハ多キモノ百十四円キ
 モノ九十四円八十銭ナリ
 舊ニ養蚕ト製絲トノ度合ヲ照査スルニ、繭ノ産額ナリ
 生絲ノ産額頗ル多キノ見ル、余之ヲ事候テ示セハ明治
 二十年度繭ノ産額ハ二十四日六十二五ナリ、秋繭一斗
 重量七匁ヲ得ルモノトスレハ一斗七匁ニナリ、賣四日
 匁ナリ之ヲ斤量ニ換算スレハ一斗七匁七十一斤トナ

十三行

ルヘシ然ルニ同年度ノ産絲額ハ一斗二十四日四十四斤
 ナリ、秋内ナリ一斗七日七十一斤ヲ扣除スレハ一斗三
 日七十ニ斤ノ餘額ヲ生ス、是ニ依テ是ヲ見レハ秋絲割
 額ニ對スル原料ハ他ノ方ヨリ購買セザルヲ得ザルニ
 、此シ

熊本縣

生絲

年 度	次 産	額	價	百 斤 價	額	製 送 家 數	一 戸 製 送 額
十 六		一、五、四、四	五、九、七、九、八	五、一、八			
十 七		五、三、四、四	二、八、〇、五、六	五、二、五			
十 八		五、五、〇、〇	二、九、二、〇、五	五、三、一			
十 九		六、一、一、九	四、〇、三、〇、二	六、五、七			
二 十		七、九、一、三	四、九、一、四、〇	六、二、一		七	
二 十 一		九、三、〇、六	五、一、五、五、五	五、五、四			

十三行

熊本縣

本縣ノ製絲工場ハ明治イ七年七月起製肥後國執摩郡
 大江村熊本製絲會社ヲ以テ現在工場ノ在キモノトス
 工場ノ數ハ三ヶ所ニシテ十人操以上一ヶ所二十人操
 以上ニヶ所十ヶ所ニシテ操屋ノ總數ハ五十九個ニ
 シテ畧村二十四世操三十五個ナリ

紙業日數ハ一ヶ年間多キモノ日八十日ニシテ少キモノ
 ハ九十五日ナリ又工女一人一日ノ操目ハ多キモノ
 二十一人及少キモノハ僅ニ四人ニ分新ノ平均ナリ林四
 勿絲ノ平均ハ甚ク疑ニト雖モ姑ク野廳ヨリ差出シテ
 八度流調査ニ據ル

産額ハ一連一退敢テ若シテ送ニテ見ズ明治十年年ト
 同二十年トナリ對比スレハ却テ退步ヲ見ル即チ十六年

八一乃一四五日四十四斤下り云ニ同二十一年ニハ七
 九日ナシ斤シ減セリ又價額ハ秋有額ニ毛拘ラス却テ
 増加セシモ、ハ條價昂リシト致合カ脈後、状ヲ詳セ
 ルニ依ル本縣ハ條價昂キハ甚進ニ度クシテ品後ク昂カ
 云シノシニ中頃阻衰ノ態アリテ還夕今日、氣運ニ違
 ニタリモ、ナリ試ニ我邦ノ産絲ヲ七等ニ区分シ本縣
 ノ産條ニ等伍ヲ付スルトキハ、四等ノ地位ニアルヘシ
 即チ海外輸出生産條最近年度ノ平均價格ニ相當スルモ
 ノニシテ百斤六日ニシテ四ナレシ又百斤ニ對スル
 製造入費ハ多キモ、六十八日ナキモ、六ナ日八十
 餘ナリ

茲ニ本縣養蚕製絲兩業ノ度合ヲ照查スルニ生絲ノ産
 額ヨリ、繭ノ産額較増進ノ状アリ今之カ事實ヲ示セハ
 十三行

明治二十年産繭ノ産額ハ、二十四日七十七斤ナリ以前一
 升條量七匁五分トスレトシテ、七十七匁五匁ナリ之
 フテ量ニ換算スレハ、一匁ニ斤八日八十四斤トナル然
 ルニ同年度ノ産條額ハ、七十九日十三斤ナレハ、以舊ハ
 五十七日一十ナリ是ニ由テ是ヲ觀レハ、秋産額五十七
 十一斤ニ對スル原料ハ、番種ナリテ他府縣ニ輸販ス
 ルト土地ノ需用ニ供スルト、繭其物ニテ他ニ幾合カ致
 出スルモノナラン

唐崎縣

生絲

年目次	產	額	價	額	百斤價額	製込家数	一斤製込額
十六	一四、五六一	七、五四二	一四、八六三	五、一八			
十七	二八、三一	一、四一三	一九、四一三	五、三五			
十八	三、六五六	二、五、六、六、二	二、五、六、六、二	五、三一			
十九	三、九〇六	二、五、六、六、二	二、五、六、六、二	五、三七			
二十	四、九〇〇	三、〇、四、三、九	三、〇、四、三、九	六、三一	一	二	
二十一	四、六五〇	二、五、七、六一	二、五、七、六一	五、五四			

十三行

区時點

本縣ノ製絲工場ハ明治十二年六月起業日南國南郡新
 郎屋倉村飲肥製絲場ヲ以テ現在工場ノ古キモノトス
 工場ノ總數ハ十一ヶ所ニシテ二十人繰以上九ヶ所五
 十人繰以上二ヶ所ナリ五十一ヶ所ノ繰釜ノ總數ハ四
 百四十四ニシテ岩楯二十個坐繰三百八十四個ナリ
 就業日數ハ一ヶ年間百五十日ヲ以テ多キモノトス其
 方キモノハ五十五日又工女一人一日ノ繰目ハ多キ
 モノノ平均十五匁サキモノノ平均ニ至テハ僅々四匁
 ナリ秋四匁平均十七匁ノ、冬微ニ過キ甚ク疑ナキ概
 ハスト難ニ吐ク縣廳ニテ差出ニタル調査ニ據ル
 産額ハ年一年ニ増殖ノ勢ナリ明治十六年ニハ一ヶ所
 四五十匁ナリシニ同二十年ニハ四ヶ所ナリニ増加

七リ又價額ハ十年年ニハ七千五百四十ニ因ナリレ
 二市四日ニナル日ノ増進セリ試ニ我知ノ産絲ヲ七等
 〇區分シテ各産絲ノ階級ヲ付セハ四等ノ地位ニ在ル
 ベシ海外輸出産絲相対ノ平均價額ニ相當スヘシ以テ
 均價額ハ最近年度ニ徴スレハ六日二十日許ナリキ又
 百斤ニ對スル製造人費ハ多キモ、百六十五日ナキモ、
 七十八日ナリ

茲ニ養蚕ト製絲トノ度合如何ヲ照査スルニシテ其共ニ
 較、平均ヲ係リ、ト進歩スルモ、如シ明治二十年後
 ノ産産額ハ一千四百十三斤ナリ以テ滿一升絲量ノ平均七
 匁ト仮定スレハ七百七十九匁百目ナリ之ヲ斤量ニ換
 算スレハ四百八十五斤ナリトナルニ因ニ十年後
 ノ産額ハ四百九百斤ナリ以テ額ナリ四百八十五斤

十三行

〇扣除スレハ三十一斤ノ餘額ヲ生ス以テ餘額ニ對スル
 原種ハ生絲産額ニ對シテ不足ヲ告レル兼用ナリ然レ
 トモ甚微弱ナル額ナレハ先ツ平均ヲ保テ居ルモノト
 見御シテ不可ナカレヘケン

廣島縣

全産

年次	産額	債額	買債額	製造家数	戸製造額
十不	四四七五	二二一八一	五一八		
十七	四四七五	二三四九四	五二五		
十八	一、二三八	一、五七四	五三一		
十九	一九〇〇	一、三四八三	六五七		
二十	二、六六九	一、六五七四	六三一	四四七	
二十一	三、四四四	一九〇八〇	五五四		

十三行

鹿嶋縣

本縣ノ製絲工場ハ明治十八年五月起業薩摩國鹿見場
師島庄町桑絲講習所ノ卒業製絲場ヲ以テ現在工場ノ
在キモノト不慮坂工場ハ縣立ニシテ地方ノ當業者ヲ
養成スルノ目的ニ出ツル者ナリ其他伊佐師出水師ニ
各一ヶ所ノ製絲工場アルノニ故三ヶ所製絲廠ハ百
八十五個ニシテ都テ製絲ナリ

就業日数ハ一ヶ年間ニ多キモノ百二十七日ナリ
五丁目ナリ又工女一人一日ノ操目ハ多キモノ、平均
八匁ニシテナリ又、平均ニ多クハ六匁四分ニ過キ
不足ノ者講習ノ目的トナシタリカ夫ナリハシ

産額ハ他ノ府縣ノ如キ増強ヲ見ス却テ退縮ノ状アリ
明治十六年ニハ四千四百七十五斤ナリシニ同二十年

ニハニ午六日六十九斤ニ減テセリ又價額ハ十三年ニ
二万三千八百八十一日ナリシニ同二十年ニハ一萬六千
五百七十四日ナリ是ニ由テ是ヲ見レハ産額ニ於テ一
千八百六十斤價額ニ於テ六千六百七十日ヲ減テシタル
モノナリ試ニ我邦ノ産額ヲ七等ニ區ケテ本縣ノ産額
ニ等級ヲ付スレハ四等ノ地位ヲ占ムヘシ乃チ海外輸
出産額最近年度ノ平均價格ニ同當シ百斤六日二十日
計ナレハ又百斤ノ製造入費ハ多クモ、九十日ナキ
モノ四十八日ナリ

茲ニ養蚕ト製絲トノ度合如何ヲ照査スルニ生絲ノ産
額ハ前ノ産額ヨリ劣レルモノ、但シ今之カ事實ヲ示
セハ明治二十年ノ蘭産額ハ十日三十七日ナリ其蘭一
斤綿量ヲ平均セタルトスレハ七日九十五日九日ナリ

十三行

之ヲ斤量ニ換算スレハ四百九日七十四日トナル其内
より同年度生絲ノ産額ニ千六百六十斤ヲ加算スレ
バ二千三百五十九斤ノ餘額ヲ見レハ此種餘額ニ對スルニ
料即チ前ハ養種トナリテ土地ノ需要ニ供スルモノト
見物ナレバ得ガレ統制ナリト云々額ニ就テハ疑ナキ
ニアラスト雖此ヲ勘察ノ調査ニ據レリ

GANSHODO SHOTEN
KANDA TOKYO
店書堂松殿

十三行

讀文公集卷之三
十三行

本書三割引買戻

此新形ツツク本（本誌）は、使用の古書類御讀了の節は、一ヶ月以内ならば、甚しき汚損なき限り三割引にて買戻しますから御用命下さい。

愛書愛蔵の御思召からして、くだらなく御座分なされて古書の運賃・検底・價格暴落の結果を齎さぬ最大且最良の^{方法}と存じます。

弊店店是として所謂古書の自給自足の精神から雑誌一品寫本一冊でも喜んで買入れまて何卒御愛顧の程を。

東京神田中線築町（電話九段四一三五番）

巖松堂書店古典部

波多野重太郎

昭和七年十月

日

東京大学経済学部図書館



5505395904